

# 香蘭女子短期大学 研究紀要 第66号

---

幼児美術教育に於ける観察・鑑賞活動の重要性 －保育園児のリングの描画活動を通して－	杉森 映徳	1
3DCG 講座の開講と今後の展望	須藤 信	12
野菜果実飲料中に含まれるビタミンCの分析	山口 孝治	16
課題解決型インターンシップ実践報告	井野智一郎	22
女子短期大学生のソーシャルサポート特性について	遠矢 幸子	30
玄米ペーストの活用	北原 勉	35
保育者の「言いにくいこと」に関する研究 －現職保育者と養成校学生を比較して－	濱田 尚志	44
アパレル企業の収益認識について －我が国の収益認識会計基準について－	青柳 薫子	53
農作物直売店における栄養活動について －利用顧客への栄養サポートの考察－	麻生 廣子	63
領域「人間関係」を体験的に学ぶ授業の試み	梅田 美穂	72
汎用的スキルの変化の測定と要因について	岩本久美子	82
教育実習事前事後指導における教材研究に関する取り組み	寺地亜衣子	92
不適切な保育の報道と情報が保育学生に及ぼす影響について	溝田めぐみ	102

---



# 幼児美術教育に於ける観察・鑑賞活動の重要性

－保育園児のリンゴの描画活動を通して－

The importance of observation and appreciation activities in early childhood art education  
－ Through the drawing of apples by nursery school children －

杉 森 映 徳

Eitoku SUGIMORI

保育学科 准教授

Associate Professor of Childhood Education

## 要約

本論では、楽しみながら絵画・造形活動を行う為、子ども達にどの様に絵画・造形活動に興味を持たせるかを考えながら、著者が絵画・造形指導を行っている保育園の子ども達を例に上げ、その活動内容と効果を解説する。子ども達にリンゴを良く観察させた上でクレパスで描写させ、「観察」しないで描画した作品と「観察」して描いた作品を比較し、「観察」すること及び他者の制作した作品を「鑑賞」することが如何に絵画・造形の指導上重要であるかを考察したい。また、その内容を保育者養成校の美術表現の授業に導入することで、将来、保育現場に指導者として立つ学生達にどの様に指導して行くかも併せて考えたい。

キーワード：保育者養成、幼児教育、美術教育、造形表現、絵画指導、造形指導、観察、鑑賞

## Summary

In this research, as an example, the author will show results from children at a nursery school where the author teaches painting and modeling to explain the content and effects of the activities, while considering how to get children interested in painting and modeling activities so that they can enjoy them.

The author will have the children observe an apple and then draw it with a crayon, comparing the work drawn without “observation” with the work drawn with “observation”, and will discuss how important it is to “observe” and “appreciate” the artworks created by others in teaching painting and modeling.

The author would also like to consider how we can introduce this content into art expression classes at schools for training childcare school students, and how we can also teach it to students who will become instructors in the field of childcare in the future.

Keywords: art education, childhood education, nursery teacher training, artistic expression, painting instruction, modeling instruction, observation, appreciation

## はじめに

日本人の多くは美術に対して苦手意識を抱えているように感じる。筆者の勤める保育者養成校でも入学後、最初の美術の授業に於いて、学生達に美術に対して苦手意識があるかどうかを質問すると8～9割の学生が苦手であると答える。その原因は特に幼少期に於ける美術教育が大きく影響をしているように感じる。多くは幼少期に親や教師、友人からの作品に対するコメントに傷付き、自分には美術の才能がないのだと決めつけている。美術教育に関わる者としても大変残念なことである。多くの人が作品をつくるのが苦手であれば美術作品を観ることに對してもある種の恐怖感を持ち、美術はよくわからないと始めから拒絶してしまう人も多い。美術とは表現の一つの手段であり、心を委縮させてしまうものではないはずである。幼少期の美術教育の在り方次第で創作活動のみでなく鑑賞の活動に對しても拒絶心を抱かせてしまうのは大きな問題である。例えば絵を描くことは苦手であっても、美術作品と触れ合い、鑑賞を楽しむことはできるはずである。

アメリカの幼児美術教育では授業の中で創作の時間と共に鑑賞の時間を十分に設ける。また、学外活動として美術館等に子ども達を引率し、学芸員などの専門家の説明等を聴けるように鑑賞ツアーを行うことも一般的である。その効果として「観る」ことに對する認識が日本とは大きく異なっている。作品をつくるのが苦手であったとしても美術館などで優れた作品を観ることを楽しむ人も多い。美術は作品を創作することのみが大切なのではなく、作品の鑑賞を通して芸術を「楽しむ」もしくは「理解する」ということもまた豊かな情操を養う上で重要なのである。

本論では美術の授業に於いて造形活動のみではなく観賞の能力を高める機会をつくることにより教育的にどのような効果があるのかを保育園の子ども達の造形活動を通して考察したい。また、保育者養成校の美術の授業にその成果をどの様に導入して行けば今後の美術教育の質を高めることができるかを検証したい。

## I 鑑賞の能力について

### 1. 美術作品の鑑賞について

1980年代、ニューヨーク近代美術館の研究を基に鑑賞についての研究がなされ、より良い鑑賞の方法が確立された。後に日本にも導入され、現在では多くの小学校でこの方法が取り入れられて授業の中に組み込まれている。作品を鑑賞して画面の中で「どこに注目したか？」また、「何が行われているか？」などの質問を子ども達に投げかける方法で、答えに正誤は求めない。本来、美術表現には正しい表現、もしくは間違った表現というものも存在せず、鑑賞する者がダイレクトに感じたことを素直に受け止めることが重要である。その中で時には制作者の立場に立って何を感じ、何を表そうとしたのかをイメージすることもまた鑑賞の意義を高める。美術に於ける絵画造形活動というと、創作することのみが際立ってしまい、ものをつくる行為とつくられたものを注意深く観る、鑑賞の活動が車の両輪となって心を豊かに養うという意義が忘れられがちである。日本の幼児教育の現状を考えると、つくりにばかりに重点を置いてしまい、観て学ぶという鑑賞の活動が軽視されているように感じる。著者はニューヨークの幼稚園を訪問し美術の授業を参観したが、作品をつくる時間以上に鑑賞の時間をとっていたことが大変興味深かった。現地の教師にその意義を尋ねると、つくることが得意な子どもと観ることから学びを深める子どもがおり、その両方に美術の内在的なセンスを見ることができるといった話であった。確かにつくることが得意である子どもとそうでない子どもがいるには違いなく、ものをつくるのが苦手であったとしても、美術的センスが低いとは言えない。つくることが苦手であっても、観る力を高め審美眼を養うことは可能であろう。鑑賞の活動を通して美術作品の素晴らしい要素を見出し、理解を深めることが審美眼を高めることにつながり、美術自体を楽しむことができるようになる。そう考えると日本の子ども達には、観ることを楽しむ機会が不足しているように感じた。

## 2. 幼児期に於ける鑑賞時間の重要性

5歳時になると、それまでの個人的で自己中心的なものの見方から、友人達の作品からの影響を受けるなど外界からの刺激を受けつつ協調性を持って創作活動に取り組むことができるようになってくる。つまり、友人の作品を鑑賞することにより、自分とは異なる他者の作品との比較を通して、自分自身の作品を見つめることができるようになるのである。その中で、自分自身の作品に足りないものを補い、工夫を凝らして作品のレベルを上げることができるようになる。作品のみに限らず、自然界の多くの色や形に気付く力など、ものを意識してしっかりと見つめることにより、情報を収集し様々な事柄に気付く力を養うことができるのである。この点からも、幼少期にできるだけしっかりと対象についてその特性を見出す「観る力」を養う為にも、美術の授業時間に於いても鑑賞の時間を十分に設定することが重要である。

## 3. 養成校に於ける授業の現状

養成校の美術の授業時間に於いては、それぞれの課題に即して制作時間を設定しているが、鑑賞の時間を十分に取ることが困難な現状である。それぞれの課題が終了した時点で、出来上がった作品を学生同士で批評し合う時間を取ってはいるものの、それ自体がどのように保育の実践現場で活かされるかという点を指導することは難しかった。したがって、著者は学生達に保育園ではどのように子ども達に助言、指導を行っているかを現場での指導風景の写真や動画を大学の授業中に紹介しながら説明している。これにより自分達が現在学んでいることがどのように実践現場とリンクしているのかを把握することが可能となり、学生の授業中の学びの姿勢も向上している。そこで今回は実際に著者が保育園に於いて指導した内容を基に観察・鑑賞することの重要性を考察したい。

## II 保育園5歳児の絵画活動

### 1. 描写対象の観察

絵画制作に於いてモチーフを描写する場合、モチーフをしっかりと認識し、その形や色合いを的確に描くことが重要である。これは幼児の絵画・造形活動に於いても同様である。5歳時の場合、指先の運動能力が発達してはいるものの、適格な線で描写することは未だ困難であり、小学生がモチーフを描く場合と比較すれば、写実性はまだ低い状況である。しかしながら、モチーフとなるものをしっかりと観察して描画する場合とモチーフを観ずにイメージのみで描く場合とでは、何かしらの差が見られるはずである。この相違を確認するために今回の絵画活動では絵本の読み聞かせから導入してイメージのみでリングを描かせる場合と、しっかりとモチーフを観察した上で描画させる場合の二通りの方法で、子ども達に絵を描かせることによりその差を確認することとした。

### 2. クレパスによる対象の描写工程

今回の活動では5歳児を対象にリングをモチーフとし、2種類の方法でクレパスでの描写を下記の手順で行った。

(1)

- ① リングが出てくる物語を読み聞かせる。
- ② イメージのみでリングを描画させる。

(2)

- ① 実物のリングを様々な形にカットし十分に観察する時間を取る。
- ② 観察後、実際のリングを鑑賞しながらクレパスで描画する。

今回の絵画のモチーフはリングとした。観察した上で描写した場合にどの程度効果があるかを判断するため、比較の材料としてリング自体は見せずに、リングが登場する本を読み聞かせた後に子ども達に

リンゴを描かせた。

子ども達が実際のリンゴを観ずに描いた作品が(写真1)のようなものである。



(写真1) モチーフを観察せずに描いたリンゴ

(3)

続いて数日空けて、今度は子ども達にしっかりとリンゴを観察させた上で描写させた。

先ず著者が子ども達の前でリンゴの側面や上面、底面などを丁寧に観察し、子ども達にも同様にしっかりと対象を観る様に促した。(写真2)

更に、いくつかのリンゴを縦、横、斜めなどに包丁でカットし、それぞれの色や形に注目させた。次いで、リンゴの香りや肌触りなど、五感を使って得られる情報を最大限に収集する様に促した。この様に十分にリンゴを観察した上でクレパスで描写させた作品が写真のようなものである。(写真3)

比較してみると、実物のリンゴを観ずに描いた作品は一般的なリンゴのイメージのごくありふれた形と色で描かれており、殆どの子どもが同様の形と色合いで描いていた。

しかしながら、しっかりと対象となるリンゴを観察した後に描いた作品は形も色も様々であり、特に色については、赤一色から何色も使ったカラフルなリンゴとなっているものもあった。



(写真2) リンゴの観察



(写真3) 観察後に描いたリンゴ  
読み聞かせ後の作品<左>



観察後の作品<右>



### 3. 作品鑑賞の様子

子ども達をグループに分け、それぞれの場所にリングを設置し描写させた。リングはそのままのものと様々な形にカットしたものをそれぞれのグループの真ん中に置き、子ども達にはモチーフの色や形をしっかりと観ながら自由に描くように促した。制作に入ると、子ども達はこれまでに描いていたリングとは異なり、多くの色を使いながら楽しく描き始めた。特にリングを様々な形にカットしたもので、リングを輪切りにした中心の芯の部分の星形に興味を持ち、通常とは異なるカットの仕方から見られる特異な形の面白さを発見していた。更に、色彩に関してもリングのヘタの部分に黄色や薄緑色など、様々な色合いが見られることを発見し、子ども達同士で意見を出し合いながら多くのことに気付くことができたこと自体を喜んでいる様子であった。これらの発見した要素を自分達なりに作品に取り入れながら、子どもそれぞれの特性が発揮された作品に仕上がっていた。

また、制作中も隣にいる子どもや同じグループの子どもの作品から、自分の作品とは違う要素を発見すると、自分の作品にもそれを真似して取り入れ、更なる工夫を凝らして創作している様子が伺えた。この点に於いても、自然に近く子ども達同士で作品を鑑賞し合うことにより、自分自身では発想できない要素を取り入れるという、それぞれにとっての発展形となる作品に仕上げている様である。通常のリングのカットの仕方のみではなく、輪切りや、垂直、斜めにカットするなど、様々な形にモチーフを分割することによって新たな形に対する発見があり、そのこと自体で子ども達には発見する喜びがあったようである。そのモチベーションが創作にも活かされ、通常よりもダイナミックな雰囲気作品にエネルギーが注がれていくように感じた。更に、色彩についても、通常は赤色のみで着彩するところを発見した色合いから受けた印象を作品に取り入れ、大変カラフルな作品となっていた。僅かな発見でも、友達同士で気付きをシェアすることによって大きな変化を作品に与えているようであり、大変興味深い結果となった。また、友達の作品を鑑賞することを求めると、他者の作品の興味深い点など、自身の作品にはない気に入った点を真似しながら作品に取り入れ、満足行くまで描いていた。作品制作の工程の中で他者の作品を鑑賞しながら、良いと感じる点を自身の作品に取り入れつつ、モチーフを観察してしっかりと「観る」ということが、作品制作に大きな影響を与えることがわかった。

## Ⅲ 実践結果

### 1. 作品の比較

結果的に(1)の作品は一般的なイラストなどで見られるような、リングの形や色合いをイメージして描かれている作品が殆どであった。今回読み聞かせた絵本は、日本でも大変人気の高いエリック・カールの「はらぺこあおむし」(写真4)である。子ども達は「はらぺこあおむし」の絵本に登場するリングを当然見たことがあるために、そこに登場するリングのイメージが描いた対象に大きく影響を与えている。また、もっぱら保育園や幼稚園では、リングのイメージをイラストとして教室に掲示することも多く、子ども達の多くは掲示されているリングの絵にもかなり大きく影響を受けていることが推察される。このように、日々の環境から影響を受け、既にリングという果物の絵画的なイメージが刷り込まれているように思われる。





(写真4) はらべこあおむし エリック・カール作

## 2. 描画対象の捉え方

通常リンゴをモチーフとして描く場合、正面から描くことが一般的である。しかしながら、今回のようにリンゴを様々な形にカットすることで、リンゴという物体の見え方が様々に変化する。この違いを子ども達は敏感に感じ取り、カットされたモチーフからの情報をしっかりと確認し、正面からだけではなくリンゴの上面やカットされた部分の色や形を描写していた。これは、子ども達にモチーフに対する大きな気付きがあったことを証明している。一般的なリンゴのイメージだけではなく、その見え方のそれぞれから確認できた情報を的確に認識した上で描写しており、ものを見方を変化させることにより、色や形に対する判断材料が多く得られたことが明確である。このような一般的なものの見方のみではなく、様々な方向性を持ってモチーフに向き合うということ自体が子ども達にとっては大変多くの学びに結びついているということを物語っている。これは子どもの発達段階に於いて大変有意義な効果を得られるといえる結果であろう。

## 3. 鑑賞活動の作品への影響・効果

今回の実践結果により、モチーフを観察し、形や色を発見するということが子ども達の作品に大きく影響を与えることは前述したとおりである。何か描写するということに関して、まずは描く対象をしっかりと「観る」という力が大変重要となることがわかった。このことを意識してしっかりと子ども達に動機付けをし、指導することが保育現場の指導者に求められる。身近なものをモチーフとしても、その形や色彩に意識が行くように指導すれば、子ども達はしっかりと発見したことを作品に活かすことができる。著者がニューヨークの幼稚園を訪問した際、その授業の中でピカソの作品(写真5)を子ども達に見せた上で友人の顔を描かせるといった制作をしていた。その折に制作していた作品が(写真6)の様なものである。人物の顔が様々な色合いで描かれ、ピカソの作品に影響されていることが明確である。ただ、上手に描かせるというのではなく、友達の顔の形や肌の色をしっかりと認識させ、その情報を基に子ども達が思う様に自由に描いて良いのだという認識をさせるためにも、ピカソの絵を鑑賞するという方法は大変面白いと感じた。もちろん、ピカソの作品に影響されることが良いというわけではないが、自分自身の表現が自由であって良いという概念を、子ども達の心に抱かせることが彼らに豊かな発想をもたらすということはいままでもない。この様に、何よりも自由に制作することができるということを子ども達に理解させるように指導していくことが指導者にとって肝要である。その幼稚園ではピカソだけではなく様々な著名な作家の作品を提示し、その作品の長所やオリジナリティーを説明した上で、子ども達それぞれが自分自身の気に入った特性を学び取り作品に活かすことができるように促していた。日本の幼児教育に於いても様々な表現手法があり、自由に描くことができるということを、何よりも先に子ども達に意識させることが肝要であるように思う。友人の作品の中からも、様々な要素を学び取り、自分自身の作品に活かしていくということがオリジナリティーあふれる作品へと繋がる第一歩といえよう。



(写真5) 子ども達に見せたピカソ絵画  
「泣く女」1937年 画像出展 <http://art-picasso.com/>





(写真6)ピカソの絵画鑑賞後に描いた絵

#### IV 養成校に於ける講義と課題

##### 1. 保育実践現場の活動内容の授業への導入

造形表現の授業の中で最初の15分程度著者が保育園で行っている絵画・造形活動の内容を写真や動画で学生達に紹介する時間をとっている。養成校で学ぶ学生達は高校までに美術の授業を受講している学生は殆どおらず、その為、大学で学んだ内容をどのように実践現場で活かすことができるかということに対して疑問を持っている学生が少なくない。従って、授業で学んだ内容を保育現場での活動に結びつけることが学生達の美術に対する学びを深める基盤となってくる。授業中に制作する作品の美術的なクオリティーを向上させるということよりはむしろ、如何に保育現場に於いて子ども達に生き生きとものを作らせるための指導ができるように指導方法を獲得するかが大切な主題であり、その為にも現場での指導内容と状況をしっかりと把握することが肝要となってくる。実際に授業中に行った授業改善アンケートにも、実践現場での活動内容を写真や動画で知るとは現在大学の授業で学んでいることに対する学習意欲を高めるといふ回答が多く得られている。学生達は授業で学んだ学習内容がどのように実践現場で活かされるのかということに興味を持っており、その点を明らかにすることにより一層学習に対するモチベーションが向上するといえよう。先に述べた、リンゴの描写についてもその内容を大学の授業で紹介し、学生達に事細かに状況解説を行った。その結果、子ども達がリンゴの観察を行うという単純な行為が大きく作品に影響を与えるという結果に大きな興味を持ち驚きもあったようである。リンゴの観察は大人に比較して、子どもはある事象に対して興味を持った際には結果に大きな影響を及ぼすという一例であり、改めて学生達は子ども達のモチーフの観察からの気づきがどれほど大きく学習内容に効果を示すかという結果に驚いていた。この点からも実践現場の状況を授業の中で紹介することは大変有意義であるといえよう。

##### 2. 作品鑑賞と創作

以上のように保育の実践現場に於いて、子ども達がリンゴの観察から多くの気づきを得た効果により作品に変化が見られたという結果を踏まえ、学生達にはものをしっかりと「観る」ことの重要性を認識させることができた。また、観察のみならず、他者の作品を鑑賞することにより、自身の作品との相違点を発見し、その良い点や興味深い点を改めて自身の作品に工夫を凝らしながら取り入れることにより、作品の質を向上させていくことができるという「鑑賞」活動の重要性もまた認識させることができた。養成校の



授業の中で実践現場の活動内容の紹介と合わせ、他者の作品を観るという鑑賞活動の時間を十分に取ることが学生の鑑賞の能力を高めることに繋がり、引いては保育現場に於いて指導する立場となった際には子ども達への絵画・造形活動と共に鑑賞活動の指導ができるようになるはずである。従って、養成校の造形表現の授業に於いては学生達に制作課題を与えることは勿論ではあるが、保育現場での活動と如何にリンクさせて指導を行うか、また、どの様に効果的に鑑賞活動の時間を取り実践するかが課題である。

### 3. ポートフォリオと振り返りの重要性

造形表現の授業の中で配布資料と併せ、保育現場での実践例の紹介等について学生達にメモを取らせ、気付いた点やコメント等を記述させている。また、作品制作途中の写真と併せて工夫点や感想も記入させ、ポートフォリオとしてまとめさせている。授業を進めて行く中で重要となる点を学生の視点で考えさせ記録していくことは、後に保育の実践現場に保育者として立った際にどの様に学生時代に学んだことを子ども達に指導していくかのテキストとなる。受け身の姿勢で学んだことよりも自分自身で主体的に学習し、その時々で何を考え、どの様なことに疑問を持ったかという事を記録しておくことは現実的な場面で非常に役に立つ。記録していたことを見返し、学んだ事柄を振り返ることで、改めてその時々で有効な指導法を導き出すことができよう。この様な思いから学生達にポートフォリオを作成させている。勿論、保育現場に於いて即活用できそうな技法等も併せまとめさせているが、学んだ技法等を具体的にどのように活用するかを制作の経過を写真に撮らせて分かりやすくまとめさせることが重要である。一度学んだ技法等を実際に使ってみながら作品を制作し、その過程を振り返ってより良く改善しながら往還的に学習していくことが肝要である。生涯を通して保育現場で活用できる自分自身のポートフォリオという教科書を作成することで保育の質を向上させることを期待している。

## おわりに

今回、「観察」、「鑑賞」の活動がどれほど子ども達の描画活動に影響を与えるかを考察した。結果的に観察により得られた気付きを作品に取り入れ、大きく描画に反映させることがわかった。これは絵画造形の時間に限らず、日常の様々な場面に於いても同様であり、子ども達の成長のベースとなる。散歩時に見つけた落ち葉や木の実からでさえも様々な情報を獲得し、自然の生み出す色や形の美しさに気付きを得られるはずである。自然界からの多くの情報に対する気付きが自ずと自然の豊かさや美しさへの思いを抱かせる要因となり美意識を高める。美意識を高めた豊かな心の育成こそが人間的な成長の基盤となる最も重要なことであると考え。すべての人間が自分自身も自然界の一部であり、自も他もなく生きとし生けるもの全てが皆同一体という意識を持ち、自然界の美しさに気付く美意識を高めれば人間のエゴから派生する自然破壊や戦争など醜く悲惨な事象は回避できるはずである。将来的に平和でより良い社会を築くためにも、幼い頃から色や形をはじめとして多くの事柄に目を向け、先ず気付くことができるように保育者はじめ周りの大人が意識して子ども達の成長を援助することが肝要である。筆者も先ず学生達に考察結果を伝えながら、保育現場に立った際には子ども達に多くの気付きを獲得させることができる保育者となって貰えるように尽力したいと思う。

## 参考文献

- ・フレーベル 人の教育 小原 国芳 訳 玉川大学出版部 1950
- ・モンテッソーリ教育の精神 クラウス・ルーメル 著 学苑社 2004
- ・モンテッソーリ児童期から思春期へ マリア・モンテッソーリ 著 K・ルーメル、江島 正子 訳 玉川大学出版部 1997
- ・0歳から7歳までのシュタイナー教育 堀内 節子 著 Gakken 2000

- ・遊びが子どもを育てる フレーベルの〈幼稚園〉と〈教育遊具〉 マルギッタ・ロックシュタイン 著  
小笠原 道雄 監訳 木内 陽一 松村 央子 訳 福村出版 2014
- ・現場の為のモンテッソーリ教育の実践 林 信二郎 編 あすなろ書房 1981
- ・ここがポイント！3法令ガイドブック 無藤 隆、汐見 稔幸、砂上 史子 著 フレーベル館 2017
- ・児童画の秘密 浅利 篤 著 株式会社 黎明書房 1974
- ・答えは子どもの絵の中に 色で読む子どもの心と才能 末永 蒼生 著 講談社 2000
- ・幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材 樋口 一成 著 萌文書林 2018
- ・幼児の造形表現 渡辺 一洋 著 みなみ書房 2015
- ・新造形表現 理論・実践編 花篤 實、岡田 愨吾 著 三晃書房 2009

## 謝辞

本論文に於いてご協力頂いた皆様、社会福祉法人香蘭育成会しおばる保育園、及び参考作品の提供を下された皆様に心より感謝致します。



# 3DCG 講座の開講と今後の展望

Launching a 3D Computer Graphics Course and Its Future Prospects

須 藤 信

Makoto SUDO

ライフプランニング総合学科 講師

## 概要

本稿では、香蘭女子短期大学ライフプランニング総合学科 CG・Web デザインメジャーの学びに試験的に3DCGの学び(3DCG 講座)を導入して、その有効性を検討した。「3DCG 講座」では、全12コマで3DCGの基礎的な知識・技術を指導した。結果として2名の学生が講座の到達目標である3DCGの基礎的な技術を修得し、講座開講がCG制作の技術向上に有効であることが示唆された。

キーワード：3DCG、CG教育、短期大学

## 1. はじめに

香蘭女子短期大学ライフプランニング総合学科では、7つのメジャー(一般事務、医療事務、観光、ブライダル、ファッション・ビューティー、インテリア、CG・Webデザイン)があり、学生は1年生の前期中に自身が所属するメジャーを選択する。筆者が担当しているCG・Webデザインメジャーは、CGとWebを学ぶ専攻として2023年度は1年生14名、2年生16名の計30名の学生が在籍している。メジャーで開講されている科目は、主としてCGを学ぶ科目(以降は単に「CG系科目」と記載する)「CG演習A」「CG演習B」「CGデザイン演習I」「CGデザイン演習II」と、主としてWebを学ぶ科目「Webデザイン論」「Webクリエイト演習」「Webプログラミング演習」の7科目である。いずれの科目も実技を主体としており、デザイン分野で職務経験のある講師が実践的な技術を指導する。

## 2. 問題と目的

CG・Webデザインメジャーで開講されるCG系科目では、Adobe Illustrator, Adobe Photoshopの使い方を中心に2DCGの学びが展開され、名刺やポスター、雑誌、パッケージデザインなどの幅広いデザインを扱う。一方で2DCGの学びは充実しているが、「CG」という言葉の性質上CGを学ぶということは3DCGの学びも含まれると考えるが、現状では3DCGを学べないカリキュラムとなっている。そこで、3DCGの学びを導入してその有効性を検討することとした。

## 3. 方法

3DCG作成ソフトウェアであるAutodesk社のMaya 2023を用いて、全12コマの3Dモデリング授業を実施した(表1)。本講座の到達目標は、3DCGを利活用するための基礎的な知識と技術修得ならびにCGク

リエイター検定に関する知識修得とした。なお、本稿における3DCGの基礎的な技術とは、仮想の部屋やそこに存在する机や椅子などのオブジェクトをそれと分かる程度に作成することができ、テクスチャリング、ライティング、レンダリングなどを施して2次元画像として出力できる能力とする。3DCGの基礎的な知識とは、CGクリエイター検定ベーシックに出題されるような知識を想定し、同検定を受験した場合に40～50点程度の知識が身についた状態とする。

表1 3DCG 講座の内容

講座回	内容
1	Mayaの基本操作
2	ポリゴンモデリング1(基本形状の作成・編集)
3	ポリゴンモデリング2(押し出しと頂点移動)
4	ポリゴンモデリング3(様々なオブジェクトの作成)
5	キャラクターモデリング1(イメージプレーン、インスタンス)
6	キャラクターモデリング2(マージ、仕上げ作業)
7	テクスチャマッピング(平面マップ、自動マップ)
8	高度なレンダリング手法(Androidレンダラ)
9	アニメーション1(デフォーマ、物理シミュレーション)
10	アニメーション2(リギング)
11	部屋のモデリング1
12	部屋のモデリング2

### 3. 1. 受講者

受講者については、1年生は必修授業にて口頭で募集し、2年生は学内メールで募集した。その結果、1年生6名、2年生6名の計12名が受講を希望したため、全員を受け入れた。2年生の受講者はいずれもCG・Webデザインメジャーに所属している学生であり、1年生も所属を希望する学生であった。

### 3. 2. 実施情報

2023年4月から2023年7月の毎週火曜日4時間目に計12回(1回あたり90分)実施した。なお、開講時間が学内の説明会などと重複する場合は休講とした。講座では、教員(筆者)のモデリング作業が中間モニタを介してリアルタイムで映された。受講者は教員の作業を参考にしながら、実施回ごとに設定されているモデリング課題を進めていった。

## 4. 結果

当初12名で開始した講座であったが、徐々に受講者が減り最終的には6名程度が12回までの受講を終え、最終課題を無事に提出できた学生は2名(どちらも1年生)であった。最終課題では、特定の空間とオブジェクト2点以上を制作させた。加えて、制作したオブジェクトのマテリアル、テクスチャの設定と空間全体のライティング設定を条件として課し、レンダリングイメージを提出させた。2名の最終課題の提出物は図1のとおりである。

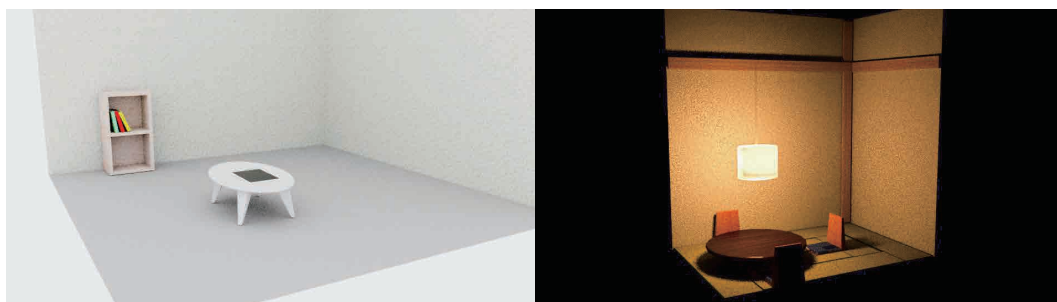


図1 左) 学生1の最終課題の提出物 右) 学生2の最終課題の提出物(両作品とも掲載許諾済)

## 5. 考察

### 5. 1. 受講者の達成度

学生1、2の提出物は、いずれも提出条件をクリアしている。このことから、講座で取り扱ったCG技術を最低限理解していると考えられる。残りの10名については、最終課題を提出していないために不明である。知識面の達成度については、今後受講者がCGクリエイター検定を受験するために現時点では明らかではない。

### 5. 2. 本講座の有効性と限界

本講座の実施によって、少なくとも2名の学生は最低限の3DCG作成技術を修得した。このことから、3DCG講座の開講は学生の3DCG技術の向上に有効であると考えられる。加えて、本講座受講生の内3名は小学生を対象にした3DCGモデリング・体験講座「オリジナル3DCGモデルを自分のカラダから発射しよう！」に補佐指導員として参加した。学生は本講座の受講によってCG技術を修得して、公開講座で補佐的な指導をできるようになったと考えられる。3DCGの学びが今後の活動に活かされていく可能性が残されているために、今後1年間程度は受講者とコミュニケーションを取りながら有効性を精査していく必要がある。

一方で全員が課題を提出していないために、受講者がどの程度の達成度であるかを把握することは難しかった。授業ではなくあくまで「講座」であるために強制することが困難であることから、今後は知識面の達成度をふまえた上で有効性を明らかにして、一定程度の結果が得られれば授業化を検討したいと考えている。また、本講座は建設的なCG教育を実施する上で必要と考えるが、CG・Webデザインメジャーのカリキュラムと綿密に連携できているとは言い難い。今後は、メジャーとしての方向性を確立した上で、学びがより有効となるようにその他の科目についても再検討する必要があると考えている。筆者は前々任校である久留米工科大学工学部情報ネットワーク工学科においてCGコンテンツ制作団体「Picture」を組織して、CGコンテンツ制作活動を活性化させた経験がある [1]。今後は、組織化して活動を活性化させるという方法もあるが、現時点では活動環境(活動場所や活動時間、機材など)の関係から難しいと考えている。

## 6. 結論

本稿では、現状2DCGの学びにとどまっているライフプランニング総合学科CG・Webデザインメジャーの学びに、試験的に3DCGの学びを導入して有効性を検討した。結果として2名の学生が講座の到達目標である3DCGの基礎的な技術を修得し、講座開講がCG制作の技術向上に有効であることが示唆された。CGの知識面の達成度については、今後検証する必要があると考えている。

## 参考文献

- [1] 須藤信. 授業時間外の学びを支援する「Picture 塾」の取組と成果（- 情報ネットワーク工学科における基礎技術の獲得 -）. 久留米工業大学研究報告. 2017, 1 (40) , p. 69-74.

## 野菜果実飲料中に含まれるビタミンCの分析

Quantitative analysis of vitamin C in fruit and vegetable beverages

山口 孝 治

Takayoshi YAMAGUCHI

食物栄養学科 准教授

### 概要

ビタミンC (VC) は食品に含まれるアスコルビン酸オキシターゼによって、還元型から酸化型へと変化する。また、光や熱、酸といった物理的な刺激によっても分解される安定性の低いビタミンの一つである。市販されている野菜果実飲料は、加工段階で野菜や果実のペースト化や加熱処理を行うため、ほとんどのVCが酸化や分解されていることが予測される。本研究では、16種類の野菜果実飲料について、VC総量と還元型・酸化型の割合をヒドラジン法によって調べた。

VC量が表示されている8種類のサンプルのVC総量は表示値と同等であり、そのほとんどが還元型VCであった。一方でVC量が表示されていない8種類のサンプルのVC総量は10 mg/100 ml以下であった。また、VCは25℃での放置によって、経時的酸化が進んだことから、野菜果実飲料中のVCは不適切な保存方法によって酸化や分解がおこることが示唆された。本研究の結果から、野菜果実飲料を摂取する場合は、VC含量だけでなく、保存方法についても注意する必要があると考えられる。

### Summary

Vitamin C (VC) changes from reduced to its oxidized form owing to physical stimuli such as light, heat, and acid or because of ascorbic acid oxidase present in food. It is predicted that VC in fruit and vegetable beverages is oxidized and degraded because the vegetables are made into paste and subjected to heat treatment during the processing stage. This study examined the total amount of VC and the ratio of reduced VC to oxidized VC in 16 types of fruit and vegetable beverages using the hydrazine method.

Of the 16 fruit and vegetable beverages examined in this study, eight displayed the VC content on the package; the total amount of VC measured in these beverages was equivalent to the indicated value, and most of the eight samples contained reduced VC. In contrast, in the eight samples for which the amount of VC was not displayed, the total amount of VC was 10 mg/100 ml or less. Furthermore, it was revealed that VC in the fruit and vegetable beverages was oxidized with time when stored at 25°C. These results suggest that, when consuming fruit and vegetable beverages, it may be necessary to consider not only the VC content but also the preservation method.

Keywords: vitamin C, fruit and vegetable beverages, oxidation



## 緒言

ビタミンC (以下 VC) は壊血病予防因子として発見されて以降、抗酸化作用、コラーゲン生合成、抗腫瘍効果など様々な作用が報告されている<sup>(1-5)</sup>。一方で、VCは安定性の低いビタミンであり、アスコルビン酸オキシターゼによって還元型から酸化型へと酸化され、さらに反応が進めば、活性のないジケトL-グルロン酸と変化し、最終的にシュウ酸へとなる<sup>(6)</sup>。また、VCは酸によっても分解されるため、クエン酸などの酸を多く含む柑橘系の果汁が含まれている場合には、非酸化的分解によってVC活性のないフルフラールへと分解が起こる<sup>(7)</sup>。現在、酸化されにくい安定型のVC誘導体(AA-2G)が開発されており<sup>(7,8,9)</sup>、このようなVC誘導体は天然のVCよりも安定性が高いだけでなく、長期間血中に残存すること、また、VCによる免疫増強作用を促進することが報告されていることから、栄養素としてだけでなく様々な可能性が期待されている。

VCは野菜や果物に含まれるが、光や熱、酸といった物理的な刺激には非常に不安定な成分であるため、加熱調理の工程で酸化型の割合が増加することが報告されている<sup>(10,11)</sup>。また、野菜類にはアスコルビン酸オキシターゼ活性を持つものがあり、カイワレ大根やショウガ、ニンジンのアスコルビン酸オキシターゼ活性は他の野菜類と比較して高く、特にキュウリとカボチャは著しく高いことが明らかになっている<sup>(12)</sup>。林らは野菜を8℃で24時間放置した場合、アスコルビン酸オキシターゼ活性のない野菜類では約90%のビタミンCが還元型として残存するが、活性の高いニンジンや春菊では調整段階で約20-23%が酸化型となっており、24時間ではすべてのビタミンCが酸化型となることを報告している<sup>(7)</sup>。このように、アスコルビン酸オキシターゼ活性の高い野菜では、ビタミンCの酸化が速いだけでなく、他の食品に含まれるビタミンCも酸化されるため、調理や保存の際は注意が必要である。

近年、手軽に飲むことができる野菜果実飲料で野菜の摂取不足を補う人が多い。しかし、野菜果実飲料中のVCは、アスコルビン酸オキシターゼや加熱処理によって、野菜や果物由来のVCのほとんどが酸化分解されていると考えられている。一方で、野菜果実飲料に含まれるVC量や酸化型・還元型の割合については報告されていないため、実際に製造過程でVCがどの程度酸化や分解されるかは不明である。本研究では16種類の野菜果実飲料について、VC総量と酸化型、還元型VC割合をヒドラジン法によって調べた。

## 実験方法

### 試料回収

各野菜ジュースを、5%メタリン酸で適当な濃度に希釈したのち、希釈液を5000rpm、4℃、10分間遠心分離し、その上澄みを試料溶液として用いた。

時間経過による酸化型ビタミンC定量では、ピーカーに移した野菜ジュースを4℃もしくは25℃で攪拌し、0、3、6、24時間後に回収後、遠心分離を行った上澄みを試料溶液とした。

### ビタミンCの定量

ビタミンCの定量は、ヒドラジン法を用いた。総ビタミンC定量用、酸化型ビタミンC定量用、空試験用に25ml栓付き試験管を準備し、それぞれ2mlずつ試料溶液を加えた。総ビタミンC定量用の試験管には0.2%ジクロロインドフェノールを2、3滴添加し、1分間程度赤色が残ることを確認した。すべての試験管に2%チオ尿素溶液/5%メタリン酸を2ml添加し、さらに2%ヒドラジン溶液を1mlを添加し、良く混和した後、50℃で1.5時間反応させた。反応液を30分間氷冷し、85%硫酸溶液を添加し、混和した。空試験用の試験管には、この時点で2%ヒドラジン溶液を1mlを添加し、良く混和した。室温で30分放置後、540nmで吸光度を測定した。検量線作成には、試料溶液の代わりに標準総ビタミンC溶液(L-アスコルビン酸溶液)を用いて、同様の操作を行った。

## 結果

調査した野菜果実飲料については、VC量が表示されているもの、非表示のものそれぞれ8種類を用いた(表1)。前者の8種類については、原材料名の中にVCが記載されていたため、栄養成分としてだけではなく、酸化防止剤としてVCが添加されていることが考えられる。また、サンプルNo.4にのみ、栄養機能食品としてビタミンCを使用している旨が記載されていた。

Table 1. 使用した野菜ジュースの種類と性質

Sample No.	品名	食品数	
		野菜	果物
1	野菜混合飲料	28	1
2	野菜・果実ミックスジュース	21	7
3	果実ミックスジュース	20	3
4	野菜・果実混合飲料	20	1
5	野菜・果実ミックスジュース	9	3
6	野菜・果実ミックス飲料	9	5
7	野菜・果実ミックスジュース	22	3
8	野菜・果実ミックス濃縮ジュース	15	6
9	野菜・果実混合飲料	22	4
10	トマトミックスジュース	32	0
11	野菜・果実ミックスジュース	21	3
12	野菜ミックスジュース	15	0
13	野菜ミックス濃縮ジュース	30	0
14	トマトミックスジュース	48	0
15	野菜・果実ミックス飲料	10	2
16	野菜・果実混合飲料	30	4

VC量が表示されている8種類のサンプルの総VC量について測定したところ、これらのVC量は、パッケージに表示されている値の範囲、もしくはそれ以上であった(表2)。また、これらのサンプルでは、還元型VCの割合が77.6%から100%であり、ほとんどが還元型であることが明らかとなった。次にVC量が表示されていない8種類のサンプルのVC量を測定したところ、表2のVC量が表示されているサンプルと比較して明らかに低い値を示した(表3)。

Table 2. ビタミンC量が表示されている野菜ジュースのビタミンC含有量

Sample No.	ビタミンC (mg/100ml)			
	総量	還元型	酸化型	表示量
1	45.2 ± 0.6	43.7 ± 1.0 (96.7)	1.5 ± 0.4 (3.3)	30-77.5
2	548.7 ± 1.2	548.2 ± 0.8 (99.9)	0.5 ± 0.4 (0.1)	500
3	39.1 ± 0.5	38.9 ± 0.5 (99.5)	0.2 ± 0.0 (0.5)	17.5-70
4	71.5 ± 0.7	69.7 ± 0.9 (97.5)	1.8 ± 0.2 (2.5)	50-115
5	51.1 ± 0.0	50.7 ± 0.3 (99.2)	0.4 ± 0.2 (0.8)	50
6	63.7 ± 0.6	52.2 ± 0.2 (77.6)	11.5 ± 0.5 (22.4)	56-208
7	105.5 ± 1.0	105.5 ± 1.0 (100.0)	0 (0.0)	25-118
8	54.1 ± 0.2	54.1 ± 0.2 (100.0)	0 (0.0)	30-94

平均値 ± 標準偏差 (n=3)

( ) 内はVC総量に対する割合 (%)

Table3. ビタミンC量が表示されていない野菜ジュースのビタミンC含有量

Sample No.	ビタミンC (mg/100ml)		
	総量	還元型	酸化型
9	1.9 ± 0.1	1.1 ± 0.2 (57.9)	0.8 ± 0.2 (42.1)
10	2.2 ± 0.2	1.6 ± 0.1 (72.7)	0.6 ± 0.1 (27.3)
11	1.5 ± 0.2	1.4 ± 0.3 (93.3)	0.1 ± 0.1 (6.7)
12	0.3 ± 0.2	0.3 ± 0.2 (100.0)	0 (0.0)
13	5.3 ± 0.2	5.3 ± 0.2 (100.0)	0 (0.0)
14	0.6 ± 0.4	0.6 ± 0.4 (100.0)	0 (0.0)
15	0.9 ± 0.1	0.9 ± 0.1 (100.0)	0 (0.0)
16	3.8 ± 0.2	3.6 ± 0.3 (94.7)	0.2 ± 0.0 (5.3)

平均値 ± 標準偏差 (n=3)

( )内はVC総量に対する割合 (%)

VCは酸化や分解を受けやすいビタミンのため、野菜ジュースに含まれるVCも開封後に酸化される可能性が考えられる<sup>(10,11,12)</sup>。次にNo.1、2の試料を用いて、4℃もしくは25℃で保存した場合の、還元型と酸化型VCの割合の変化を調べた。サンプルNo.1の酸化型VCの割合は、4℃で保存した場合、3時間後で約5%、6時間で10%、24時間後では30%となり、25℃で保存した場合には、3時間後で約25%、6時間後で40%、24時間後では100%のVCが酸化型となった(図1A、B)。一方で、サンプルNo.1の約10倍のVCが含まれているサンプルNo.2では、4℃で保存した場合、24時間後でも酸化型VCの割合は1%以下であり、25℃で保存した場合の酸化型VCの割合は、6時間後で約1%、24時間後で約10%であった(図1C、D)。この差に関しては、サンプルNo.2のVC量がNo.1に比べて多いため、同様の速度でVCの酸化が起こったとしても、相対的に酸化型の比率が低くなるのが原因と考えられる。

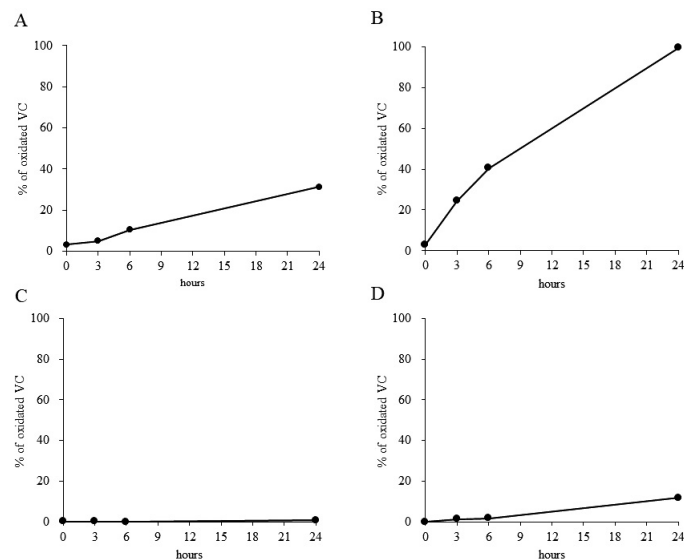


図1 保存状態による野菜ジュース中のVCの参加

サンプルNo.1と2の野菜ジュースをピーカーに移し、4℃もしくは25℃で保存後、ヒドラジン法によりVCを測定した。グラフは総VC中の酸化型VCの割合を示している。

A：サンプルNo.1, 4℃、B：サンプルNo.1, 25℃、C：サンプルNo.2, 4℃、D：サンプルNo.2, 25℃。

## 考察

本研究では、野菜果実飲料中の VC 含量と酸化の状態、並びに安定性について調査した。VC は酸化防止剤としての役割を持つため、添加物として加えられている場合が多い。実際に本研究で調査したサンプルで VC 含量の記載があったものは、添加物として加えられているものであった。本研究の結果ではサンプル No.2 を除く VC 含量の記載のある試料の VC 量はパッケージに表示されている値に近かったが、それぞれの値にはばらつきがあった。VC は酸化防止目的以外に栄養機能食品として添加していることもあるため、このようばらつきが見られたと考えられる。また、サンプル No.2 の試料に関しては、VC 含量が 548.7mg/ml であったが、これは VC が多く含まれるアセロラ果汁が含まれているため他の試料と比較して高い値となったことが考えられる。

野菜に含まれるアスコルビン酸オキシターゼは VC を酸化する酵素であるが、その活性野菜によって大きく異なる。特にアスコルビン酸オキシターゼ活性が高い野菜として、ニンジンやカボチャ、キュウリ、セロリ、スプラウトなどが知られている<sup>(12)</sup>。本研究で使用した野菜果実飲料の中には、ニンジンやカボチャ、セロリを含んでいるものが多い。野菜果実飲料は、製造過程で加熱処理が行われるため、これらの野菜に含まれるアスコルビン酸オキシターゼが失活していることが予測されたが、本研究では、野菜果実飲料の VC は 4℃での保存でも徐々に起こり 25℃で保存した場合には著しい酸化が起こったため、野菜果実飲料には、アスコルビン酸オキシターゼ活性が残っていることが示唆された。以上の結果から、開封後の野菜・果実飲料は、速やかに飲みきるか、4℃で保存することが望ましいと思われる。

VC の代表的な欠乏症である壊血病を防ぐためには、1 日当たりの 10mg の摂取で十分であると言われている<sup>(13)</sup>。一方で、心臓血管系の疾患予防のためには、血中の VC 濃度が 50mg/ml 必要であり<sup>(14)</sup>、そのためには 1 日 83.4mg の VC を摂取する必要があると言われている<sup>(15)</sup>。これらの理由により、2020 年食事摂取基準の VC の推定平均必要量は心臓血管系の疾病予防並びに抗酸化作用といった点から 100mg/day となっている<sup>(16)</sup>。しかし、国民健康・栄養調査結果では VC の摂取量は男女ともに 100mg を満たしておらず、特に 20 代から 40 代の若年層では 1 日当たり 80mg 以下の摂取量であるのが現状である<sup>(17)</sup>。

近年、VC をはじめとする栄養素の摂取不足を野菜果実飲料で補う傾向があるが、VC に関しては、本研究の結果により、成分値が記載されていない野菜果実飲料の VC はわずかであることが明らかとなった。さらに VC が添加されている野菜・果実飲料の中には、でも開封後の保存が悪ければ酸化分解されることが本研究で明らかとなった。他のビタミン類、特に水溶性ビタミンも不安定なものが多いため<sup>(18,19)</sup>、野菜・果実飲料を摂取する場合は、各栄養素の損失を防ぐため、保存方法についても注意する必要があると考えられる。

## 参考文献

1. Pullar JM, Carr AC, Vissers MCM. The Roles of Vitamin C in Skin Health. *Nutrients*. 2017. 12. pii: E866. doi: 10.3390/nu9080866.
2. Rose RC, Bode AM. Biology of free radical scavengers: an evaluation of ascorbate. *FASEB J*. 1993 7: 1135-42.
3. Yun J, Mullarky E, Lu C, Bosch KN, Kavalier A, Rivera K, Roper J, Chio II, Giannopoulou EG, Rago C, Muley A, Asara JM, Paik J, Elemento O, Chen Z, Pappin DJ, Dow LE, Papadopoulos N, Gross SS, Cantley LC. Vitamin C selectively kills KRAS and BRAF mutant colorectal cancer cells by targeting GAPDH. *Science*. 2015. 350:1391-6. doi: 10.1126/science.aaa5004.
4. Chen Q, Espey MG, Krishna MC, Mitchell JB, Corpe CP, Buettner GR, Shacter E, Levine M. Pharmacologic ascorbic acid concentrations selectively kill cancer cells: action as a pro-drug to deliver hydrogen peroxide to tissues. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 2005. 102:13604-9.

5. Chen Q, Espey MG, Sun AY, Pooput C, Kirk KL, Krishna MC, Khosh DB, Drisko J, Levine M. Pharmacologic doses of ascorbate act as a prooxidant and decrease growth of aggressive tumor xenografts in mice. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 2008. 105:11105-9. doi: 10.1073/pnas.0804226105.
6. 林 宏子 . 食品中のビタミンCの安定性に関する基礎的検討 . 日本調理科学会誌 . 1993年26巻 p.12-26
7. 石井 謙二, 桜井 英敏 . L-アスコルビン酸とその酸化分解 . 1990年48巻4号 p. 149-156 栄養学雑誌
8. Yamamoto II, Muto N, Nagata E, Nakamura T, Suzuki Y. Formation of a stable L-ascorbic acid alpha-glucoside by mammalian alpha-glucosidase-catalyzed transglucosylation. *Biochim Biophys Acta*. 1990. 1035:44-50.
9. Yamamoto II, Tanaka M, Muto N. Enhancement of in vitro antibody production of murine splenocytes by ascorbic acid 2-O-alpha-glucoside. *Int J Immunopharmacol*. 1993. 15:319-25.
10. 大羽 和子, 渡邊 章子, 開元 裕美, 戸本 綾子, 森山 三千江 . 新鮮野菜および調理野菜の食する時点におけるビタミンC量 . 日本食品科学工学会誌2011年58巻 p. 499-504
11. 大羽 和子, 山本 淳子, 河合 あずさ, 坂田 あゆみ, 山崎 真保代, 丹羽 麻美 . ヒドラジン比色法およびHPLC法で測定した市販の新鮮野菜および加工調理済野菜のビタミンC量 . ビタミン 2000年74巻 p. 435-440
12. 大羽 和子 . 新鮮野菜のアスコルビン酸オキシダーゼ . 日本調理科学会誌 1996年29巻 p.120-124
13. Hodges RE, Hood J, Canham JE, et al. Clinical manifestations of ascorbic acid deficiency in man. *Am J Clin Nutr* 1971; 24: 432-43.
14. Gey KF. Vitamins E plus C and interacting conutrients required for optimal health. A critical and constructive review of epidemiology and supplementation data regarding cardiovascular disease and cancer. *Biofactors* 1998; 7: 113-74.
15. Brubacher D, Moser U, Jordan P. Vitamin C concentrations in plasma as a function of intake: a meta-analysis. *Int J Vitam Nutr Res* 2000; 70: 226-37. 138) Food and Nutrition Board, Institute of Medicine. Vitamin C. Dietary R
16. 日本人の食事摂取基準(2020年版)の概要  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_08517.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08517.html)
17. 令和元年 国民健康・栄養調査結果の概要 - 厚生労働省  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/eiyuu/r1-houkoku\\_00002.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/r1-houkoku_00002.html)
18. 小島 彩子, 尾関 彩, 中西 朋子, 佐藤 陽子, 千葉 剛, 阿部 皓一, 梅垣 敬三 . 食品中ビタミンの調理損耗に関するレビュー(その1): (脂溶性ビタミン, ビタミンB1, B2, B6, B12) . 2017年91巻1号 p.1-27.
19. 小島 彩子, 尾関 彩, 中西 朋子, 佐藤 陽子, 千葉 剛, 阿部 皓一, 梅垣 敬三 . 食品中ビタミンの調理損耗に関するレビュー(その2) (ナイアシン, パントテン酸, ビオチン, 葉酸, ビタミンC) . 2018年91巻2号 p.87-112



# 課題解決型インターンシップ実践報告

Practice Reports of Problem-Solving Internships

井 野 智 一 郎

Tomoichiro INO

ライフプランニング総合学科 准教授

## 1. はじめに

新卒採用や企業理解を目的として多くの企業に実施されるインターンシップは、学生が就職活動を進めるにあたって参加することが前提となりつつある。2022年6月に改正を経た「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的な考え方」(文部科学省・厚生労働省・経済産業省, 2022)では、大学等におけるインターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取り組みは、大学等での学修と社会での経験を結びつけることで、学修の深化や学習意欲の喚起、職業意識の醸成などにつながるものであり、その教育的効果や学生のインターンシップを始めとするキャリア形成支援における効果が十分に期待できる重要な取り組みであるとされている。「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取り組み」が次の四つの類型に整理され、そのうちタイプ3及びタイプ4がインターンシップであるとされた。

(学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取り組みの4つの類型)

- タイプ1 オープン・カンパニー
- タイプ2 キャリア教育
- タイプ3 汎用型能力・専門活用型インターンシップ
- タイプ4 高度専門型インターンシップ

タイプ3及びタイプ4の大学等のインターンシップについては、「学生がその仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか(自らがその仕事で通用するかどうか)を見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験(企業の実務を経験すること)を行う活動(但し、学生の学修段階に応じて具体的内容は異なる)と定義された。

本学では、2023年度よりキャリアセンターを設置し、キャリア教育に興味をもっている企業との間で意見交換を行い、就業体験型と課題解決型の両インターンシップを融合したプログラムを立ち上げた。これは、上記「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取り組みの4つの類型」のタイプ3にあたるものである。このインターンシップの方式は、課題を抱える受け入れ企業と協働しながら、実際の就業体験を通じて就職を目指す学生へのキャリア教育、就職サポートの効果を高める方法として研究、実施したものである。

本報告は、本学で取り組んだインターンシップについて事例報告し、今後の課題について考察する。

## 2. 本学のインターンシップの種類と内容

1997年、当初の文部省・労働省・通産省の三省合意のもと、インターンシップ実施が検討され、九州では、九州経済産業局や地元経済界、主要大学の産学官が協力し、インターンシップの試行・研究を行った。1999年には、インターンシップを推進する組織設立に向け具体的な協議を重ねた結果、2000年8月に「福岡県イ

ンターシップ推進協議会」を設立した。更に経済界からの支援があり、“地域をあげたインターンシップの普及や推進”の活動基盤ができ、2011年には九州全体を見据えたインターンシップの推進を図るべく、名称を「九州インターンシップ推進協議会」に改めた。今では年間500名の学生が就業体験を行う全国的にも注目を浴びる組織となっている。本協議会では、学生の教育的支援を第一の目的としており、企業と連携をとり5日以上の実践したプログラムを特徴としている。また、九州という地域に根付いた地元企業の魅力を発見し、産学官をつなぐハブとなる役割を果たしている。この協議会が主催するインターンシップに本学の学生が毎年参加しているが、年々参加者は減少傾向にあり、2023年度は1名のみでの参加となった。

また、個人開拓型のインターンシップにはなるが、1年次の早い時期にマイナビなどの就職情報サイトの登録を学生へ勧め、夏季休暇時にインターンシップへの参加を促している。就職情報サイトには数多くのインターンシップが毎年掲載・紹介されているが、企業の会社紹介が主な内容となっており、本来の目的である就業体験の場が少ないのが現状である。中にはインターンシップに参加することが次の選考に進むための条件となっている企業も多く見受けられるが、他校の学生（特に四大生）も参加するインターンシップへ申し込むことを躊躇する学生が本学には多い。

社会人基礎力の育成に関する学習の中で最も効果的と考えられる取り組みとしてインターンシップが挙げられ、各大学においても力を入れている取り組みと考える。ここ数年、就職活動の環境変化に伴い、インターンシップに対する学生側の興味も大きくなっている傾向にある。

そこで本学では、2023年度よりキャリア教育に興味をもっている企業との間で意見交換を行い従来の就業体験型に加え、課題解決型の要素を持ち合わせたインターンシップをキャリアセンターが主体となって新たに立ち上げた。本学の課題解決型インターンシップは、企業や地域が抱えている課題に対して、学生たちがグループワークやディスカッションのなかで仮説をたて、現地での就業体験やフィールドワークを通じて調査し、仮説が間違っていればまた新しい仮説を立てて検証していくことを繰り返す手法を取り入れた。そして、パートナーとなっていたいただいた企業に対して最終案をプレゼンテーションすることで一旦終了するが、プロジェクトによっては、実際にイベントや企画案などを実践して終えることになる。企業への報告などにおいて社会人としてのコミュニケーション力・プレゼンテーション力などを体験・修得できる機会もある。課題解決型インターンシップを通じて、大学での学びや体験が社会といかにつながっているかを知り、視野を広げられるプロジェクトとなるよう内容を検討している。企業と連携した課題解決型授業など、実社会の課題に取り組むことで、コミュニケーション能力や主体性などの社会に向き合うための準備をする。また、卒業後の進路を見据え、職業意識も形成していくのである。

本学ではこれまで紹介した大きく3つのインターンシップ（就業体験型・課題解決型・個人開拓型）を就職支援講座において紹介している。（表1）

表1 本学のインターンシップの種類と内容

種類	実施機関	内 容	事前 研修	事後 研修
就業体験型	5日～	九州インターンシップ推進協議会が主催する、就業体験を主としたインターンシップ	有	有
課題解決型	1～2週間	2023年度から実施。キャリアセンター主催のインターンシップで受け入れ企業の課題解決に取り組み、同時に就業体験も実施する	有	有
個人開拓型	1日～	マイナビなどの就職情報サイトから個人で申込を行う	無	無

### 3. 2023年度課題解決型インターンシップの計画から実施まで

2023年3月、表2にあるスケジュールでキャリア教育に興味をもっている企業・団体を訪問し、担当者の方と意見交換を実施した。今回課題解決型インターンシップを計画するにあたり、学生へ熱心に指導をし

てくださる企業、今後の採用を見込める企業、既に採用実績のある企業を選定した。

表2 企業・団体の訪問スケジュール

日程	訪問先
3月1日(水)	黒川温泉観光旅館協同組合、黒川温泉地区旅館(3件)、南小国町
	別府市観光協会、別府市内ホテル(2件)
3月2日(木)	宮崎県観光推進課、シーガイア、宮崎県観光協会、宮崎市内ホテル(2件)
3月3日(金)	あまみ大島観光物産連盟、体験施設、奄美大島地区ホテル(4件)
3月4日(土)	鹿児島市内ホテル(1件)、霧島温泉地区旅館(2件)、阿蘇市内ホテル(2件)
3月8日(水)	沖縄観光コンベンションビューロー、体験施設、恩納村地区ホテル(2件)
3月9日(木)	恩納村地区ホテル(2件)、体験施設
3月16日(木)	北九州市、株式会社スターフライヤー、下関市まちの魅力再発掘プロジェクト推進室
3月22日(水)	嬉野温泉観光協会、茶販売会社、嬉野温泉地区旅館(3件)
	ハウステンボス、佐世保観光コンベンション協会

3月に企業訪問を終え、パートナー企業を確定することができた。4月よりインターンシップの資料作成及び説明会準備に入り、5月に新1年生向けに募集説明会を実施した。6月にはエントリーの受付を開始し、同月に参加者を決定した。この時点で25名の応募があった。その後、参加者に対して必要書類(履歴書・自己紹介書等)の提出を求め、応募者全員と参加の意思確認とインターンシップの目的を再確認するために個別面談を実施した。途中で辞退する学生も出てきたが、最終的には夏の課題解決型インターンシップには13名の学生が参加した。今現在も4名の学生が課題解決型インターンシップを継続している。夏季休暇中に実施した課題解決型インターンシップの受け入れ先及び内容は表3の通りである。

表3 課題解決型インターンシップの受け入れ先及び内容

受け入れ先	日数	職種	人数	課題の内容
リザンシーパークホテル 谷茶ベイ(沖縄・恩納村)	16日間	宿泊業務 料飲業務	7名	・家族旅行の滞在プランを企画(2泊3日) ・労働力不足を解消するために
ハウステンボス (長崎・佐世保市)	14日間	パーク職	1名	・急増するインバウンド客への対応について
お宿のし湯・ふじ屋 (熊本・黒川温泉)	10日間	旅館業務 全般	5名	・温泉街の活性化プロジェクト ・旅館に就職を希望する学生を増やすために

#### 4. 課題解決型インターンシップの事例

##### (1) 黒川温泉

黒川温泉のある南小国町は九州の中央部、熊本県東北部の阿蘇郡に位置する人口約4,000人の町で、温泉旅館を中心とした観光を主産業としている。「黒川一旅館」として県内トップクラスの集客力を誇り、全国屈指の人気温泉地として知られている。しかし一方では働き手不足の問題がある。黒川温泉では、立地として「暮らす」と「働く」が一緒になる。都会で働く場合は、仕事でストレスがあっても、通勤の時間中に切り替えることができる。しかし、黒川温泉では、この中で暮らして働いてということが一緒に成り立たないといけな。特に未来を背負う若者は、「暮らす」と「働く」が一緒になる黒川温泉という場所を就職先として前向きに選ばない傾向が続いている。

日本が人口減少時代を迎えるなか、黒川温泉はインバウンドを含めた宿泊業としての需要は増えている一方、それを担う働き手は慢性的に不足している。また人材に関わる具体的な取り組み(人材採用や教育等)に関しては、現在旅館ごとでの個別対応が中心であり、各々に業務量やコストに負担が多くかかり効率が悪い

状況にある。そのようななかで、新型コロナウイルスの影響のより、旅行需要が激減して事業売上が減少する事態に陥っており、観光・宿泊産業はポストコロナを見据えた根本的な構造改革が避けられない状況になった。2023年からは徐々に事業売上は回復傾向にあるが、今なお働き手不足は深刻な課題となっている。

そこで今回、黒川温泉で2つの旅館を経営している有限会社富士屋と協働で課題解決型インターンシップを実施することとなった。本インターンシップに参加した学生は5名で各々が就業体験を通じて、黒川温泉や旅館の「お宿のし湯」「ふじ屋」の魅力を感じることができた。当初は旅館の施設面にばかり学生たちは目が向いていたが、そこで働く従業員の方々のお客様への「おもてなし」や「想い」に触れ、旅館業の素晴らしさを実感した。

黒川温泉は、観光業界の大量生産・大量消費という産業構造から可能なかぎり脱却し、黒川を取り巻く貴重な地域資源（地熱、水・川、森林、草原、田畑等）を最適な環境で循環させ、環境負荷を軽減しながら旅館経営及び温泉地づくりを推進している。そうしたこの地域にある上質な里山の魅力を次世代にしっかりと継承しながら、お客様はもちろん黒川温泉で働く人々たちにとっても魅力的な場所であるために旅館・地域・人の想いを一つに新たな関係性（循環）の醸成を積極的に取り組んでいる。各旅館での教育・研修だけでなく、黒川温泉に同時期に入社した社員・スタッフを旅館を超えた同期入社とみなして、黒川温泉合同入社式から、新人合同研修、次世代育成研修『黒川塾』、里山の地域文化を学ぶ『里山研修』まで、知見を深める様々な研修を行っている。黒川温泉で働く従業員・スタッフにとって、この環境が単に働くだけの場所ではなく、自分と向き合い内省する、キャリアをしっかりと築く、地域文化の本質を理解する、豊かに暮らし働く、そうした“人として成長する場所”としても魅力を感じてもらえるよう、地域とともに取り組みを進めている。

とてもシンプルに言えば、旅館業はお客様に食事とお風呂を提供し、お部屋にお泊りいただくという仕事である。シンプルではあるが、お客様の心情を見極めながら、お迎えをし、お部屋へ案内し、お食事の準備をし、提供しといった、多様な場面のお客様に満足いただくための「総合的な人間力」と「チーム力」が大切になってくる。旅館業は接客をはじめ、“総合力”につながる幅広い経験を積むことができる。また、黒川温泉では、旅館で働くことはもちろん、温泉街や地域全体の視点を持って活躍できる人材を求めている。旅館と温泉地、互いの相乗効果が生まれて初めて地域は発展すると考えている。この課題解決型インターンシップに参加するなかで、様々な観点から黒川温泉で働く意義を見出すことができ、働き手不足の現状をどのように打破していけばよいか、学生なりに旅館の経営者へ提案をし、発表（プレゼンテーション）を行った。学生たちが実際にどのようなスケジュールで就業体験を行い、課題解決の仮説を立てたのかは表4を参考にしてほしい。

表4 黒川温泉におけるインターンシップのスケジュール

日程	時間	スケジュール
1日目	14:00	アイスブレイク・自己紹介
	14:10	インターンシップの全体説明と目標設定
	14:50	南小国町の生活体験ツアー
	16:00	南小国町・黒川温泉・有限会社富士屋の紹介
	16:30	就業場所の見学（お宿のし湯とふじ屋）
	17:30	夕食
	18:30	振り返り・翌日の案内
2日目 ↓	7:30	朝食
	8:00	業務見学・体験
4日目	11:00	昼食・休憩（17:00まで）
	17:00	業務見学・体験
	20:00	帰寮

5日目	9:00	朝食
	10:00	発表内容まとめ
	12:00	昼食
	13:00	黒川温泉と阿蘇のフィールドワーク
	16:30	夕食
6日目 ↓ 8日目	7:30	朝食
	8:00	業務体験
	11:00	昼食・休憩(17:00まで)
	17:00	業務見学・体験
9日目	20:00	帰寮
	9:00	朝食
	9:30	目標設定
	10:00	発表内容まとめ
	12:00	昼食
	13:00	社長と社員の方々へ発表(プレゼンテーション)
	13:40	フィードバックと振り返り
	14:00	アンケート回答・休憩
10日目	17:00	夕食
	9:00	朝食
	9:30	各部署へお礼の挨拶
	10:00	インターンシップ終了・現地解散

## (2) 沖縄

沖縄県内のホテルを対象に行われたアンケート調査(2023年4月に沖縄県ホテル協会が実施)でおおよそ96%のホテルが「労働力が不足している」と回答している。県ホテル協会は、国内だけではなく、海外の人材を受け入れる体制づくりが必要だとしている。従業員の変化についても調査をしており、コロナ禍前の2019年と比べると2023年5月1日時点の数は95.2%とおおよそ5%減少していた。内訳をみると、正規従業員は89.5%と1割以上減っているが、派遣従業員は286.4%と3倍近く増えていて正規従業員の流出を派遣従業員で補おうとしている実態が明らかになった。職種別では、特に調理やレストランなどのサービスに携わる人材が不足しているということで、半数以上の56.5%のホテルがレストランの営業時間を短縮したり、休業日を設定したりしている。県ホテル協会の平良朝敬会長は「国内の労働力だけではなく海外からの研修生などを受け入れる体制づくりが必要になっていて、国・県を含めて支援を求めたい」と話していた。

今回、インターンシップでお世話になった「リザンシーパークホテル谷茶ベイ」でも労働力不足は深刻な問題となっていた。海外からの研修生が多く働いており、戦力となってホテル経営を支えている。

リザンシーパークホテル谷茶ベイは、沖縄本島西海岸、沖縄海岸国定指定公園内に位置し、ホテルの目の前は白浜が続く約800mの天然ビーチ、部屋の眼下にビーチが広がるオーシャンビュータイプと大自然が広がるグリーンビュータイプにそれぞれ、スタンダードやデラックス、ファミリータイプの多彩な部屋を用意した、沖縄本島内でも絶好のロケーションのリゾートホテルである。また、レストランやバーはもちろんマリナクティビティも充実し、ホテル内での体験コーナーや琉球舞踊、エイサー等、年中を通して楽しむことができる大型のリゾートホテルである。当ホテルは、長年沖縄の観光経済振興の一助を担ってきた。常に新たなチャレンジと若い人材開発に取り組んでいる会社である。例えばSDG'sを課題に、地域と連携して地産地消、アップサイクル商品開発企画に取り組んでいる。また、自社で琉球舞踊団を所有し、地元イベントなどで地域振興の活動をしている。近年はITやDXの変革に対応しながら、新たなインバウンド、客層の開拓等に注力している。このような沖縄県内最大クラスのホテルでも労働者不足が大きな課題となっている。著者が夏の繁忙期に学生を引率し訪問したが、毎日全室満室の日々が続いているにもかかわらず、労働



者が不足していることを理由にレストランの営業時間を短縮したり、休業日を設定したりしていた。

今回7名の学生がインターンシップに参加したが、料飲部門4名、宿泊部門3名と各々が分かれて就業体験を行った。当ホテルで実施した課題解決型インターンシップの内容は表5の通りである。

表5 沖縄におけるインターンシップのスケジュール

日程	時間	スケジュール
1日目	13:15	ホテル到着後、個別面談
	14:00	インターンシップの全体説明と目標設定
	15:00	館内案内、配属先顔合わせ、制服合わせ
2日目 ↓ 14日目	終日	現場研修(就業体験) ※シフト制のため、各々勤務時間・休日が異なる休日の1日を利用し、恩納村のフィールドワークをホテル主催で実施
15日目	9:00	退寮手続き・振り返り
	11:00	那覇市内へ移動
	12:30	昼食
	13:00	那覇市内のフィールドワーク

## 5. インターンシップの取り組みから

インターンシップの取り組み評価として、事前学習・事後レポートの取り組み、就業体験における態度や姿勢などをもとにした企業担当者からの評価、発表(プレゼンテーション)などを総合的に評価している。企業担当者による評価に関しては、「受入先による学生の評価表」を用いて取り組み、社会人基礎力に関する評価を依頼している。また、学生についてはインターンシップ取り組み前後においての成長を自己評価できるような個人評価表を作成している。今後の取り組みになるが、企業担当者からいただいたご意見を学生指導の際にアドバイザーや学生支援課から伝え、就職活動に役立てたいと考えている。インターンシップ参加後のアンケート調査からはほぼ全員の学生からインターンシッププログラムへの参加が有意義であり、今後の学習や就職活動に役立つというコメントがあった。今後はインターンシップの更なる充実に向けて、受け入れ企業数や支援する教職員数の増加など課題が多く挙げられる。

## 6. おわりに

昨今、就職活動のやり方が大きく変わっていきな、ますますインターンシップが重要視されると予測する。就職活動の早期化や通年化などによりインターンシップの取り組みが学習から就職活動としてのツールとして今後も注目される。社会人基礎力の育成などのキャリア教育的な目的を達成するようなインターンシップをもっと開発していくべきであり、多様化する学生の要望にマッチしたインターンシッププログラムを設計・充実することが重要と考える。

本報告では、本学で2023年に実施した課題解決型インターンシップの取り組みについて述べた。キャリアセンターとしては、学生のインターンシップに対応できる能力やスキルを早期に身につけられる講座や事前学習、各授業における有機的な連携学習が必要と考える。

2023年度は事前学習の時間を取ることができなかったため、次年度(2024年度)は、事前学習として「キャリア形成支援プログラム」を計画、実行していきたいと考える。最後にこのキャリア形成支援プログラムの概要を説明する。

キャリア形成支援プログラムでは、「授業内での学び」と「社会での実践」を段階的に積み重ねていくこ



とで、学生の個性や自主性を養い、自ら考え行動する「社会で活躍できる人材」を育成することを目標としたい。「自分は将来何がしたいのか」「1年生の短大生活をどう過ごすべきか」自己理解や他者理解を深め、自分の将来を考えながら、充実した大学生生活をプランニングしてほしいと願っている。なお、「キャリア形成支援プログラム」の講義内容は、表6の通りである。

表6 キャリア形成支援プログラムの講義内容

	講義内容	テーマ・課題
1	自分を知ってキャリアを考える 【ステップ1】 人生を振り返る	・自分史の作成 ・自己分析
2	自分を知ってキャリアを考える 【ステップ2】 将来の理想を描く	・未来設計図の作成
3	自分を知ってキャリアを考える 【ステップ3】 現状を整理する	・現在の自分の長所、短所、スキルを考える
4	自分を知ってキャリアを考える 【ステップ4】 今後の目標と計画を設計する	・1年間のスケジュール作成
5	企業・職業のことを知る	・業界研究、企業研究の進め方 ・企業分析ノートを作成 ・自分に合った職種を考える
6	キャリア面談	・面談による個別支援
7	社会人に求められるスキルを学ぶ	・ロールプレイによる実践学習
8	マナーを身につける	・インターンシップへの参加支援
9	課題解決型インターンシップの実施	・パートナー企業との協働

表6にプログラムの講義内容を記しているが、少し説明を加える。

#### ①「自分を知ってキャリアを考える」

これまでの経験を振り返り、興味や能力、価値観を明確にする一方で、不足しているスキルに気づき、学生生活の経験の積み重ねが成長につながることを意識させる。そして、自分らしく生き活きと働くためのキャリア形成を具体化する。ここでは、4つのステップを踏んで段階的に学びを深める。まず、ステップ1で人生の振り返りを行うことで、人生で得た経験や自分の選択を通して、自分にとって譲れない生き方や価値観とは何かを考えさせる。次にステップ2で将来をどうありたいのかを考え、仕事のビジョンに限らず、「どんな家庭を築きたいか」「何歳までに結婚したいか」など、理想の自分を描いていく。そして、ステップ3では、自分が今持っているスキルや強みは何かを考え、現状を整理する。自己分析では、「自分は何ができるのか」「自分の強みは何か」を考えることが大切で、自己PRをまとめても、自分の強みや長所と結びついていなければ、仕事でどう発揮できるのかが伝わらず、アピールにならない。自分の長所と短所を客観的にとらえておくことが大切である。最後にステップ4で将来の理想像と現在の状況を重ねたうえで、今後の目標と計画を設計する。将来の理想を実現するために現状足りていない経験やスキルは何か、必要な経験やスキルはどうすれば身につけられるかなどを考えることで、いつまでに何をしなければいけないかという目標が明確になる。

#### ②「企業・職業のことを知る」

志望企業や職種をある程度絞り込むために必要な基礎知識を学び、多くの情報を集める。インターンシップ先となる企業の情報をまず集め、企業・職業研究の方法を学ぶ。

#### ③「キャリア面談」

個々の学生とキャリア面談を実施し、相談に乗る。1回の面談時間は30分ほどで、継続的にカウンセリングを行いながら学生と信頼関係を築き、学生本人が自分自身で答えを見つけられるような支援をしていく。そして、学生自身が自己理解を深め、「譲れない価値観」を見つけ出して、大まかな将来の生き方・働き方に結び付けていく。将来の大まかなイメージを抱いたら、「ビジョン実現のために、短大で何を学

んでいくのか」を考えてもらう。このように、ビジョンと短大での学びを結びつけている点に、本講座の特徴があると考えられる。

#### ④「社会人に求められるスキルを身につける」

様々なグループワークを通じて、社会人として必要なスキルを身につけていく。

#### ⑤「マナーを身につける」

自分らしさを表現するためのマナーについて学ぶ。就職活動で最も大切な要素で、マナーを知らないと内定はまず得られない。具体的にはEメールの書き方、手紙・ハガキ・封筒の書き方、電話のかけ方、敬語の使い方、身だしなみについて理解を深めた。また、どのような職場においても、あいさつはマナーの基本であり、コミュニケーションの第一歩である。本講座では、あいさつの重要性について改めて考え、また実際に、あいさつやお辞儀の仕方、笑顔の作り方のポイントについて、ロールプレイングを通して実践力を身につける。

これらのキャリア形成支援プログラムを活用して、課題解決型インターンシップの事前研修を2024年度から実施したいと考える。

大学での学びと実社会での学びとを融合させた、実践指向型の課題解決型学習（PBL：Project Based Learning）を実施し、企業が抱える「リアル」な課題に挑戦し、リーダーシップ、プロジェクト・マネジメント、論理的思考などを学ぶ。課題解決に向けた過程では、実社会で必要となる知識・スキルを培えることに加え、「働く意義」についても理解を深めることができる。

企業が学生に対して「プロジェクト」を与え、このプロジェクトを与えられた期間内に解決、そして新しい提案（プレゼンテーション）を企業に行うものである。企業によって与える課題やテーマは様々である。また、学生同士がチームになって問題を解決し、資料を作成するなど様々な方法が用いられる。この課題解決型インターンシップは、最終的に課題や問題を解決することで、大きな達成感を得ることができるため、学生自身の大きな糧として、将来に生かせる。

課題解決型インターンシップでは、企業との情報交換・打ち合わせ、文献・統計資料などの情報の収集と分析、フィールドワークの実施とデータの整理・分析、ICTの活用、発表・プレゼンテーション、アイデアの発散と収束、グループワーク、スケジュール管理など様々な取り組みを行うため、「社会人基礎力」を育成するためには最良の方法と考えられる。筆者はこれまでこの課題解決型授業を実践してきたため、その成果は大いに感じている。是非本学でもこのプロジェクトを推進して学生の「社会人基礎力」を高めたい。

2023年度の課題解決型インターンシップの最終発表会（プレゼンテーション）はまだ修了しておらず、引き続き今後も実施していく予定である。今回は途中経過を報告したに過ぎない。

### (参考文献)

金井 徳兼・松本 一教・前泊 哲明・中込 寛・若杉 聡吾(2019) 課題解決型インターンシップの実践とその課題 工学教育研究講演会講演論文集

福屋 利信(2020) 『大学教授よ、書を捨てよ、街へ出よう～プロジェクト型課題解決学習（PBL）進化論』太陽出版

文部科学省・厚生労働省・経済産業省(2022) インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的な考え方

九州インターンシップ協議会「協議会について」(2023年11月閲覧)

<http://www.q-internship.com/about>

黒川温泉旅館組合。「黒川温泉採用情報サイト」(2023年11月閲覧)

<http://www.kurokawaonsen.or.jp/recurit/>

## 女子短期大学生のソーシャルサポート特性について

Social Support Traits of Female Junior College Students

遠 矢 幸 子

Sachiko TOYA

ライフプランニング総合学科 教授

### 【問 題】

現代はストレス社会と言われ、他の年代と同じく大学生においても大半が何らかのストレスを抱えており、そのストレス原因の特徴として、特に授業・勉強関連や友人関係に関するものが多いことが知られている(青田ら, 2008; 山岸, 2008など)。また、大学生のストレスとメンタルヘルスとの関連に関しては、個々のストレス耐性度の強化やストレスマネジメント教育の必要性などが指摘されており(上田ら, 2012; 堀・島津, 2007など)、ストレスは大学生のキャンパスライフの質に大きく影響する問題であると同時に、大学側にとって学生のストレスの把握と対応は、退学・中退予防の観点から見ても大きな課題であるとする(遠矢, 2023)。

一方、ソーシャルサポートとは、家族や友人など社会における人とのつながりの中でやりとりされる有形・無形の支援であり、この支援を受けることによって生活上のあらゆるストレスからの悪影響を緩和し、メンタルヘルスを良好に保つ効果をもたらすと考えられている。大学生のソーシャルサポートとメンタルヘルスの関連性については、多様な視点から検討されている。例えば、片受(2016)はソーシャルサポートと抑うつや不安には負の相関があることを、箕口・千田・久田(1989)は父親や母親から多くのソーシャルサポートを受けられると知覚している大学生は抑うつや不安が低いことを見出している。また、和田(1998)によると、ソーシャルサポート感が強い大学生は弱い大学生に比べて孤独感を感じておらず、女子学生は男子学生に比べてストレスレベルもソーシャルサポート感も高いことを指摘している。このようなソーシャルサポート感に認められる性差は他の多くの研究でも指摘されており、一貫して女子学生の方が高い結果を得ている(片受・大貫, 2014; 久田, 2021; 谷口, 2021など)。このように、大学生にとってソーシャルサポートは個々のメンタルヘルスと深く関連することが伺える。

また、ソーシャルサポートはサポート内容の点からその機能を分類する試みがなされてきた。このうち、最も有名な研究としてHouse,J.S.(1985)は、①情緒的サポート(励ましたり共感や愛情を示すなど心の支えになるものの提供)、②道具的サポート(金銭や必要なものなど形のある物や力を貸すなどのサービスの提供)、③情動的サポート(問題の解決に必要な情報や知識、アドバイスなどの提供)、④評価的サポート(認める、褒めるなど肯定的な評価の提供)の4つに分類している。ここでは、それぞれのソーシャルサポート機能とその他の個人指標との関連性を検討する研究が行われているものの、今のところ一貫した明確な結果が得られていない。このうち、光橋・村中(2019)は看護系大学生を対象に、自己調整学習方略と2つのソーシャルサポート機能との関係について検討している。ここではソーシャルサポート機能を情緒的サポート(普段から自分を取り巻く他者が心配してくれるということに対する認知)と手段的サポート(自分が困ったときに他者が援助してくれるということに対する認知)として捉えており、このうち情緒的サポートを多く受けていると感じている者の方が授業に対する動機づけを自ら高めたり予習・復習や学習計画を立てるなど全般的に自己学習調整方略を多く使用しており、手段的サポートよりも結果が明確であることを見出している。

さらに、大学生のソーシャルサポート源(サポートを受ける対象)の影響について検討した久田(1989)は、母親のサポート得点が最も高く、次いで友人、父親、兄弟姉妹、先生の順であることを見出している。中学生を対象とした調査においても同じく母親のサポート得点が最も高く、次いで友人、父親、先生、兄弟姉妹の順であったことから(久田, 2021)、思春期から青年期にかけての子どもにとって母親は最も支えとなるソーシャルサポート源であることが伺える。一方、大学生にとって最も重要なサポート源は親しい友人であることを指摘する研究結果も報告されている(嶋, 1991; 谷口, 2021など)。

本学ライフプランニング総合学科独自の初年次教育では、ストレスマネジメントおよびメンタルヘルスに関連した授業を実施し、メンタルヘルスの側面からの効果的な支援のあり方を検討しているが、本報告では学生のソーシャルサポートの現状を把握する基礎的なデータを得ることを目的とする。

## 【方 法】

調査対象は本学ライフプランニング総合学科の1年生123名で、2020年1月に1年生の必修科目である「基礎科目Ⅳ」の授業で実施した。本学科では1年生の1期から4期に亘る1年間、初年次教育科目「基礎科目Ⅰ～Ⅳ」を設けており、このうち「基礎科目Ⅳ」は1年間の締めくくりの時期であると同時に就職活動が本格的に始動するタイミングで実施される。この時期、学生は社会人へと向かう自分のキャリアについて具体的に考え行動することが求められ、今まで経験したことのない種類のストレスにさらされる可能性が高い。そのため、自らのメンタルヘルスについて考えるコンテンツとしてソーシャルサポートに関する講義と質問紙を実施した。主な講義内容は、ソーシャルサポートの種類と働きおよびストレスとメンタルヘルスの関係であり、併せて自分のソーシャルサポートの状況を知るために久田ら(1989)による学生用ソーシャルサポート尺度16項目を実施した。具体的な質問項目は、1. あなたが落ち込んでいると、元気づけてくれる、2. あなたが失恋したと知ったら、心から同情してくれる、3. あなたに何かうれしいことが起きたとき、それを我がごとのように喜んでくれる、4. あなたがどうにもならない状況に陥っても、何とかしてくれる、5. あなたがする話には、いつもたいい興味をもって耳を傾けてくれる、6. あなたが大切な試験に失敗したと知ったら一生懸命なぐさめてくれる、7. あなたが元気がないと、すぐに気づいて気づかせてくれる、8. あなたが不満をぶちまけたいときは、はげ口になってくれる、9. あなたがミスをしたとき、そっとカバーしてくれる、10. あなたが何かを成し遂げたとき、心からおめでとうと言ってくれる、11. 一人では終わらせられない仕事があったときは、快く手伝ってくれる、12. 日頃からあなたの実力を評価し、認めてくれる、13. 普段からあなたの気持ちをよく理解してくれる、14. あなたが学校での人間関係に悩んでいると知ったら、いろいろと解決方法をアドバイスしてくれる、15. 良いところも悪いところもすべて含めて、あなたの存在を認めてくれる、16. あなたを心から愛している、の16項目である。この16項目それぞれについて父親、母親、兄弟姉妹、今通っている学校の先生(今回は短大の教員)、友人・知人という5種類の対象ごとに、それぞれに対する援助の期待値を「きつとそうだ」「多分そうだ」「多分ちがう」「絶対ちがう」の4段階で評定してもらった。なお、分析は欠損値のない105名(日本人学生68名、留学生37名)を対象に行った。なお、この質問紙によって得られたデータは個人が特定されないかたちで統計的に処理されること、成績とは一切関連しないことを口頭で説明し同意を得たうえで実施した。

## 【結 果】

調査対象全体の学生用ソーシャルサポート尺度の合計得点範囲は147から311であり、平均点は248.13(標準偏差37.40)であった。得点を30点ごとに区切った人数分布を図1に示す。学生用ソーシャルサポート尺度のうち、父親の平均値は50.42(標準偏差11.69)、母親の平均値は56.37(標準偏差8.37)、兄弟姉妹の平均値は48.74(標準偏差12.37)、短大の教員の平均値は40.11(標準偏差10.98)、友人・知人の平均値

は52.49 (標準偏差9.77)であった。

次に、ソーシャルサポート源によるサポート期待値の違いについて  $t$  検定 (一対の標本による平均の検定) を行った結果、母親に対する期待値が他のすべてのソーシャルサポート源に比べて圧倒的に高かった (母親 > 父親  $t = 6.23, p < .001$ ; 母親 > 兄弟姉妹  $t = 7.07, p < .001$ ; 母親 > 短大の教員  $t = 15.07, p < .001$ ; 母親 > 友人・知人  $t = 3.34, p < .01$ )。これに対して、短大の教員に対する期待値は他のすべてのソーシャルサポート源に比べて低かった (父親 > 短大の教員  $t = 9.14, p < .001$ ; 母親 > 短大の教員  $t = 15.07, p < .001$ ; 兄弟姉妹 > 短大の教員  $t = 6.33, p < .01$ ; 友人・知人 > 短大の教員  $t = 10.30, p < .001$ )。また、友人・知人に対する期待値が兄弟姉妹よりも高かった (友人・知人 > 兄弟姉妹  $t = 2.66, p < .01$ )。

なお、今回の調査対象には外国人留学生が含まれているため、日本人学生の調査結果とどのような傾向の違いがあるかソーシャルサポート源ごとの比較を行った結果、兄弟姉妹の期待値は留学生の方が若干高い傾向が認められた (日本人学生 < 留学生  $t = -1.88, p < .10$ )。一方、友人・知人の期待値は日本人学生の方が明らかに高かった (日本人学生 > 留学生  $t = 7.18, p < .001$ )。そのほかのソーシャルサポート源には差は認められなかった (母親  $t = -0.71, n.s.$ 、父親  $t = 0.01, n.s.$ 、短大の教員  $t = 0.29, n.s.$ )。

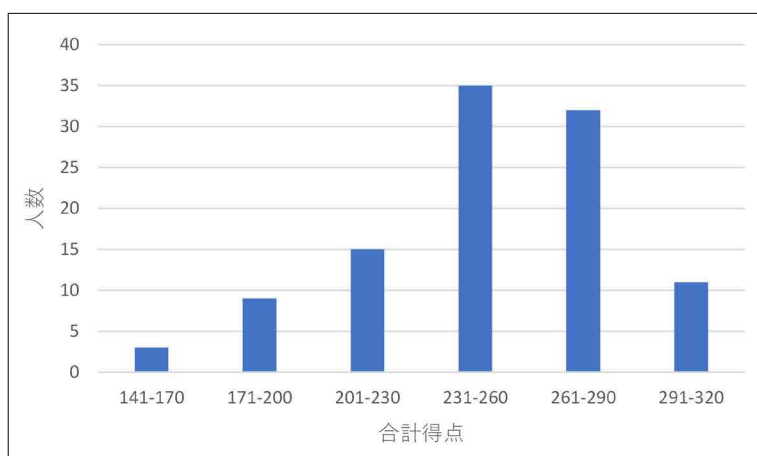


図1 ソーシャルサポート合計得点分布

### 【考察】

ストレスはキャンパス生活の質に多大な影響を及ぼす要因であり、大学での学業や勉強、友人関係などが大学生の大きなストレス因であることが明らかになっている (青田ら, 2008; 山岸, 2008 など)。そして、このストレスからの悪影響を緩和しメンタルヘルスを良好に保つための重要な鍵の一つがソーシャルサポートである。

今回の調査では、久田ら (1989) をはじめとする他の研究結果と同様に女子短期大学生にとって最も重要なソーシャルサポート源は母親であることが明らかになった。本学においても進学と同時に自宅を離れて寮やマンション等で一人暮らしを始める学生も多い。この点を踏まえると、それまで身近にいて有形・無形のサポートを受けることができた母親 (およびその他の家族) と離れることで、学生のソーシャルサポート感に何らかの影響があることも充分考えられ、今後の検討課題である。

ソーシャルサポート源に関する今回の調査結果を久田 (1989) の女子学生の結果と比較すると (今回の調査結果、久田の結果の順)、父親の平均値は50.42、47.24、母親の平均値は56.37、52.65、兄弟姉妹の平均値は48.74、48.02、先生の平均値は40.11、35.27、友人・知人の平均値は52.49、52.88であり、本学の学生は全体的にソーシャルサポート期待値が高いが、中でも短大の教員に対する期待値が比較的高いことがわかる。

しかしながら、多くの研究結果と同様に今回の調査結果においても先生 (短大の教員) に対するソーシャ



ルサポート期待値が他のソーシャルサポート源と比較して最も低い結果であった。一方、女子大学生の学業に関するサポートについて検討した倉住(2019)は、学業に関して最もサポートを得たい対象は教員であることを示している。教員には分からないところを教えてもらう個別学習支援や授業改善、就職支援を求めているのに対して、親には直接学習とは関係しない間接的なサポートを、友人にはわからないところを教え合う相互学習支援や情報共有等のサポートを求めるなど、サポート源によって期待する内容が異なることも明らかにしている。この研究は学業場面でのサポートに限定しているため、教員へのサポート希求が高いことは当然とも言えるが、学生が授業や学業面に向き合いサポートを必要としている実態が伺える。

現在、大学は学生が自ら自主的・自律的に学習し研究を進める場から教員など他から与えられた課題をこなし資格や免許など何らかの成果を獲得しようとする他律的な学びの側面が強くなっていると指摘されている(林, 2019)。このことが学生と教員との距離感の変化にもつながり、教員を重要なソーシャルサポート源と捉える傾向が強まっているとも考えられよう。このような大学生の気質の変化は必ずしも望ましいとはいえない面もあるが、現在の学生が学生生活を送る上で大学教員に期待するソーシャルサポートの内容を把握したうえで適切な形で学生支援に生かす方策を整える必要性も問われている。

今回の調査は、本学ライフプランニング総合学科の初年次教育における学生のストレスマネジメントおよびメンタルヘルス支援に関連して、学生のソーシャルサポートに関する基礎的データを収集する目的で行われた。従って、調査対象および調査人数が限られているため、得られた結果を一般化することはできない。また、日本人と留学生の傾向の違いやソーシャルサポートと他の変数との関連の検討は今後の課題である。今後も女子短期大学生のストレスマネジメントおよびメンタルヘルス教育の開発という長期目標のため、データの収集と検証を継続して行いたい。

## 【引用文献】

- 青田和哉・石崎美保子・公文杏・近藤聖也・田邊数馬・森田貴恵・山口真紗子・西垣千春 2008 大学生のストレスの現状とその対処の実態 ―神戸学院大学生へのアンケート調査を通じての検討― 神戸学院総合リハビリテーション研究, 3, 2, 63-70.
- 林雅子 2019 教師のソーシャル・サポート及び信頼感と大学生の無気力との関連 ―過去と現在の教師との関係と性差に着目して― 中央大学大学院研究年報文学研究科篇, 48, 2-20.
- 久田満・千田茂博・箕口雅博 1989 学生用ソーシャル・サポート尺度作成の試み(1) 日本社会心理学会大30回大会発表論文集, 143-144.
- 久田満 2021 学生用ソーシャル・サポート尺度 (SESS) 短縮版の作成と中学生への適用可能性 上智大学心理学年報, 45, 73-83.
- 堀匡・島津明人 2007 大学生を対象としたストレスマネジメントプログラムの効果 心理学研究, 78, 3, 284-289.
- House, J. S., & Robert L. K. 1985 Measures and concepts of social support. In Sheldon Cohen and S. Leonard Syme (eds.), Social Support and Health, Pp. 83-108. New York: Academic Press.
- 稲垣強・澤海崇文・澄川采蚊 2021 顕在的・潜在的グリッドと両親のソーシャルサポートの関連 日本心理学会第85回大会発表論文集, 14.
- 片受靖 2016 新大学生用ソーシャルサポート尺度と精神的健康、援助要請スキルの関連についての研究 立正大学心理学研究所紀要, 14, 65-70.
- 片受靖・大貫尚子 2014 大学生用ソーシャル・サポート尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 ―評価的サポートを含む多因子構造の観点から― 立正大学心理学年報, 5, 37-46.
- 倉住友恵 2019 女子大学生における親、教員、友人への学業サポート希求に関する探索的検討 ―信頼感および会話の気軽さとの関連に着目して― 駒沢女子大学研究紀要, 26, 75-80.

- 箕口雅博・千田茂博・久田満 1989 学生用ソーシャル・サポート尺度作成の試み(2) 日本社会心理学会第30回大会発表論文集, 145-146.
- 光橋さおり・村中陽子 2019 看護系大学生の自己調整学習方略とソーシャルサポートならびに時間的展望との関連 ―関東圏内の6大学を対象とした横断的調査― 日本看護学教育学会誌, 29, 1-12.
- 嶋信宏 1991 大学生のソーシャルサポートネットワークの測定に関する一研究 教育心理学研究, 39, 440-447.
- 谷口弘一 2021 大学生におけるサポート、対人ストレス、精神的健康に関する追試研究 日本心理学会第85回大会発表論文集, 57.
- 遠矢幸子 2023 女子短期大学生のストレス耐性とストレス性格傾向との関連 香蘭女子短期大学研究紀要, 65, 33-38.
- 上田敏子・窪田辰政・橋本佐由里・宗像恒次 2012 大学生におけるストレス耐性と心理特性との関連 筑波大学体育科学系紀要, 35, 203-207.
- 山岸さやか 2008 大学生のストレス状況 文教大学情報科学部 社会調査ゼミナール報告書
- 和田実 1998 大学生のストレスへの対処, およびストレス, ソーシャルサポートと精神的健康の関係 ―性差の検討― 実験社会心理学研究, 38, 193-201.

# 玄米ペーストの活用

Utilization of the Brown Rice Paste

北 原 勉  
Tsutomu KITAHARA  
食物栄養学科 准教授

## 1. はじめに

日本における1年間の米の1人当たりの消費量は1962年の118.3kgをピークに一貫して減少傾向で半減している。主食としての米は総供給熱量の2割を占めている。しかし消費量が低迷し減少することは、米の生産農家の減少につながる。需要減少は少子高齢化の影響もあり耕作放棄地などの増加も予想されている。

米の消費拡大は、食料自給率向上を目指す上でも極めて重要とされているが、米粒を炊いてごはんとして食べる以外、米粉加工品として食べることは小麦粉ほど普及していない。

それに反し、小麦は小麦の粒を食べるというよりも、小麦粉として粉に加工し、古代よりパンや麺などとして加工され活用されている。日本でも麺料理やパンなどが普及しており多彩な食文化を形成している。麺、パン、菓子(スイーツ)は小麦粉で作られているものが多い。そこで自給率が高い米の利用拡大を促進するために米粉の活用について検討した。今回、単なる米粉より栄養面でのメリットがある「玄米ペースト」が開発されたので、その活用法の検討と取り組みを行った。

## 2. 目的と背景

米は穀類の中で唯一自給率がほぼ100%と高く、為替レートや海外からの輸入経費の影響も受け難いため自給率が高い米の消費量を復活させることの意義は大きい。現在の米の消費量が低迷している要因には、食生活の変化があり、食の外部化、簡便化、多様化、世帯構造の変化、チルド・コールド技術の進展、物流や購買システムの発展、インターネット、SNS等による食情報発信などが挙げられる。様々な要因で主食がごはん中心であった時代から、喫食に手軽なパン等の小麦粉を活用したメニューへ嗜好が広がっていることがあげられる。パン食は食器洗いなどの面倒な作業が米飯食より少ないことも、理由として考えられる。

主に小麦は小麦粉として加工された後、パンや麺、粉食用途に加工して普及しており、小麦の粒を食べること自体は殆どない。一方、米については、米粒を炊飯して、ごはんとして喫食されることが主流である。米を粉として小麦のように活用できれば、もっと消費の幅が広がり消費拡大が見込まれ、食品輸入に依存する日本で、自給できる米の活用法を広げ、普及の一助になると思われる。また、国内生産国内消費はフードマイレージやバーチャルウォーターの面でも、他国に依存しなくていい米の利用促進はSDGs推進にも沿っている。

### 3. 玄米ペーストの特性と活用

今回玄米ペーストの活用法を検討するにあたり、従来の米粉及び小麦粉の食品加工上の特徴なども含め、玄米ペーストとの違いについて検討した。

#### (1) 米粉の食品加工特性上の特徴

米と小麦の食品加工面での特性の大きな違いは、グルテンの有無である。グルテンとは小麦粉に含まれるグリアジンとグルテニンというタンパク質が水を吸収して網目状を形成するもので、粘り気がありパンやお菓子作りに欠かせない。小麦粉は、薄力粉、中力粉、強力粉とグルテン含量により使い分けられ、様々な食品が作られる。一方、米粉はグルテンが含有されないため、パンなどのように、空気を含有し焼成して膨らむことが難しい。そのため、米粉は団子やせんべいなどに用途が限られている。

#### (2) 小麦の問題点と米での代用の可能性

小児に多い3大食品アレルゲンとして小麦が挙げられる。小麦は鶏卵や牛乳と並んで多い。アレルゲンとなる小麦を摂取することで消化器や皮膚に症状が現れる。しかし、米ではあまり見られない。食品アレルギーという点からも米のメリットは大きい。

また、わが国ではあまり知られていないが、小麦グルテンへの不耐症として知られるセリアック病が欧米では多く報告されている。セリアック病とは、小麦たんぱく質のグルテンへの免疫反応によって小腸が障害を受けることにより栄養の吸収に支障が生じ、腹痛や下痢などの症状が現れる。現在日本では管理栄養士の養成課程カリキュラム上でも、セリアック病についての記述は殆どなく、あまり知られていない。しかし今後日本でも、食の欧米化、小麦の消費が増えてくるに従って注意が必要である。このように、小麦アレルギー症、セリアック病がある患者への主食として、米が代用食品として注目されている。

#### (3) 玄米ペーストの活用方法

米粉としての利用は、和菓子の団子など既存の食品として普段の食生活でも活用されており目新しい加工食品ではない。しかし、すでに団子などの米粉の利用法だけでは、小麦粉代用ほどの消費拡大にはつながらない。既存の米粉の使われ方だけでなく、小麦粉利用食品の代替えなど、今までにない利用法の開発が求められる。一般的に穀類製粉は、主にロール製粉や胴搗(どうづき)製粉の乾式で行われるものが多く、米や小麦やそばなど粒状のものを、乾燥させ気流粉碎加工時に摩擦熱が加わる。また、穀類粉製品を利用した調理時には粉には空気が混ざっているため、ダマを取り除き、よく混ぜ、加水湿潤させて調理を行う必要があり、調理時の負担も大きい。

今回利用した玄米ペーストは乾燥した粉の米粉ではなく、乾燥させない湿潤加工法なので、玄米を加水粉碎し湿潤したペースト状態となっており、ダマの発生が少ない。この玄米ペーストは、「含水玄米粉砕物及び含水玄米粉砕物の製造方法」(特許第7308782号2020年06月18日)によって製造されている。

その他のメリットとして、加水ミキサーされた玄米ペーストは、米粉製造過程の粉碎工程での摩擦熱など発熱による劣化が避けられ、玄米のロウ部分や内皮や胚芽部分も微細化加工が低温下で行われる。今回利用した熊本玄米研究所製造の玄米ペーストは8 $\mu$ mから30 $\mu$ mまでの微細化され湿潤状態のため、劣化が少なく玄米特有の糠臭さがほとんど発生しないことも特徴として挙げられる。食物繊維の摂取にも、この玄米ペーストは、精白米や米粉、小麦粉よりも栄養面でも優れている。

#### (4) 玄米ペーストの特徴

従来の米粉は白米を粉にしたものである。しかし、今回活用法を試みた玄米ペーストは、玄米を含水させ、丸ごと微細化したものである。(写真1)



(写真1) 玄米ペースト

玄米とは、籾殻(もみがら)のみを取り除いた状態のことで構造としては、ぬか層、果皮、種皮、澱粉層、胚乳、胚芽からできている。胚芽は3%で、主にビタミン・ミネラルを含有し、ぬか層は5%で主に食物繊維を含んでいる。胚乳は92%を占め、デンプン、糖分を含み精白米は主にこの部分を食べている。この玄米ペーストは、胚乳だけでなく、食物繊維やビタミン・ミネラルを多く含む、ぬか層と胚芽を含んで微粒子化されている。玄米ペーストは、ぬか臭い、消化負担が大きいといった玄米の欠点を克服し、新たな利用法が広がる可能性がある。通常の米粉は、精白米を乾燥微粉砕し粉末化することが一般的であるが、今回の玄米ペーストは、含水玄米粉砕物の製造方法により、米を1昼夜以上水に浸漬し冷蔵庫内で吸水湿潤化させたのち、低温加水状態で粉砕することで製造されている。このことにより乾燥した米の粉砕よりも、低温で含水状態で微粒子化されることで、ぬか臭さが生じず玄米を丸ごと微粒子化できる。つまり、玄米ご飯のぬか臭さが苦手で敬遠していた人たちにも、ぬか臭くなく玄米を食べることができ、食品としての応用の幅が広がる。さらに、玄米のぬか部分は硬くて消化に悪いということで敬遠されがちであったが、微粒子化されることで、玄米の食物繊維も消化に良い食材として食べることができる。また、玄米を丸ごとペースト状に微粒子化していることで、茶色い色の玄米ご飯(Brown Rice)と違い、玄米であっても全体の92%を占める胚乳が白いため、色は白く、玄米らしい茶色い色にはならない。このことは、食品加工した際にも玄米とは気が付きにくい。

また、ビタミン・ミネラル・食物繊維の摂取ができるだけでなく、小麦粉と比べてグルテンフリーである米の粉のメリットを生かし、小児アレルギー対応食としても利用範囲が広がる。

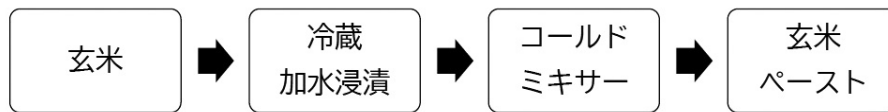
一般に玄米ご飯は健康食として認知されており、玄米のメリットは多くの人が知る所である。しかし、玄米ご飯は、ぬかの皮が口に残り硬く食べにくい、硬い、ぬか臭いなど、白米より体に良いことはわかるが食べにくくて美味しくなくて普及には至っていない。

#### (5) 玄米ペーストの加工法

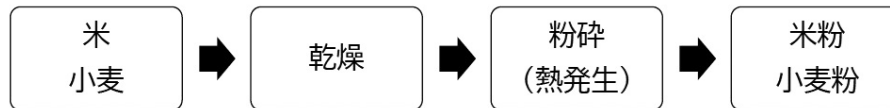
玄米ペーストは、通常の乾燥粉末化された米粉とも違い、製造方法に特徴がある。一般的な小麦粉や米粉は乾燥させ、粉砕する際、摩擦熱等により熱変性がある製法となるが、玄米ペーストの加工法は、特許を取得した「含水玄米粉砕物の製造方法」によって、低温加水粉砕化されたものである。熱変性もなく玄米特有の、ぬか臭が生じにくい製法である。(図1)(図2)



(図1) 玄米ペースト製造法(加水コールドミキサー方式・含水玄米粉砕物の製造方法)



(図2) 一般的な米粉・小麦粉製造法 (乾式ロール製粉、胴搗(どうづぎ)製粉粉碎方式)



色と匂い、さらに消化吸収が良いことも含め、玄米の弱点がクリアされている。このため、広い分野での利用拡大が期待される。単なる米粉のレシピとは異なる利用法が期待される。

そこで、今回、玄米ペーストの特性を知り、その特性を生かした活用法について検討を行った。

#### (6) 玄米ペーストの調理特性

グルテンを含まない玄米ペーストの調理特性を調べた。

ごはん(米粒)が食べられない方へのペースト食・介護食への応用を想定し、玄米ペーストを水で懸濁した。(写真2)



(写真2) 玄米ペーストに加水し懸濁した状態

##### (1) 玄米ペースト1対水2加水後の加熱

玄米ペースト50g + 水100cc (玄米ペースト1 : 水2)を加熱、攪拌した。

ベシヤメルソースのように、糊状のペーストに半固形成した。性状としてはクリームチーズ状のように、やや硬めに半固形成した。(写真3)



(写真3) 玄米ペースト1対水2加水、加熱結果(クリームチーズ状)

## (2) 玄米ペースト1対水3加水後の加熱

玄米ペースト50g+水150cc（玄米ペースト1：水3）を加熱、攪拌した。

上記(1)よりもなめらかに半固形成。カスタードクリーム状になめらかに半固形成した。(写真4)



(写真4) 玄米ペースト1対水3加水、加熱結果 (カスタードクリーム状)

## (7) 玄米ペーストを加水加熱後の半固形成についてのまとめ

半固形成については、玄米ペースト1対水2の比率のものは、クリームチーズ状の固さであったので、スプーンで食べる半固形成ゼリー食と同様の玄米食として喫食に適していると考えられる。

また、玄米ペースト1対水3の比率のものは、カスタードクリーム状に半固形成され、ドリンクゼリータイプにとっても適用可能と見込まれる。

## (8) 玄米ペーストの原材料構成と栄養成分値

従来のソフト・ゼリー食は、糖類は少糖類、単糖類、増粘剤を主体として作られているのに対し、玄米ペーストは、米のでんぷんが主体であるので、連日喫食する食事としては、より通常の消化形態に近く、玄米特有の成分も一緒に摂取できるため一般的な粥ミキサー食よりも、全粒食として栄養的に有用である。加水浸漬して製造される玄米ペーストの原料は、100g 当り水稻(玄米)53.5g、米ぬか油3.3g、水43.2g となっており、栄養成分値は(表1)のとおりである。

(表1) 玄米ペーストの栄養成分

玄米ペースト原料	100g当り 内容量	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	炭水化物 g	カリウム mg	カルシウム mg	鉄 mg	VB1 mg	VB2 mg	食物繊維 g
水稻(穀粒)玄米	53.5	187	3.6	1.4	39.5	123	5	1.1	0.22	0.02	1.6
米ぬか油	3.3	30	0	3.3	0	0	0	0	0	0	0
水	43.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	100	217	3.6	4.7	39.5	123	5	1.1	0.22	0.02	1.6

このように玄米の成分が丸ごと微粒化して含まれているソフト・ゼリー食は現在、あまり製品化されておらず、ビタミン・ミネラルを含む玄米ペーストを活用したソフト・ゼリー食としての利用価値は大きい。

## 4. 結果 (玄米ペーストレシピ)

### 1. 玄米ペーストの利用法

米の利用を増やすには、玄米ペーストのみでの利用だけではなく、小麦粉との混合で米粉パンなどの利用法も検討が必要である。そこで、小麦粉と玄米ペーストの混合によるパンの焼成について検討した。

今回は小麦粉と玄米ペーストを配合し、基本的なパンを作り焼成を行った。

(I) 玄米パン(小麦粉と玄米ペーストのミックス)の焼成

一般的な小麦粉パンレシピをベースに小麦粉の一部を玄米ペーストに置換し1:1で使用した。

玄米ペーストは加水により53.5%なので、乾燥米粉換算とすれば小麦粉2対米粉1の比率での混合となる。(写真5)(写真6)

レシピ

玄米ペースト	190g
水	190g
強力粉	190g
製パン用グルテン	30g
バター	30g
砂糖	30g
ドライイースト	12g

玄米ペーストに水と強力粉、製パン用グルテン、バター、砂糖、ドライイーストを混ぜ、捏ねた後、発酵させパンドウを形成し焼成した。



(写真5) 玄米ペースト小麦粉混合パンドウ (写真6) 小麦粉と玄米ペースト混合ドウを焼成

玄米臭さはほとんど感じられない。小麦粉とグルテン添加にて通常のパンとほぼ同じ膨らみで焼成できた。食感も柔らかく、一般の食パンと遜色なく玄米入りパンが焼成できた。(写真7)



(写真7)(写真8) 焼成できた玄米入り小麦粉パン

## (Ⅱ) 玄米ペーストプリン

玄米ペーストをそのまま加熱すると、プディング状に半固形化するのですが、菓子(スイーツ)系としての活用も検討した。プリンや杏仁豆腐、豆腐花のような菓子(スイーツ)とすれば、米粉の団子だけでなく、利用拡大につながる。デンプンの糊化した粘着性があるので、アミラーゼ酵素が入った半固形化補助剤のプリンナール®(メディファイン社)を使用して食感をプリン状とした。尚、冷蔵耐性があり、冷蔵庫10℃以下5日間保存でも固くならず市販のプリン菓子(スイーツ)と変わらず利用可能であった。(写真8)(写真9)(写真10)

## レシピ(2カップ分)

抹茶あずきプリン		杏仁みかんプリン		きなこ小豆プリン	
玄米ペースト	60g	玄米ペースト	60g	玄米ペースト	60g
水	100g	水	100g	水	100g
砂糖	10g	砂糖	15g	砂糖	10g
抹茶	0.5g	杏仁霜	3g	きな粉	3g
小豆こしあん(加糖)	10g	みかん缶	6g	小豆こしあん(加糖)	10g
プリンナール®(酵素)	2g	プリンナール®(酵素)	2g	プリンナール®(酵素)	2g



(写真9) 抹茶小豆プリン



(写真10) 杏仁みかんプリン



(写真11) きなこ小豆プリン

## (Ⅲ) 玄米アイス

玄米ペーストの利用法としてアイスクリーム代用品を検討した。玄米ペースト利用アイスのメリットとして、給食施設や病院などの施設給食において、提供に時間がかかっても溶け切ってしまう、溶けないアイスは一定の需要がある。でん粉・お米ベースのアイスは、濃度が一定量有れば溶けにくい。少し溶けても、形状が維持されやすく食べやすい。玄米ペーストも白濁しているので、一般的なミルク・アイスと遜色ない。油脂と砂糖が主成分の普通のアイスにくらべ、油脂添加無し、乳製品無しということで乳アレルギーフリーアイス、又は脂質制限がある膵臓病食向けにも推奨できる。風味は今回は米と相性が高い小豆を使った小豆風味アイスとした。

玄米ペーストアイス 小豆風味 こしあん(加糖)使用

## レシピ

玄米ペースト	50g
水	450g
小豆こしあん(加糖)	75g

玄米ペースト50gに水を450g加え懸濁する。鍋で加熱すると、半固形化するのでへらで攪拌する。トロミ状に全体が半固形化してきたら、こしあん(加糖)を加え練り上げる。こしあんが混ざったら、アイス型に流し込み、粗熱が取れたら冷凍庫で凍結する。完全に凍結したら、型から抜いてアイスクリーム(アイスバー)の完成。(写真12)



(写真12) 玄米アイスバー (小豆味)

玄米ペーストで半固形化したものを凍結しアイス化しているため、溶けても液体になりにくいアイスができた。玄米ペーストの濃度を上げると氷感のあるガリガリ食感からねっとり感が増しアイスクリーム感が増すので、目的に応じて玄米ペーストの濃度を変えると良い。

## 5. 結果の考察

パンの焼成については、100%玄米ペーストだけでは、グルテンがないため空気がドウ内に抱合されず膨らまないためパンの形成は難しいが、小麦粉(強力粉)と合わせグルテン添加することで、通常のパンと遜色ない玄米入りパンを作成できた。小麦粉と玄米ペーストをミックスすることで玄米の栄養素を取り入れることができること、そしてパンとして簡単に食べることができること、米の消費量拡大にもつながることなどメリットもあり普及のハードルは低くなる。玄米ペースト単体で普及を目指すだけでなく、一部小麦粉代替でも十分にメリットがあると考えられる。

プリン状のスイーツでは、半固形化を利用し、プディングやゼリー系に向いている。パンよりも製造は簡便なので、レシピの普及と価格が合えば普及の可能性は高い。特に、乳アレルギーや脂質制限がある人に向けたデザート等への応用も有望である。

アイスについては、溶けにくいこともメリットであり、かつ、従来のアイスの主材料である、乳製品、油脂類の摂取に制限がある人向けには、玄米ペースト利用の代替え食としても有望である。

まだ、様々な応用が考えられるが、使い方がまだ十分に検討されていないので、今後も、玄米ペースト独自の特性を生かした米の消費拡大にも期待したい。

## 6. まとめ

玄米ペーストは単なる米粉と違い、栄養面や加工上のメリット、性状や味に色も玄米ご飯とは異なり、玄米の弱点をカバーしていることなど、米粉にも小麦粉にもない特徴を備えている。そのため利用法が拡大すれば、小麦に一部置き換わることが可能性も秘めている。自給率がほぼ100%であり、為替の影響や海外からの輸送などの手間もかからないため、海外に頼らないで済む米の消費拡大について取り組みにも弾みがつ



くものと考えられる。このように、メリットが多い米の消費拡大に向けて、玄米ペーストの活用レシピが増えるようにしていきたい。

## 謝辞

今回の玄米ペーストの研究についてご協力をいただきました、株式会社熊本玄米研究所の皆様、熊本玄米研究所・浦博之様、株式会社ファイン福岡オフィスの皆様に感謝申し上げます。

## 参考文献

農林水産省 令和4年度食料自給率について

[https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu\\_ritu/012.html](https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/012.html)

星野浩子, et al. セリアック病とグルテンフリー食品. 東京聖栄大学紀要, 2014, 35-47.

鈴木保宏. 米粉パンなどの米粉利用に適する品質特性の解明と好適品種の開発. 米粉の利用により食料の自給力を高めることを目指して. 化学と生物, 2014, 52.12: 796-798.

楠瀬千春. 米粉とデンプンの調理性. 日本調理科学会誌, 2009, 42.5: 361-365.

長沼誠子. 米粉の理化学的性質および調理特性に及ぼす微粉化の影響. 秋田大学教育文化学部紀要 自然科学 巻58, p. 29-35 2003.

大坪研一; 中村澄子. 米粉利用食品の展望. 農林水産技術研究ジャーナル 34巻・12号 p.4-10 (2011-12) 2011.

吉井洋一. 微細米粉の製造技術と利用技術. In: 日本作物学会講演会要旨集 第224回日本作物学会講演会. 日本作物学会, 2007. p. 322-322.

株式会社クボタ, 株式会社中九州クボタ, 株式会社熊本玄米研究所. 含水玄米粉砕物及び含水玄米粉砕物の製造方法. 特開2020-092718 特許第7308782号 2020年06月18日

# 保育者の「言いにくいこと」に関する研究

－ 現職保育者と養成校学生を比較して－

The Study of Delicate Matter for Kindergarten Teachers and Nursery Teachers

－ Comparing Current Teachers and Students －

濱 田 尚 志

Hisashi HAMADA

保育学科 教授

## 要約

保育現場においては保育の質の確保、保育者の離職予防、保育者の働き方が問題となっており、様々な実態調査やこの問題に対応するための現職保育者に対する研修が行われている。筆者はこれまでにアサーション・トレーニングの考え方を取り入れた研修プログラムを実施してきたが、本研究ではその研修プログラムの基礎的資料として保育者（保育士、幼稚園教諭、保育教諭）の保育業務における「言いにくいこと」について、現職保育者及び養成校学生はどう評価するのかをアンケートにより調査し、比較検討を行い考察した。

キーワード：言いにくいこと、アサーション・トレーニング、現職保育者研修、保育・教職実践演習（幼稚園）、保育者養成

## I. 問題と目的

わが国ではコロナ禍を経験し、国家的な課題である少子化傾向がさらに強まっている。人々が安心して出産・子育てができるための環境作りの1つとして、保育所入所待機問題の解消が求められるが、この問題は徐々に改善されてきている。しかし保育現場を見てみると、実際に子どもと関わる保育士の不足問題は依然続いているのが現状であり、また近年では保育現場における事故・事件が大きく報道され、そのことから保育者の働き方の問題、保育の質の確保の問題についてもますます注目が集まるようになってきている。保育の営みは非言語的、身体的に行われる部分もあり、保育所保育指針（厚生労働省、2018）第5章にもあるように、保育者自身または組織による資質向上のための不断のふりかえりが望まれており、筆者も保育者養成校教員としてそのお手伝いをしていきたいと考えている。

筆者は臨床心理学の立場から、保育者の離職問題、保育の質の確保のための現職保育者研修ならびに保育者養成教育に取り組みたいと考え、アサーション・トレーニング（平木、1994）の考えを活用した研修プログラムを作成し、実践してきた（濱田、2021）。

「アサーション・トレーニング」は臨床心理学分野の一理論で、コミュニケーションや対人関係の苦手な人のための行動療法の一技法として北米で開発されたものである（平木、2021）。人間のコミュニケーションを「非主張的」「攻撃的」「アサーション」の3つのパターンに分け、自己尊重の自己表現としての「アサーション」を基本スキルとしたトレーニングを行うものである（平木、2021）。「アサーション」とは「お互いを大切にしながら、率直に、素直にコミュニケーションをすること」とも言うことができる。

筆者は養成校において「保育・教職実践演習（幼稚園）」等の授業を担当しているが、同時に臨床心理学を専門とする研究者として、保育を学ぶ養成校学生や現職保育者が、保育業務における困難や行き詰まりにどう向き合っているかという点に興味を持っている。この保育者の困難への対処・つきあい方について明ら

かにし、解決のための対応のモデルを作り、養成校における実践力養成プログラムや現職保育者の研修プログラムを提案することは重要なことだと考えている。

就職を間近に控えた保育者養成校学生に話を聞くと「年上の方とのコミュニケーションが不安」「自分の言葉遣いが正しいかどうか自信がない」「他の先生に頼みごとができない」という不安が挙がってくる。いわゆるコミュニケーション面の悩みである。また本学卒業生をはじめとする現職保育者からも「わからないことがあっても質問ができない」「会議で発言できるようになるまでには時間がかかる」という声が聞こえる(濱田、2016b)。「言うべき(または言わなければならない)こと」を言えない、または言いにくい保育者が存在することがうかがえる。

現職保育者においても、その悩みとして「同僚とのコミュニケーション」「保護者対応」が上位に挙がってくる。加えて近年では地域社会への対応について話題になることもある。その例として、園における子どもの声や保育活動によりどうしても発生する音に対し、地域住民より意見が出ることなどが挙げられる。園側も地域との関係性については、対立することは決して望んではおらず、より良好な関係を築き、地域においても園の役割を果たしていくべく工夫していきたい思いはある。このような保育者や保育現場における、保育者の同僚とのコミュニケーション、子どもの保護者との関係作り、地域とのつながりや関係性の構築のために、「アサーション」という「対立ではなくお互いを大切にできるコミュニケーション」のあり方を提供することで、何かしらプラスになる貢献ができるのではないと考え、研修プログラムの実施とその効果研究を続けている(濱田、2021など)。

今回、保育現場におけるアサーションの考え方を活用した研修プログラムを実施するにあたり、その基礎的資料として、保育者(幼稚園教諭、保育士、保育教諭)におけるいくつかの「言いにくいこと」について、実際にどの程度言いにくいのかについて数量的に調査することを行う。また調査において保育者養成校在籍学生も対象として加えることにより、比較による分析及び考察を行ってみる。その結果から、課題や今後の養成カリキュラム及び研修のあり方について提案を行いたい。

## II. 方法

方法：アンケート調査(Google フォーム使用)

まずは保育者における「言いにくいこと」の調査のための質問項目を作成するため、筆者が関わっている現職保育士・幼稚園教諭・保育教諭(以後保育者)対象の「カウンセリング研修」(オンライン・リアルタイム形式)参加者に、任意で保育現場における「言いにくいこと」を自由に出してもらった。その中から、筆者が「対職員」「対保護者」「対地域」という3つの対象で分類した合計11問の質問項目を設定し、5段階(5点：言いやすい-1点：言いにくい)で回答してもらう尺度を作成した。保育場面に限らない日常生活における「言いにくいこと」項目も分析の参考となるよう1問加え、計12問の質問を構成した(Table. 1)。

回答はGoogle フォームを使用し、研修時間中(養成校学生は授業時間中)に記入をしてもらうようにした。対象者には回答しないこともでき、回答しない場合も不利益になることはないことを伝えた。

調査対象：1) 現職保育者 先に述べた「カウンセリング研修」(オンライン)参加者に依頼した。無記名とし、回答内容は研修の成果・評価には影響しないこと、回答は任意であることを伝えた。保育者65名の回答を得た。調査対象者の勤務先は幼稚園、保育園、認定こども園と分かれており、職位・勤務形態も主任、副主任、クラスリーダー、パート保育者など様々であった。現在休職している対象者、退職している対象者はいなかった。男性保育者も含まれているが今回は性別による違いは分析対象としなかった。経験年数として3群(1年目から5年目、6年目から10年目、11年目以上)を設定しどこに該当するか回答してもらった。保育者の年齢は20歳～53歳と幅があったが、今回は保育者としての経験年数のみを分析の対象とした。1年目から5年目群(以降若手保育者群)は25名、6年目から10年目(以降中堅群)は18名、11年目以上(以降ベテラン群)は22名であった。研修参加の動機としては「テーマ(または心理学に)に興味があったから」「以

前受講してもう一度受けてみたいと思ったから」「同じ園の園長・職員に勧められて」など様々であった。

2) 養成校学生 筆者担当の授業(保育士資格必修)内において実施した。同じく無記名、回答内容は授業の評価には影響しないこと、回答は任意であることを伝えた。対象となる学生は短期大学保育者養成を主目的とする学科に在学する2年生。2校の養成校において実施し、最終的に77名の回答を得た。養成校学生の中には社会人学生も含まれており、一番年上の対象者は60代であった。男性の学生も含まれている。

調査時期：現職保育者は令和5年8月または9月、養成校学生は令和5年1月または10月であった。

分析方法：統計ソフト IBM SPSS Staisutics ver25を使用した。Levene の検定により各群のデータは不等分散であると判断したため、Welch の一元配置分散分析を行い、多重比較として Games-howell 法による検定を行った。

### Ⅲ. 結果と考察

今回使用した12の質問項目及び現職保育者65名と養成校学生77名の平均点を Table. 1 に示す。質問項目ごとに考察を行う。

Tabel. 1 質問項目「保育者の言いにくいこと」の平均点(5 言いやすい・1 言いにくい)

番号	質問項目	保育者(N=65)	養成校学生(N=77)
3	日常生活 飲食店でお店の人に「頼んだものが来ていない」という	4.11	3.68
1	対保護者 保護者に子どもの持ち物の記名をお願いする	4.23	4.21
5	対保護者 「お子さんが発熱したのでお迎えに来て欲しい」と保護者に電話する	3.71	3.49
11	対保護者 泣いて登園した子どもの保護者に泣いている理由を聞く	4.35	3.71
7	対職員 実習生(自分より年下)に壁面製作の手伝いをお願いする	4.08	3.82
6	対職員 実習生(自分より年下)に食後の片づけをお願いする	4.03	3.77
2	対職員 実習生(年下)の実習録の誤字を指摘する	3.88	3.69
8	対職員 他のクラスの先生にお遊戯室を使う時間を交代してもらいたいとお願いする	3.38	2.65
10	対職員 他の先生から作り物を依頼されたが、作り方が分からないので質問する	4.20	3.73
9	対職員 初めて担当した係の仕事について前年担当だった先生に質問する	4.32	3.78
12	対職員 職員会議で協議している行事の内容について分からないことがあり、全体の場で質問をする	2.48	1.94
4	対地域 地域の方に、運動会の練習のため楽器を使うことを伝えることを頼まれた	3.00	3.32

#### 1) 日常生活場面における言いにくさ

まずは日常生活場面における「言いにくいこと」として「飲食店において注文したものが来ない」という状況について検討する。これは一般的なアサーション・トレーニングのワークや社会技能訓練(ソーシャルスキルトレーニング)の題材としても用いられるテーマである。保育場面とは関係のない質問であるが、この質問において一元配置分散分析を行ったところ4群間に有意差が見られ、多重検定の結果、ベテラン保育者と養成校学生の間に有意差が見られた(Fig. 1)(以後図において\*印は5%水準、\*\*印は1%水準で有意差が認められたこと、†印は有意な傾向が見られたことを示す)。

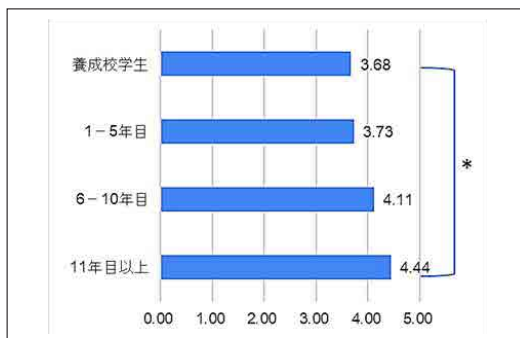


Fig. 1 「頼んだものが来ていない」言いにくさ

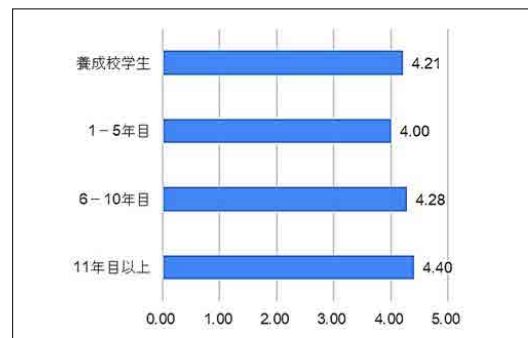


Fig. 2 「持ち物記名」言いにくさ

この項目において有意差が見られるということから、まずは保育経験以前に年齢によりコミュニケーション面の力にかなりの差があることが想像できる。ベテラン保育者は、社会人経験も豊かで同僚や保護者とのコミュニケーションの機会が豊富であるし、トラブルや困った出来事の経験も養成校学生よりは多い方が多数だろう。学生の「言えなさ」すなわち「申出のできなさ」は、経験の少なさの問題なのか、または対象者はコロナ禍にその人生の多くを過ごしておりその影響なのか、デジタルネイティブと呼ばれる最近の学生の持つ世代性という特徴なのか、今回の結果からは分からない。しかしこのような日常におけるコミュニケーション力、申し出る力についても、養成課程のうちからトレーニングが必須になってくるだろう。養成課程における学生生活場面での通常のコミュニケーションも実践力養成につながると言える。またコロナ禍の影響もあり、この時代を生きる大学生は以前と比べますます指示待ちになったという指摘もある(金間、2022)。若者たちの娯楽も家庭での動画視聴やスマホゲームなど受け身で行うものが増えていることも関係する可能性がある。筆者が取り組んでいるアサーションプログラムのような「自分から申し出る」「困った場面をどうするか」といったプログラムは有効であると考えている。さらに心理学分野では「申し出る」ことに関し「援助要請(help-seeking)」スキルの研究(例えば水野(2017))もあり、これからは保育者や養成校学生の「助けを求めるスキル」「言い出す力」についての実態調査も必要と考える。

## 2) 保護者に対する言にくさ

申出と言う視点で検討を続けると、保育業務における申出で必須となることに、保育者から保護者へ依頼するということがある。保護者に対しての依頼は子どもを預かり保育する上で必要性の高いものが多い。その業務において避けることはできないものである。今回の研究においては対保護者の項目として「子どもの持ち物への記名のお願い」「発熱時にお迎えに来てもらうよう電話でお願い」「泣いて登園した子どもの泣いている理由を保護者に尋ねる」の3つを設けた。分析を行った結果、3項目のうち「持ち物記名のお願い」「発熱により迎えに来てほしいというお願い」については現職保育者と養成校学生の間には有意差は見られなかった(Fig. 2、Fig. 3)。

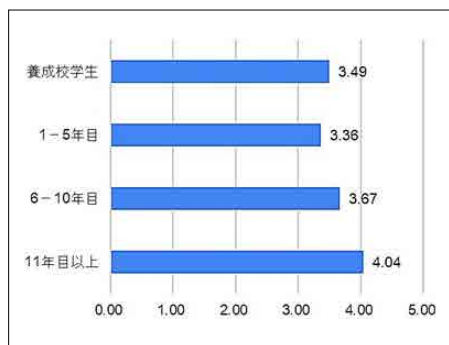


Fig. 3 「発熱のため迎えのお願い」言にくさ

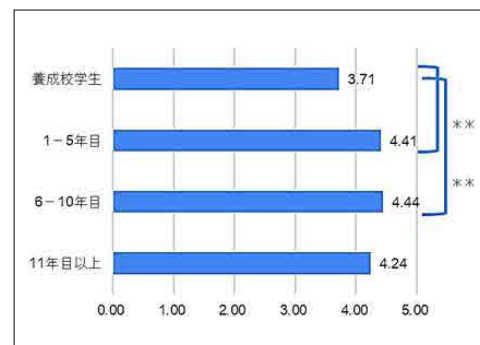


Fig. 4 「子どもの涙の理由を尋ねる」言にくさ

有意差が見られない質問項目の分析結果は、決して養成校学生に対応できる力があると言える証にはならないが、今回の対象者は在学中の全ての実習を経験した短期大学2年生であり、実習合計50日間にわたる経験から保育現場の状況および業務の流れについて理解は一通りできていると考えられ、園で過ごす中で保育技術はともかく保育者としての責任感、倫理観もある程度は身につけているだろう。「持ち物記名のお願い」「発熱により迎えに来てほしいというお願い」は、直接子どもに関係があり、実際に保育者自身も困ることであり、現実的な必要性があるものであり、また他の職員からの直接的な依頼があることであるなど、申出に当たり大きな後押しの力が働いているものであると思われる。養成校学生も現職保育者に近い4点台という結果になったのではないかと考えられる。またこの2つのお願いについては自分の取るべき言動は比較的シンプルなものなのでわかりやすいのではないかと考えられる。



現職保育者にとってもこれらの申出は必要なものという認識は同様だと思われるが、筆者が現職保育者研修におけるロールプレイを見学させてもらったところ、申出に対し保護者側がスムーズに受け入れない場合も実際は多々あることが研修中に意見交換されていた。現職保育者は、そのようなことを踏まえて、お願いを伝える際には保護者が納得できるような理由を伝えること、(園側の都合、保育者側の都合ではなく)子どものための依頼であること、を申出に付け加えていた。このような「往復性のある依頼」で「相手の気持ちも受け止めた上での依頼」は養成校学生には見られないように思う。「言えること」と「対応できること」は別とも考えられる。このような往復性のあるやりとりのモデル提示や経験も養成課程や若手保育者の研修では、ベテラン保育者からもアドバイスを受けながら取り組むと良いのかもしれない。

「泣いて登園した子どもの涙の理由を質問する」については現職保育者と養成校学生間に有意差が見られ、多重比較を行ったところ、養成校学生—若手保育者間、養成校学生—中堅保育者間に有意差が認められた(Fig.4)。本項目「泣く理由を尋ねる」ことは、保護者に、子どもにどのような状況が起きたのか、保育者としての立場を踏まえつつ聴取することであり、先に述べた「往復性のある依頼」であり、また「相手の気持ちも受け止めた上での依頼」である。養成校学生はまずその場面経験自体も少ないため場面の予測がつかず、尋ねることに高いハードルを感じていることが想像される。その分、現場で実際に経験しコツをつかむことで身につく力ともいえるかもしれない。今回の結果では涙の理由を尋ねるのに新人保育者や中堅保育者は養成校学生と比べて「いいにくさ」はない。朝の登園前の子どもの涙の背景には、出発前での家庭での状況など、デリケートな事情もないわけではないだろうが、現職保育者は「子ども中心」の意識を持って保護者に理由を尋ね、そしてコミュニケーションを取ってみることで関係が悪化するようなマイナスの効果ではなく予想外のよい機能もあることも実感しているのかもしれない。このあたりはインタビューで「気まずいことを聞いた後の予想外の反応」「なぜ気まずいことを尋ねることができたのか」等も今後調査してみたい。

このやりとりは1回の依頼のみではなく、理由を聞き、それに対する子ども理解、保護者理解を含んだ保育者の反応を返し、そこからさらに対話を続けていくといった数往復のやりとりを要するコミュニケーションでもある。現場に出る前の学生たちには、人を支援することとは、必要な要件を伝えるだけでなく、相手を受け止め、寄り添い、共に乗り越える仕事であることを、理論だけでなくロールプレイなどワークで体験的に学ぶことができるようプログラムを考えていきたい。

### 3) 同僚に対する「言いにくさ」

保育者の悩みや退職理由に人間関係は上位に挙がってくる。保育所保育指針においても同僚性や組織的保育の大切さが触れられており、また職員間のコミュニケーションについては常に研修のテーマにも取り上げられる。今回の調査では、職員間の「言いにくさ」について「実習生に対するお願い」「実習録の誤字の指摘」「お遊戯室の使用時間の変更のお願い」「業務で分からないことがあった時に前任者に尋ねる」「指示の不明点を質問する」「職員会議の場で不明点について質問をする」の7項目を評価してもらった。結果について図に示す(Fig. 5～11)。

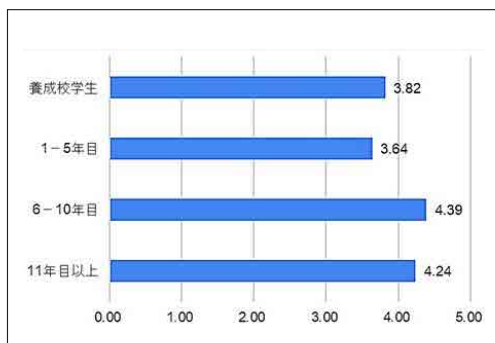


Fig. 5 「壁面手伝いお願い」言いにくさ

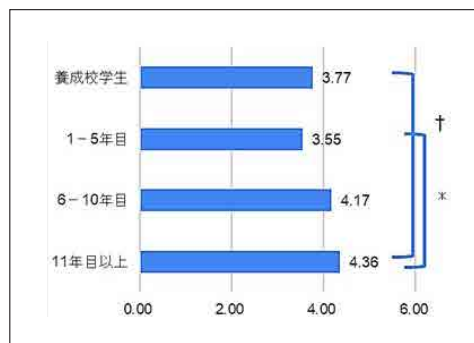


Fig. 6 「実習生片づけお願い」言いにくさ

質問項目「実習生(年下)に壁面のお手伝いをお願いすること」は年代により多少差は見られたものの、有意差は見られなかった(Fig.5)。質問項目「実習生(年下)に食事後の片づけをお願いすること」はベテラン保育者—若手保育者間に有意差、ベテラン保育者—養成校学生間に有意な傾向が見られた(Fig.6)。

その理由としてはどのようなことがあるだろうか。今回は調査していないが、本学の学生からは「自分が頼まれて、自分が取り組むのが嫌と分かっていることを相手にお願いするのは申し訳ない」という意見を聞くことがある。養成校学生も自身の経験から相手の気持ちを推測する力を持っている。しかし、経験不足もあると、きっと相手は嫌に違いないと思いつんだり、または快く受け入れてもらったことがないので不安を強く感じたり、ということもあるかもしれない。若手保育者も年下をお願いすることに言いにくさを感じている。若手保育者も内心依頼を受けた時に複雑な気持ちを持っているのかもしれない。壁面の手伝い依頼については有意差が認められていないが、依頼する方の思いは同じようなものであるかと思う。先の本学学生の意見は頼みにくさの説明として妥当なものではないだろうか。壁面製作については作業が得意な保育者・学生も多く、業務の負荷はともかく依頼は片づけよりはしやすいのかもしれない。ベテラン保育者が若手と比べて依頼ができる理由については、今後の研究でインタビューを用いて明らかにしていきたいが、これまでの筆者の見聞きしたところでは、ベテラン保育者は場全体を見ていてのマネジメントの一環として作業を指示していたり、お願いの必要性やその理由を言葉にし伝える力を持っていることがあるようである。「子どものため」も一番であるが、その内容を理解し、しっかり説明できる力が、保育者全般に求められるのかもしれない。

項目「実習生の誤字を指摘すること」については、ベテラン保育者と養成校学生間に有意差、ベテラン保育者と若手保育者間に有意な傾向が見られた(Fig.7)。養成校学生は自分が指摘を受ける経験を実習生として調査前に経験しており、また相手に指摘する経験も少ないことはあるだろう。最近は養成校の実習指導の授業でも、学生同士でお互いの立てた指導案をチェックし合うという取り組みが行われている。遠慮もあるだろうが、指摘を受け、受け入れる経験を増やすことも必要だろう。若手保育者も指摘しにくさがあるようであるが、自身も書類に自信がないこともあるだろうし、保育者によっては言いにくい理由として「どこまで指摘してよいのか(本人の今後のことを考えて)が分からない」という声も聞く。現場で起こる事象をもとにスキルアップをしていくことはとても重要であり、次につなぐために指摘をし合い、その指摘を受け入れることのできる文化は重要かと思われる。また保育者においてミスは命にかかわることは決してあってはならないが、先輩の失敗談は意外と若手保育者の良い学びの材料になることも聞く。現場で起こるすべての事象から学び合える風土の形成が大切である。

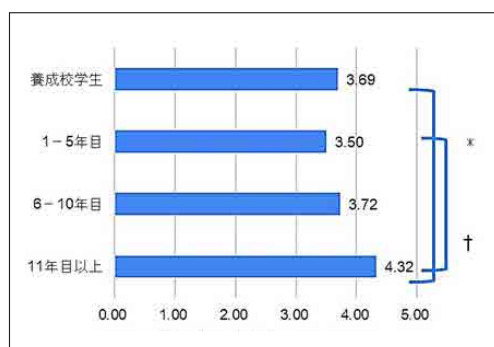


Fig. 7 「実習録誤字指摘」言いにくさ

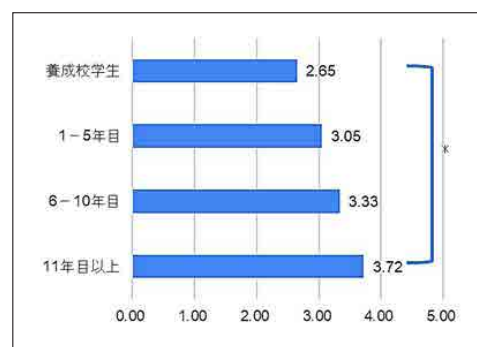


Fig. 8 「お遊戯室の時間変更」言いにくさ

「園に数が限られているお遊戯室の使用時間を、自分のクラスの都合で変更してほしい」というお願いについて検討する。現職保育者よりこのような事態は結構あることだとお聞きする。多重比較の結果、ベテラン保育者と養成校学生間に有意差が見られた(Fig.8)。有意差はないが各群(経験年数)の違いはあるようである。お願いということは、一方的に伝えるだけではなく、先に述べたように、往復のコミュニケーションであり、相手の気持ちも受け入れる必要がある。

学生時代に行うアルバイト勤務ではそのような経験はどうだろうか。アサーションというお互いを大切に  
 するコミュニケーションは、養成校学生、若手保育者のみならずすべてのスタッフにおいて必要ではないかと考  
 える。相手に理解してもらうためにも、理由や必要性をきちんと伝える力、受け止める力を身につけることが  
 必要だと考える。

次は依頼を受けた時の対応である。往復のコミュニケーション場面である。「他の先生から作り物を依頼さ  
 れたが、作り方が分からないので質問する」「初めて担当した係の仕事について前年担当だった先生に質問す  
 る」の質問項目について、多重比較の結果では、前者には有意差は見られず (Fig.9)、後者の養成校学生とベ  
 テラン保育者間に有意差が見られた (Fig.10)。

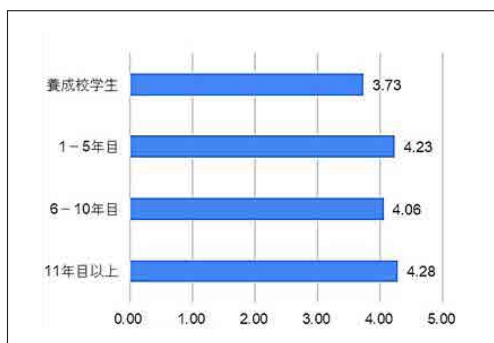


Fig. 9 「作り物指示への質問」言いにくさ

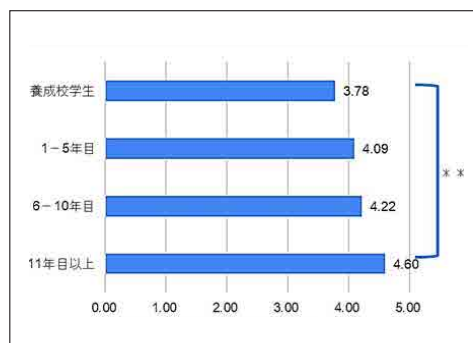


Fig.10 「前担当者への質問」言いにくさ

わからないことがあった時は質問をしないと仕事は進まないのであるが、いろいろと考えてしまうのか経験  
 年数によって言いにくさの違いがある。筆者は近年心理学分野で注目されている「先延ばし (procrastination)」  
 (Lay, 1986) にも関心を持っており、先延ばしの実態について調査を進めたいと考えている。先延ばしにつ  
 いてのワークや先に述べたアサーション・ワークに加え、養成校学生の場合は学園祭の企画準備のようなリアル  
 な仕事体験は往復のコミュニケーションを経験する貴重な機会と考える。コミュニケーションツールとして  
 電子メールやLINEが普及しているが、言いにくさの要素として重要なのは相手の表情や目を見てのコミュニ  
 ケーションであり、メールやアプリでは言いにくいとも言えるということもあるようである。リアルに人と  
 関わる機会は大変重要だと思う。

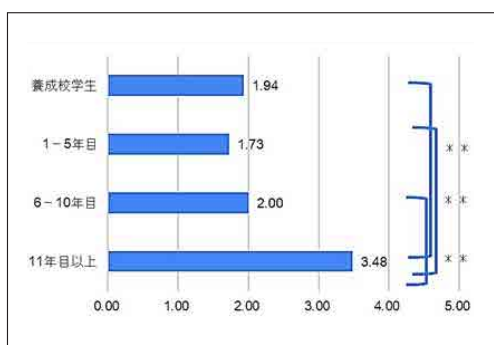


Fig.11 「職員会議中に質問」言いにくさ

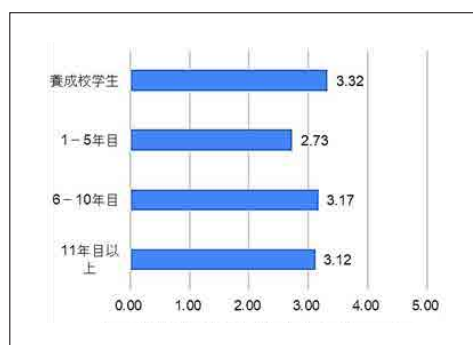


Fig.12 「地域に楽器使用お知らせ」言いにくさ

次は大きめの集団におけるコミュニケーションの題材として「職員会議で協議している行事の内容について  
 分からないことがあり、全体の場で質問をする」ことの言いにくさを調査した (Fig.11)。有意差が認められ、  
 ベテラン保育者は、養成校学生、若手保育者、中堅保育者に比べ会議の場で発言ができていない。というより  
 は若手・中堅保育者ができてない (発言しにくい) と言える。発言しにくさの背景として、どうしても聞き手の  
 反応を気にし、その聞き手が職員会議ではベテラン保育者から新人まで多岐にわたり、人数も多くなる場であ

ることも理解はできる。さらに管理職や経営者が同席することもあるだろう。あるベテラン保育者から、職員会議で発言できたのは30代になってからだったという声も聴く(濱田、2016b)。環境として発言しやすい場作りが重要である。また今回の結果からは明らかになっていないが、会議の最後は、誰かにまとめてほしい(そうすることでうまく終わってほしい)という思いがあることも聞く。「言うこと」と「まとめること(まとまること)」は別である。ベテラン保育者(経験者)は助言を求められつつも、全体の力の向上を考えた時には発言の促し役というファシリテーターに徹するという考えも必要かもしれない。

#### 4) 地域に対する「言にくさ」

対地域の項目として「地域の方に、運動会の練習のため楽器を使うことを伝えること」を設定した。園と地域の関係としては、音の問題のほか、交通の問題(路上駐車、駐車場入れ替え待ちの列)が実際の悩みとして挙がることが多いが、園によって個別の事情が異なることが多いためこのような質問項目について調査した。

結果として経験年数による有意差はなかった(Fig.12)がどの年代においても3点台であり、言にくさを感じている保育者、そして課題となっている園は多いと思われる。今回の結果では養成校学生の平均点は統計的な有意差はないが現職保育者よりも平均点は高く、その理由としておそらく地域と園との関係のような問題について意識をする機会がほばないためではないかと考えられる。

筆者の関わる現職保育者研修ではこのような問題に対し、各園でどのようにしているか意見交換を行うようにしている。現職者研修ではお互い実践している工夫について情報を交わすことが有効だろう。

## IV. おわりに

### 1) 今回の研究について

今回は保育者の「言にくさ」について、「日常生活」「対保護者」「対同僚」「対地域」4対象に対し、ベテラン保育者、中堅保育者、若手保育者、養成校学生の4群の評価結果を比較検討した。言にくさはコミュニケーションの1つの側面であり、生活年齢、保育者経験年数の違いはやはり大きい。経験を重ねること、そして場数を踏むこと、は重要である。加えて「お願いの往復性」「相手の気持ちを考慮するお願い」「場にいる人数」などで言にくさは変わってくるものと思われる。また「失敗したくない」「相手に悪い思いをさせたくない」ということも関係してくるが、「お願いの理由や必然性を言葉にすること」「お願いし受け入れてもらう経験を持つこと」が重要になるだろう。本学のカリキュラム・ポリシーにも挙げているような行事の企画・準備をする中で育つ力への注目も重要になる。

### 2) 研修プログラム、養成教育のあり方

できるだけ具体的な場面を題材として設定し、直接表情を見て話すこと、課題解決のために数往復のやり取りが必要なものを準備する必要があるだろう。また失敗を受け入れる、後輩の参考になるような失敗談を話すようなワークもあるといいだろう。

### 3) 今後の研究について

「援助要請スキルの調査」や「気まずいことを言えた理由の調査」「先延ばしクセの実態調査と対策プログラム」等が今後の研究を進める上で必要になってくる。その結果をもとに、現代の保育者の気苦労の問題、感情労働(emotional labor)(Hochschild, 1983)の問題などについて対処を考え、現職保育者、養成校学生の支援を行っていききたい。

## 付記

参加された受講者の先生方、学生から多くのことを学ばせていただいております。この場を借りてお礼申し上げます。

## 文献

- 濱田尚志・森暢子(2015) 集団授業における学習方略としてのイラスト活用の試み 香蘭女子短期大学研究紀要57,35-44.
- 濱田尚志(2016) 保育所保育士の実践力はどのようにして身につくのか-現代の保育所保育士養成の課題を探る- 保育文化研究2,11-18.
- 濱田尚志(2016b) 保育者の実践力-自由記述からの探索的検討- 香蘭女子短期大学研究紀要58,1-8.
- 濱田尚志(2017) 保育所保育士の実践力養成・研修モデル構築のための調査研究:保育士のストレスとその対処, 社会人基礎力, チームワークの実態について 保育文化研究5,23-31.
- 濱田尚志(2020) 外国につながる子どもと保護者への情報伝達についての演習 香蘭女子短期大学研究紀要62,67-75.
- 濱田尚志(2021) 保育者実践力育成におけるアサーション・トレーニングの利用 香蘭女子短期大学研究紀要63,1-8.
- 平木典子(1993) アサーション・トレーニング さわやかな〈自己表現〉のために 日本・精神技術研究所.
- 平木典子(編)(2021) アサーション・トレーニング活用術 精神療法増刊第8号,金剛出版.
- 保育の友編集部「特集チームワークで効果をあげる」保育の友2019年7月号 全国社会福祉協議会出版部.
- 保育教諭養成課程研究会(2015) 幼稚園教諭・保育教諭のための研修ガイド -質の高い教育・保育の実現のために- 平成26年度文部科学省委託「幼児教育の改善・充実調査研究」
- A.R.Hochschild(著)石川准・室伏亜希(訳)(2000) 管理される心-感情が商品になるとき 世界思想社.
- 金間大介(2022) 先生、どうか皆の前ではめないで下さい いい子症候群の若者たち 東洋経済新報社.
- 厚生労働省(2018) 保育所保育指針.
- 厚生労働省(2021) 保育士の有効求人倍率の推移 <https://www.mhlw.go.jp/content/R2.11..pdf> (2021.11.1ダウンロード)
- 教育と医学の会(2010) 特集 気持ちを伝えるのが苦手な子 教育と医学682 慶應大学出版会.
- Lay, C. H. (1986) At last, my research article on procrastination. Journal of Research in Personality, 20, 474-495.
- 水野治久(2017) 援助要請と被援助志向性の心理学. 金子書房.
- 三田村仰(編)(2021) 特集 アサーションをはじめよう 臨床心理学21-2, 金剛出版.
- 森本美佐・林 悠子・東村 知子(2013) 新人保育者の早期離職に関する実態調査 奈良文化女子短期大学紀要4, 101-109.
- 渡部玲二郎・江幡綾子(2015) 「児童のコミュニケーション能力を高めるための実践研究(1)-小学校におけるアサーション・トレーニングの試み-茨城大学教育学部紀要(教育科学) 64, 353-370.



# アパレル企業の収益認識について

－我が国の収益認識会計基準について－

Revenue Recognition of Apparel Companies  
- About new Revenue Recognition Standards -

青 柳 薫 子

Kaoruko AOYAGI

ライフプランニング総合学科 教授

1. はじめに
2. 収益認識基準とアパレル業界－新会計基準の導入経緯
3. アパレル業界における販売チャンネルと取引形態
  - 3-1 卸販売での買取仕入と消化仕入の収益認識の違い
  - 3-2 変動対価における収益認識
    - (1) 値引き・返品
    - (2) ポイントカード
    - (3) ファッションレンタル
4. アパレル企業における商的習慣と収益認識
5. むすび

## 1. はじめに

本稿は、企業会計基準委員会(ASBJ)より2018年3月(2020年改訂)に公表された企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」および2018年3月(2021年改訂)に公表された企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」(以下、これらを収益認識基準と称する。)について検討し、我が国における新しい収益認識の会計基準について、会計の情報提供機能の側面からアパレル企業における売上の認識、値引き、マークダウン、ポイント値引き等の変動対価、およびファッションレンタルに関する会計処理について考察することを目的とする。

従来、我が国における収益認識に関する会計基準は、企業会計原則における「売上高は実現主義の原則に従い、商品等の販売又は役務の給付によって実現したものに限る」(企業会計原則 第二 損益計算書原則三B)とあったが、収益認識に関する包括的な基準はなかった(あずさ監査法人編 [2023] 3頁)。また、新しく導入された収益認識基準は、国際財務報告基準(IFRS)第15号「顧客との契約から生じる収益」と同等の基準が導入されたとみられる。また、収益認識会計基準は、顧客対価モデルに沿った基準(西山 [2023] 39-41頁)とみなされている。これによりIFRSを適用する企業との比較可能性が向上する(あずさ監査法人編 [2023] 3頁)。企業活動のグローバル化が進展する中、会計基準の比較可能性は重要であり、アパレル業界においても、(株)ファーストリテイリングは早期からIFRSを適用している。我が国の会計基準においてもグローバルスタンダードへの対応が求められている。

アパレル企業の特徴の一つは、電子商取引(EC)をはじめとする多様な販売チャンネルが存在することである。この販売チャンネルの差異は、だれの売上かという売上計上当事者の差異をもたらす。また、消化取引や常態化する変動対価、ファッションレンタル等、アパレル企業に特有の商的習慣からも、収益認識の特徴を探る。

## 2. 収益認識基準とアパレル業界－新会計基準の導入経緯

収益認識基準は、2021年4月以降開始する事業年度より適用されている。従来、我が国の会計は、「実現主義」の下で収益認識が行われてきた。また、企業会計原則における「総額主義の原則」においては、費用および収益は、総額によって記載することを原則とし、費用の項目と収益の項目とを直接に相殺することによって、その全部または一部を損益計算書から除去してはならないと規定されている（あずさ監査法人[2021] 67頁）。

収益認識基準では、基本となる原則として、「約束した財又はサービスの顧客への移転を当該財又はサービスと交換に企業が権利を得ると見込む対価の額で描写するように、収益を認識することである。」（企業会計基準委員会[2020] 第16項）と定義している。そして、以下の(1)から(5)の収益認識の段階を踏み行われる。（企業会計基準委員会[2020] 第17項）

- (1) 顧客との契約を識別する
- (2) 契約における履行義務を識別する
- (3) 取引価格を算定する
- (4) 契約における履行義務に取引価格を配分する
- (5) 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

これらの認識の5つの段階は、国際財務報告基準(IFRS)第15号(以下、IFRS15と称する。)[顧客との契約から生じる収益]のIN7の記されている5つの段階とほぼ同じとみられる。

この中で(1)の契約の識別については、次の5つすべてを満たす場合に、顧客との契約を識別する（企業会計基準委員会[2020] 第19項）としている。

- ①当事者が書面、口頭、取引慣習等により契約を承認し、それぞれの義務の履行を約束している
  - ②移転される財またはサービスに関する当事者の権利を識別することができる
  - ③移転される財又はサービスの支払条件を識別できること
  - ④契約に経済的実質があること(すなわち、契約の結果として、企業の将来キャッシュ・フローのリスク、時期又はサービスの金額が変動することが見込まれること)
  - ⑤顧客に移転する財又はサービスと交換に企業が権利を得ることとなる対価を回収する可能性が高いこと
- また、収益認識基準では、契約とは、「法的な強制力のある権利及び義務を生じさせる複数の当事者間における取り決め」([2020] 第5項)と定義されており、提供される財やサービスが売買の結果、所有権が移転された場合において収益が認識されることとなる。

さらに上記ステップの(5)の履行義務の充足については、「企業は約束した財又はサービス(本会計基準において、顧客との契約の対象となる財又はサービスについては、以下「資産」と記載することもある。)を顧客に移転することにより履行義務を充足した時に又は充足するにつれて、収益を認識する。資産が移転するのは顧客が当該資産に対する支配を獲得した時又は獲得するにつれてである」(企業会計基準委員会[2020] 第35項)とされ、支配獲得することと、支配を獲得するにつれて収益を認識する点は、新しいサービスの認識につながると考えられる。

百貨店などアパレル小売において見受けられる消化仕入(消化取引)は、当該商品の所有者はアパレルメーカーであるが、仲介やマーケティング企画を遂行する小売業は、「本人と代理人の区分」で判断され、本人か代理人かによって、会計処理は異なってくる。

消化取引については、従来、百貨店などの小売業は、商品の所有権や在庫リスクが無くても、本人とみなされれば百貨店はテナントの売上を総額表示として記載する方法と、在庫リスクがないことから、売上を計上せず、小売業が手数料のみを計上する方法である純額表示の方法とがあり、どちらを選択するかは、取引の実態の判断に委ねられてきた(新日本有限責任監査法人[2011] 344頁)。

収益認識会計基準では、収益の純額表示か総額表示かについては、企業が本人に該当する場合と、代理人

に該当する場合に履行義務が異なることを考慮して、企業が本人に該当するか代理人に該当するかを判断することになる（企業会計基準委員会 [2021] 135項）。本人か代理人かについての判断は、IFRS15においても同様である。

本人は、財又はサービスが顧客に提供される前に当該財又はサービスを支配し、本人の履行義務は、当該財又はサービスを自ら顧客に提供することである。この場合には財又はサービスの提供と交換に企業が権利を得ると見込む対価を忠実に描写するために、対価の総額を収益として認識する（企業会計基準委員会 [2021] 135項）。消化仕入の場合、本人とみなされるのは、アパレルメーカーと考えられ、売上を当該企業の収益として認識する。

一方、代理人は、他の当事者が提供する財又はサービスが顧客に提供される前に当該財又はサービスを支配しておらず、代理人の履行義務は、当該財又はサービスが他の当事者によって提供されるように企業が手配することである。この場合には、企業は代理人として手配することと交換に権利を得ると見込む報酬又は手数料の金額を収益として認識する（企業会計審議会 [2021] 135項）とある。よって、新会計基準に準拠すれば、売価（上代）の一部を手数料として受け取る百貨店や小売業は、代理人とみなされる可能性が高いだろう。

なお、適用指針では、自ら財を製造する場合又はサービスを提供する企業が当該財又はサービスに対する支配を顧客に移転する場合には、当該企業は本人であり、本人と代理人の区別の判定はない（企業会計審議会 [2021] 135項）。財やサービスに対する「支配」が重要である。

### 3. アパレル業界における販売チャンネルと取引形態

アパレル業界における販売チャンネルは大きく3つに分けられる<sup>i</sup>。第1は直営店販売である。直営店販売は、アパレルメーカーが流通業を介さず直接メーカーが消費者に販売する。第2は卸販売である。この場合は、メーカーが直接顧客に販売するのではなく、中間流通としての百貨店やアパレル小売店を介して消費者に販売される。

小売業からアパレルメーカーや一次卸から商品を買取り、小売業が顧客に販売する買取仕入は、小売業が納品を受けた（検収した）段階で仕入計上し、在庫や買掛金を認識する。買取仕入は、原則として返品できないとされるが、返品可能とする買取仕入や、返品処理して、消化仕入に切り替える場合もある（あずさ監査法人 [2021] 58頁）。

消化仕入（消化取引または売上仕入）は、小売業者は納品を受けた段階では在庫処理を行うだけで、仕入計上は行わず、在庫や買掛金も認識されない。小売業者は店頭で売れた商品だけを後から仕入れる方法である（あずさ監査法人 [2021] 58頁）。消化取引の特徴は、小売業者が顧客に販売するまでは、仕入先（アパレルメーカーや一次卸など）の在庫として取り扱われ、小売業に配置された商品を顧客に販売した段階で仕入計上し、買掛金を計上する<sup>ii</sup>。

委託販売（委託仕入）は、メーカーや問屋等取引先から商品を預かり、販売を委託される方式である（あずさ監査法人 [2021] 95頁）。この場合、商品の所有権はメーカーや問屋にあり、委託販売契約により小売側が商品を仮受けし、商品の保管を行い、販売実績に応じて手数料を受け取る（あずさ監査法人 [2021] 95頁）（ファッション教育振興会 [2014] 136頁）。

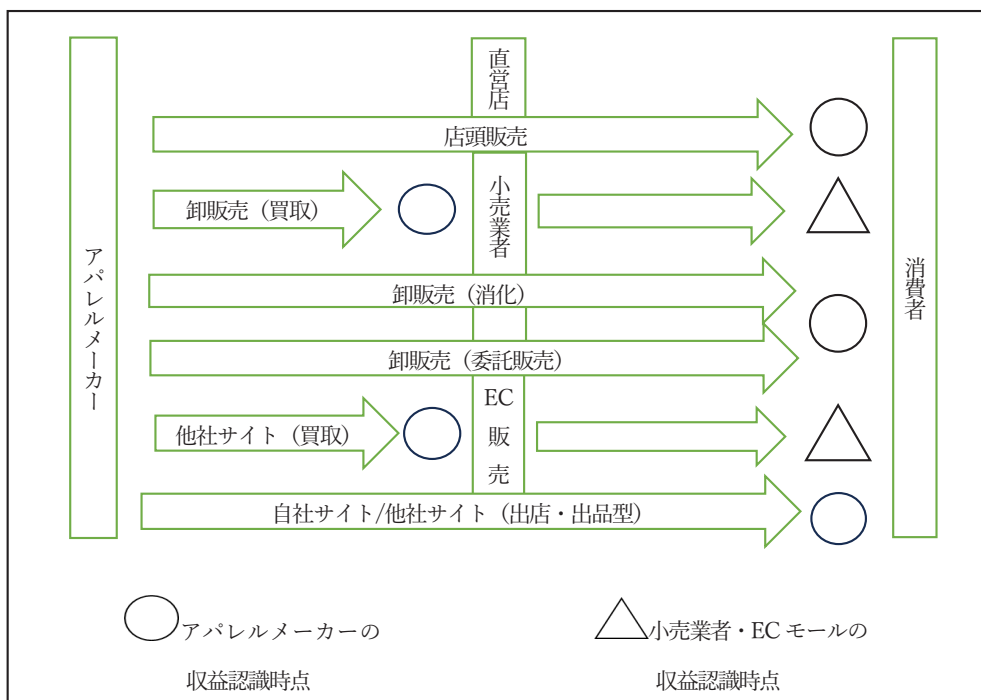
第3の電子商取引（EC）販売は、店舗を介さず電子機器を通じて顧客が商品を購入する方法であり、2010年代以降増加傾向にある。EC販売には消費者に直接販売する方法と、自社サイトを介して商品を販売する取引と、②他サイトを通じて第三者の商品に商品を買取りもらい販売するケースと他社サイトに出店・出品し販売する取引がある。

図表1 販売チャネルと3つの取引形態

販売チャネル	主な販売先	主な取引形態
直営店販売	消費者	店頭販売
卸販売	小売業者(百貨店・ショッピングモール等)	消化 委託販売 買取
	小売業者(上記以外)	買取
EC販売	消費者	自社サイト
	ECモール	他社サイト(出店・出品型)
		他社サイト(買取)

(出所：アパレル業界 第2回：売上および営業費用 / 業種別会計 / 企業会計ナビ。  
[https://www.ey.com/ja\\_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-apparel-2022-02-14-02](https://www.ey.com/ja_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-apparel-2022-02-14-02))

図表2 新会計基準による収益認識基準



(出所：アパレル業界 第2回：売上および営業費用 / 業種別会計 / 企業会計ナビ。  
[https://www.ey.com/ja\\_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-apparel-2022-02-14-02](https://www.ey.com/ja_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-apparel-2022-02-14-02)の一部を修正)

### 3-1 卸販売での買取仕入と消化仕入の収益認識の違い

上図よりアパレル企業の収益認識の特徴は、販売チャネルの違いによって、収益の認識が異なることである。メーカーと顧客の仲介となる小売業者が事前に商品を買取れば、その売上は小売業者やECモール等の収益と認識できるが、直営店、消化取引、委託販売、自社サイトによる販売、および他社サイトに出品するケースでは、新収益認識会計基準においては、アパレルメーカーの収益とみなされている。

特に、百貨店等における小売業においては、買取仕入は、小売業者が納入を受けた検収段階で仕入れを計上し、この時点で商品の所有権は小売業者に移転する。その後小売業が顧客に商品を販売したら、小売業の

売上として収益認識を行う。

一方、消化仕入は、小売業者が顧客に販売した段階で仕入計上し、買掛金を認識するが、商品の売上については、アパレルメーカーの売上として収益認識を行う（あずさ監査法人 [2021] 58頁）。

消化仕入の収益認識については、消化仕入は、小売業側は在庫リスクを抱えず商売を行うことができるため、百貨店のような多種多様な商品を豊富に品揃えする必要がある場合には有用な取引とみなされる一方で、アパレルメーカーや卸売業が在庫リスクを抱えることになるため、小売業の販売利益率は買取仕入に比べて低くなる傾向にある（あずさ監査法人 [2021] 58頁）との指摘がある。

従来の消化仕入の場合、百貨店は、売買契約の当事者になっているが、テナントのマーチャンダイジング（MD）を主体的に担っているとは判断しがたい場合（メーカーが行っている）や重要な在庫リスクを実質的に負担していない場合について、商品売買高を総額で表示している（総額表示）としている場合が少なくない（あずさ監査法人 [2021] 58-59頁）と説明されている。

図表3 消化仕入の会計処理

小売業A社は、消化仕入契約の対象商品Yを10,000円で顧客に現金で販売した。同時にYの仕入先Bとの消化仕入契約に基づき買掛金8,000円で計上した。			
＜純額表示＞			
（借方）現金預金	10,000	（貸方）売 上	10,000
仕 入	8,000	買 掛 金	8,000
＜総額表示＞			
（借方）現金預金	10,000	（貸方）買 掛 金	8,000
		手数料収入	2,000

（出所：企業会計基準委員会 [2021b] 設例30を参考に、一部作成。）

収益認識会計基準における消化仕入の会計処理は、「本人と代理人の区別」によって、取引の当事者を明確にするように規定されている。顧客への財またはサービスの提供他の当事者が関与している場合、財またはサービスが顧客に提供される前に企業が当該財又はサービスを支配しているときには、企業は本人となる。しかし企業が他の当事者が提供する財又はサービスが顧客に販売される前に企業が当該財を支配していないとみなされれば、その企業は代理人となる（企業会計基準委員会 [2021] 第43項）。この本人と代理人の区別については、ECサイトにおける収益認識にも当てはまる。

図表4 本人と代理人の区分

本 人→総額表示→売 上として計上
代理人→純額表示→手数料として計上

このように収益を認識する当事者は、当該商品の支配を獲得したものが売上として計上することになる。アパレル業界特有の消化仕入、委託販売など、商品の所有者がメーカーであっても、これまで総合的に判断し、総額表示をする選択もなされてきた。しかし新会計基準では、代理人<sup>iii</sup>と判断されたならば、手数料のみを表示する純額表示をすることとなる。

### 3-2 変動対価における収益認識

#### (1) 値引き・返品

変動対価とは、顧客の約束した対価のうち変動する可能性のある部分をいう。契約上の対価に変動対価が含まれる場合、顧客に移転した財又はサービス交換に企業が権利を得ると見込む対価の額を見積もる（企業会計基準委員会 [2020] 50頁）。

アパレル業界では、ブランド価値の維持のため、値引きを行わない場合は当該商品を廃棄することがあ



る一方で、シーズン単位で新商品を展開するため、店頭陳列スペースを確保するため、過去のシーズン商品の返品や様々な値引き、いわば継続して行う商的習慣がある<sup>iv</sup>。返品、値引きは変動対価で説明される。このようなマークダウン、セール販売については、あらかじめ値引き額を見積もり、売上から控除して返金負債として計上する。

図表5 値引きの会計処理

当期において10,000円の売上が生じたものの、翌期において1,000円の値引き・マークダウンが見込まれる。			
(借方)現金預金	10,000	(貸方)売上 返金負債	9,000 1,000

(出所：アパレル業界 第2回：売上および営業費用 / 業種別会計 / 企業会計ナビ、6-13を参照。  
[https://www.ey.com/ja\\_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-apparel-2022-02-14-02](https://www.ey.com/ja_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-apparel-2022-02-14-02))

返品は、アパレルメーカーではシーズンの商品の入れ替えを行う際に小売業者から旧シーズンの商品の返品を受けることがある。返品もアパレル業界におけるビジネス習慣であるため、返品額を見積もり、売上から控除して返金負債を計上する。さらに製品を回収する権利として返品資産の計上も行う(あずさ監査法人 [2021] 65-66頁)。従来の会計実務との変更点は、売上および売上原価の金額が、販売した数量すべてに対する金額ではなく、返品が見込まれる部分を除いた金額になる。具体的には、返品が見込まれる部分の調整方法は、売上総利益に対する純額での調整(返品調整引当金の計上)から、収益および売上原価の両方に対する純額での調整として、返金負債および返品資産の計上による総額での調整となる(あずさ監査法人 [2021] 65頁)とされる。

図表6 返品の会計処理

当期において10,000円の売上(原価5,000円)が生じた。翌期に800円の返品が見込まれる。			
<売上上の計上>			
(借方)現金預金	10,000	(貸方)売上 返金負債	9,200 800
<売上原価の計上>			
(借方)売上原価 返品資産	4,500 500	(貸方)商 品	5,000

(出所：あずさ監査法人 [2021] 65-66頁を参照し作成。)

## (2) ポイントカード

顧客が財・サービスを購入した際に、購入金額に応じて一定のポイントを顧客に付与し、一定の条件を満たした場合、そのポイント分を現金と交換し、次の購入に使えるようにするシステムをカスタマー・ロイヤルティ・ポイントという(PwC あらた有限責任監査法人編 [2017] 221-222頁)。実際、カスタマー・ロイヤルティ・ポイントは多くのアパレルメーカーや小売業者において導入されている。企業はポイントを付与することで、次回の購入につながり、また、来店ポイント、お誕生日にポイント付与などの取り組みも見受けられる。

自社運用ポイントカードによる値引きの場合、ポイント分は使用できる重要な権利(ポイント)を与えたことになるため、当該ポイント部分は、別個の履行義務として(あずさ監査法人 [2021] 258頁)、ポイント分を契約負債として収益の繰延を行い、将来ポイントが使用された際に収益認識を行う。ポイント付与するケースはさまざまあり、自社でポイント引当金を設定することもある。

図表7 自社ポイント値引きの会計処理

例：5000円の商品を販売し、このうち50円のポイントが付く場合。このポイントは次回以降使用可能である。ポイント資料率は100%である。			
＜ポイント付与時＞			
（借方）現金預金	5,000	（貸方）売 上	5,950
		契約負債	50
＜ポイント使用時＞			
（借方）契約負債	50	（貸方）売 上	50

（出所：あずさ監査法人 [2021] 259-260頁を参照し作成。）

他方、他者運用ポイントカードによる値引きは、他社が運営するポイントサービスに加盟する場合、企業は商品販売時にポイントを付与しても、ポイントの付与はポイント運営会社が行い、加盟企業が顧客に権利を提供していないと考える。よって、ポイント額はポイント運営会社への未払金と判断する。

図表8 他社ポイント値引きの会計処理

例：当期において20,000円の売上とともに、100円の外社ポイントが付与され当該ポイントは後日他社に精算される。			
＜ポイント使用時＞			
（借方）現金預金	20,000	（貸方）売 上	19,900
		未 払 金	100
＜ポイント料金支払い時＞			
（借方）未 払 金	100	（貸方）現金預金	100

（出所：企業会計基準委員会 [2021] 設例31、あずさ監査法人 [2021] 260頁を参照し作成。）

### (3) ファッションレンタル

株式会社エアークローゼットが運営しているファッションレンタルでは、毎月定額料金を支払うことで、好きなアイテムをレンタルすることができる。また、最新のファッションを楽しむことができる上、気になっているブランドの服も着用することができ、若者の間で人気がある。この場合は会計処理は、レンタル料金は前払いのため、この時点で契約負債として預かり、履行義務の充足に応じて収益を計上する。

図表9 ファッションレンタルの会計処理

例：1か月3,900円で服をレンタルする契約を結んだ。			
＜利用開始時＞			
（借方）現金預金	3,900	（貸方）契約負債	3,900
＜レンタル終了時＞			
（借方）契約負債	3,900	（貸方）売 上	3,900

（出所：アパレル業界 第2回：売上および営業費用 / 業種別会計 / 企業会計ナビ、9-13を参照。  
[https://www.ey.com/ja\\_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-apparel-2022-02-14-02](https://www.ey.com/ja_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-apparel-2022-02-14-02))

## 4. アパレル企業における商的习惯と収益認識

これまでの議論から、アパレル小売業における収益認識について以下の特徴があげられる。

### ①消化仕入：小売企業における収益の純額表示

収益認識基準については、ある取引について、当該企業が本人が代理人かであることを判断し会計処理が異なってくる。すなわち、企業の在庫リスクがなく、価格決定権やMDを主導的に行っているのがアパレルメーカーや卸売業であるならば、川中のアパレル小売は純額表示による収益認識が適切と考えられる。しかし、純額表示では、小売企業にて商品が販売されても、売上を計上しないので、減収となり、小売業の購買力(バイイング・パワー)を売上高として反映されないのではないかとと思われる。実際は、消化仕入取引は、

テナント企業が歩合家賃を入金したり、手数料収入での入金を行っており、消化仕入は、実質的に委託販売と同様な仕組みとして運用されているケースがあったと見受けられる。また、消化仕入はアパレルメーカーや一次卸売業などが在庫リスクを抱えることになるため、純額表示を行う小売業の販売利益率は、買取仕入れに比べて低くなる傾向にある(あずさ監査法人 [2021] 58頁)という指摘がある。

## ②売上の減額

変動対価については、値引き・マークダウン、返品、ポイント値引きについて、値引き・返品については、あらかじめ実施されることを予測し、売上高の一部を「返金負債」として計上する。これまでの実務との相違点は、売上は、値引きや返品を控除した価額で計上されることである。従来は返品調整引当金の計上により、売上総利益に対する純額での調整から、収益および売上原価の両方に対する総額での調整(返金負債および返品資産の計上)する方法になる(あずさ監査法人 [2021] 65頁)。値引販売が慣例となっているアパレル企業では、値引額は企業が負担することとなる。よって、売上高は減少し、減収となる。また、自社ポイント値引きは、ポイント部分の金額は、企業の履行義務として「契約負債」として認識し、収益の繰延べとする。そして後日、このポイントが使用された時にポイント分を売上とする。他社ポイント値引きは、企業に履行義務とは判断されないため、ポイント運営会社への未払金として計上する。企業の負債として認識することとなる。その他、来店ポイント、バースデイポイント等は、ポイント引当金として事前に設定する。

## ③ファッションレンタルとサービスの多様化

ファッションレンタルは、契約時に「契約負債」として認識し、徐々に売上が実現されるように収益認識が行われる。収益認識の基本である5つのステップの(5)のように、契約終了までに徐々にサービスが認識できるようになる。ファッション業界が、従来の財・サービスの提供だけでなく、新しいサービスの提供にも適用可能な会計基準の設定が示唆されていると言える。

## 5. むすび

新会計基準における収益の認識は、販売チャネルによって異なってくる。百貨店、ショッピングモール等のアパレル小売業にみられる消化仕入は、小売業側が売上を計上する総額表示ではなく、売上高と売上原価の差額部分を示唆する手数料収入を収益として認識する純額表示が支持されている。その理由として、顧客に販売する前に、当該財・サービスを支配しているかによって、本人か代理人かで判断される。

変動対価については、マークダウン・返品等を事前に予測し、売上高の一部を履行義務とし、返金負債として計上する。また、企業が運用するポイント制度も、企業の負担すべき履行義務として運用されるようになる。値引きが習慣となっているアパレル業界において、これらの会計処理は、実質的に割引額やポイント付与分を売上から控除され、純額での収益の計上がなされ、従来よりも減収となる。

新収益認識会計基準の導入によって、IFRS との比較可能性は保持され、適切な会計情報が開示される一方、企業の売上高および売上総利益は減少することが考えられる。このような会計処理から生じる収益の減少は、損益計算(税引前当期純利益)にも影響を及ぼすだろう。

ファッションレンタルについては、レンタル料を受け取り時に、レンタル=履行義務とし、契約負債として計上し、レンタル終了後に売上が計上される。この点は、履行義務を充足するにつれて、収益が認識されるという方法がとられている。

このように、新収益認識基準では、企業の取引の実態を適切に開示していく姿勢がみられる。今後、既存の財・サービスの販売にとどまらず、新しいビジネスの形態を認識していく可能性もあるだろう。ビジネスの実態を適切に反映させることは、新収益認識基準の一定の成果といえるだろう。

一方で、これらの収益認識基準が、アパレル企業の消化仕入の場合、代理人となれば、売上ではなく手数料収入を計上することや、値引き分を履行義務と考えることで、純額による収益の認識(藤井 [2020] 8頁)が、企業業績(損益計算)にどのような影響を与えるかについては、今後の課題とする。塚原・小澤・吉田・

中村 [2022] では、売上高については負の影響があるものの、損益についてはほとんど影響がないという指摘もある。会計の利害調整機能、すなわち分配可能利益の算定への影響についての検討も必要と思われる。

<sup>i</sup> アパレル業界の3つのチャンネルについては、引用サイト：アパレル業界 第2回：売上および営業費用 / 業種別会計 / 企業会計ナビ、3-13を参照している。

([https://www.ey.com/ja\\_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-appare-2022-02-14-02](https://www.ey.com/ja_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-appare-2022-02-14-02))

<sup>ii</sup> 消化取引は、アパレルメーカーと百貨店との販売契約になっている場合もあるが、顧客への販売価格(上代)に一定割合を乗じた利益相当額が歩合賃金とされる、実質的な消化取引もある。(引用サイト：アパレル業界 第2回：売上および営業費用 / 業種別会計 / 企業会計ナビ、4-13)

<sup>iii</sup> 本人が代理人かの判定については、新収益認識基準では、本人に該当する場合には次の3つの判定基準がある。(企業会計基準委員会 [2021] 47項)

- ① 約束の履行に対する主たる責任
- ② 在庫リスク
- ③ 価格設定の裁量権

これらを総合的に判断し、財又はサービスが顧客に提供される前に百貨店等が当該財を支配しているかどうかに基づいて決定される。その結果、顧客に販売されるまで、どの時点においてもその使用を指図する能力を有しておらず、商品を支配していないと判断されるならば、卸売販売(小売業)は、代理人として収益を純額表示(手数料収入として計上)することが妥当と判断される。

<sup>iv</sup> この部分は、引用サイト：アパレル業界 第2回：売上および営業費用 / 業種別会計 / 企業会計ナビ、5-13を参照している。

([https://www.ey.com/ja\\_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-appare-2022-02-14-02](https://www.ey.com/ja_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-appare-2022-02-14-02))

## 参考文献

IASB [2001] International Accounting Standard 18, Revenue.

IASB [2010] The Conceptual Framework for Financial Reporting.

IASB [2014] International Financial Reporting Standards 15, Revenue from Contracts with Customers.

PwC あらた有限責任監査法人編 [2017] 『IFRS「収益認識」プラクティスガイド』中央経済社。

あずさ監査法人 [2021] 『業種別アカウンティング・シリーズ6 小売業の会計実務 第2版』中央経済社。

あずさ監査法人 [編] [2023] 『図解 収益認識基準のしくみ 改訂版』中央経済社。

片山覺他著 [2020] 『入門会计学改訂版-決算書が読めるようになるエッセンス-』実教出版。

企業会計基準委員会(ASBJ) [2020] 企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」。

企業会計基準委員会(ASBJ) [2021] 企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」。

企業会計基準審議会 [1982] 企業会計原則 第二 損益計算書原則三B『新版 会計法規集<第3版>』中央経済社。

新日本有限責任監査法人 小売業研究会 [2011] 『業界別会計シリーズ 小売業』第一法規株式会社。

塚原慎・小澤康裕・吉田智也・中村亮介 [2022] 「収益認識適用基準による金額的影響の実態分析」『会計』第202巻第6号、森山書店。

日本ファッション教育振興会 [2014] 『ファッションビジネス(Ⅱ)』一般財団法人 日本ファッション教育振興会。

西山一弘 [2023]「顧客対価モデルによる収益認識」『会計』第204巻第3号、39-52頁。

藤井秀樹 [2020]「収益認識会計基準に関する一考察」『会計』第198巻第1号、1-14頁。

引用サイト：アパレル業界 第2回：売上および営業費用 / 業種別会計 / 企業会計ナビ

[https://www.ey.com/ja\\_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-apparel-2022-02-14-02](https://www.ey.com/ja_jp/corporate-accounting/industries/consumer-products-retail/industries-consumer-products-retail-apparel-2022-02-14-02) : (2023年8月22日閲覧)



# 農作物直売店における栄養活動について

－利用顧客への栄養サポートの考察－

Nutritional activities at agricultural direct sales stores  
- Consideration of nutritional support for customers -

麻 生 廣 子

Hiroko ASOU

食物栄養学科 准教授

## I. はじめに

農作物直売店という場を使った栄養活動は地域住民の健康的な食生活を促進するために有用であり、新鮮で質の高い農産物を提供しているため栄養価の高い状態で提供することができる。スーパーマーケットや量販店はつねに消費者がもとめる商品がならべられ、季節感や旬よりも消費が期待できる物が揃えられている。その一方で農作物直売店は一線を画し主に季節ごとの食材、今一番食べて美味しい旬食材が中心に並べられており必然的に旬のものを手にすることができる。令和3年度の全国の農業生産関連事業による年間総販売(売上)金額は2兆666億円で、年間総販売(売上)金額に占める業態別の割合をみると、農産物直売所が最も高く50.6%を占めており、次位の農産加工と合わせると96.9%となり両者でほとんどの農業生産関連の売上げを占めていることになり農業作物において大きな影響を与えている。この農作物直売店の販売方式は生産者が自身の農産物を直接消費者に提供する販売チャンネルを持っている。これにより、農産物の新鮮さと品質が保たれるだけでなく、生産者と消費者とのコミュニケーションが促進され消費者は食品の生産過程や栄養価についての情報を得る機会が増加する。ある店舗では生産者の写真やメッセージを添えることでより、生産者、販売店、消費者との間に親近感が得られ購買意欲に繋がっていると言える。本研究において地域住民に密着している農作物直売店、「ぶどう畑」の店舗においてアンケート調査を実施し顧客の分析、その結果から店舗利用者への栄養活動に結びつける仕組みの一考察について報告する。

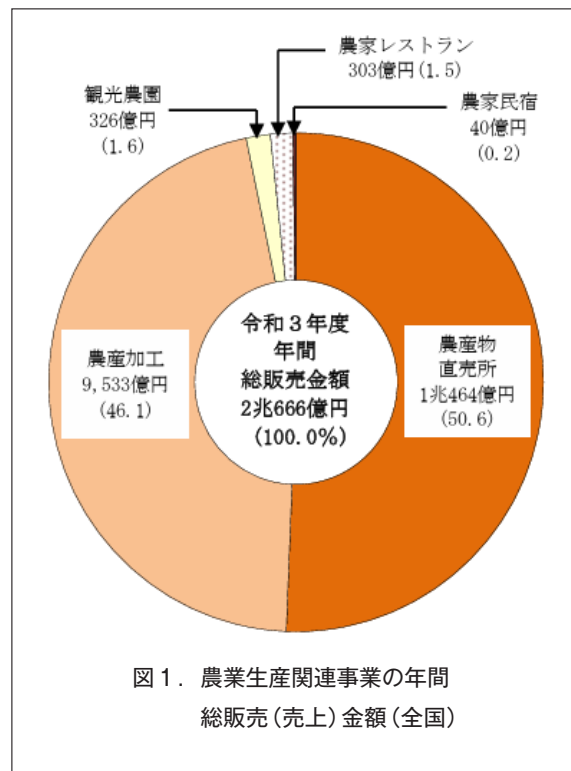




図2. 農作物直売店 ぶどう畑の店舗

## II. 農作物直売店の特徴

農作物直売店の強みは新鮮で高品質な農産物が提供されるだけでなく産地直送または直送に近い形をとるため、品質が良いという特長がある。顧客は品質に信頼を置き、新鮮な食材を手に入れることができ生産者と消費者を直接結びつける役割を果たす。顧客は産地や生産者との直接のコミュニケーションや信頼関係が、食や食品という共通のツールを通じて築かれ、生産者は顧客のニーズを直接的に理解することができ食育でも重点が置かれている地産地消も進む。地元の農産物を取り扱うことで、地域経済の活性化や地産地消の推進に寄与できる。地域コミュニティとのつながりを強化し、地元の農業振興への貢献度も高い。価格競争に関しても中間流通を省くことで顧客はリーズナブルな価格で良質な農産物を購入できるため、コストパフォーマンスも評価される。

食の専門家によって農産物に関する情報や調理方法、栄養情報などを提供することで、顧客の健康意識や食育に役立ちまた、農産物の生産方法や環境への配慮についても啓発することも可能である。これらの強みを活かしつつ、地域社会や顧客と良好な関係を築きながら、地域コミュニティの場を利用しお弁当やお惣菜を活用して健康意識を向上させることができると考える。

農産物を生産者が直接消費者に提供するための小売店でこれらの店舗は通常、農産物の生産地域や農村地域に位置している。地元の農家や生産者が直接出店し、農産物や関連製品を販売している。そのため食に関する信頼性と透明性が量販店より期待できる。

栄養価が高く、消費者にとって魅力的な選択肢となりうる。また地元の農家と地域コミュニティとの結びつきを強化が可能となり、地元経済への貢献また雇用を創出することができ農業振興について可能性が大きい。

また、6次産業の充実も見込めるため地域社会の結束を高め、地域特産品のプロモーションにも寄与することができる。特徴であり魅力の一つに挙げられる、ピンポイントの購買力がある。野菜、果物、ハーブ、花、ハチミツ、乳製品、手工芸品など、多様な商品が販売されることが一般的でこれにより、消費者は選択する楽しみを見いだすと推察される。

販売に関しても中間業者や小売業者を介さずに販売を行うため、農家や生産者は価格設定について制御を持つ。これにより、生産者は公正な価格で販売し、収益を向上させる機会の創出に繋がっている。なお、地





図3. ぶどう畑店内の様子

元の食材が購入できるメリットの一つとして地産地消があげられるが農薬や化学肥料の使用を制限し、持続可能な農業実践を奨励し食品廃棄物の削減など社会課題の解決の向上にも役立つと言える。

福岡市では、市内で生産された農林水産物及びその加工食品を提供または販売する事業者を「ふくおかさん家のうまかもん優先利用事業者」とし現在25の農作物直売店および団体が認定され「ぶどう畑」もその団体である。(令和5年度)

### Ⅲ. アンケート調査

2023年10月天候の良い平日において、農作物直売店「ぶどう畑」を利用していた顧客を対象とし、意識調査アンケートを実施した。日時の選定については天候を考慮した。その理由として悪天候の日は顧客の減少が推察されるためである。開始時間は開店から12:00の1時間の一番顧客数が多い時間帯に照準を合わせた。

調査内容は6項目で、まず性別、年齢、そして店舗の滞在時間、購入したお弁当、惣菜を誰と喫食するか、そして栄養士について聞いてみたいことはあるのかについてである。1時間の来客者のうち38人にアンケート調査に協力していただくことができた。

### Ⅳ. 結果及び考察

アンケート調査の結果、顧客のうち76.3%が女性、23.7%が男性であった。年齢層は10年で刻み集計を行った。最も多い年代は70代で31.6%、次いで60代26.3%、50代23.7%、80代10.5%、40代、30代、20代が同じ割合で2.6%でほとんどの顧客が50代以上であると言える。この結果より農作物直売店を利用している方の年齢層の高さがわかる。よって利用している顧客の大半は50代以上の女性と言い換えることができる。

滞在時間については10～20分が56.8%と半数以上を占めており次いで10分以下が13.5%、20～30分が13.5%、30～40分が10.8%、50～60分が2.7%、60分以上が2.7%という結果で滞在時間は短い傾向にある。また50分以上が合計で5.4%存在するがこの滞在時間はスタッフや常連客との会話によって時間が長くなっていると推察されアンケート調査の際もその様子がみてとれた。

次に誰と食事をするのかという問いには家族という回答が76.3%、ひとりが23.7%で購入目的が家族と自分のためであることがわかった。

また栄養士に聞いてみたいことはあるかという問いに対してはあると答えた方が42.1%、ないと回答した方が57.9%となった。購入のみが目的の顧客に対しては、栄養サポートの情報はそこまで必要ではないように推察される。しかしその一方で食や栄養に関する質問や疑問、また問題などを抱えている方も一定数存在することがわかった。栄養士が、地域住民に対して情報を発信したり、食事に関する困りごとをサポートしたりできる機会があると言える。

聞いてみたい内容については、身体に良い食事内容についての内容がほとんどであった。食と身体の関係は食材の選択方法、選択した食材の調理方法など、具体的なアドバイスは栄養士の専門分野であり、栄養活動のアプローチができる。家族の健康のため、疾病予防のためと病院で栄養指導をうけるまではいかないが専門職から少しだけ聞いてみたいと考えていると推察される。

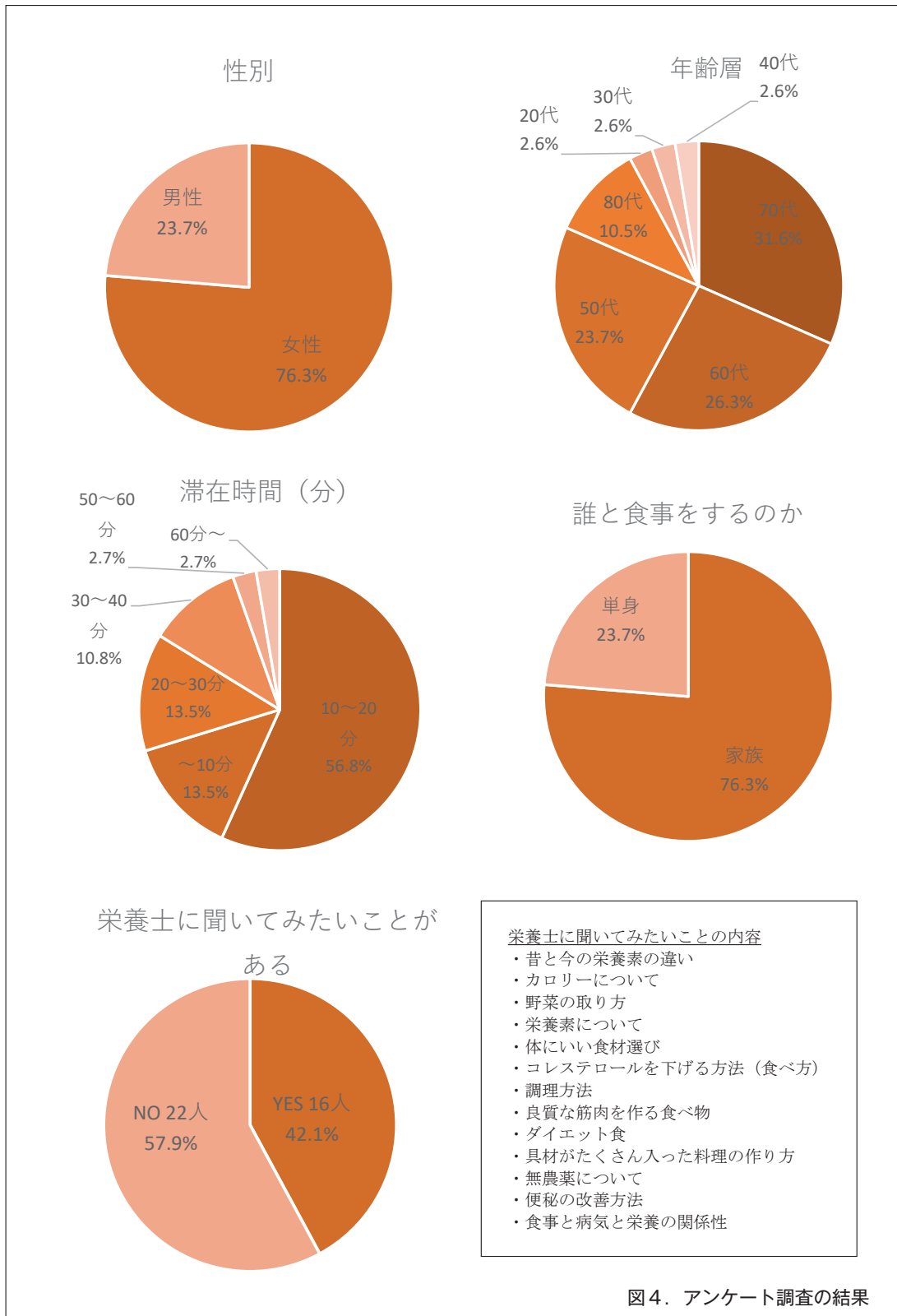


図4. アンケート調査の結果



### 1. 農作物直売店における地域栄養活動に対する分析(クロス SWOT)

農作物直売店における地域栄養活動に対する SWOT 分析を以下に示す。SWOT 分析は、活動の強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) を評価し、活動の戦略立案や改善に役立つツールであり今回の栄養活動立案に関するツールとして引用した。

		外部環境	
内部環境		<b>機会 (Opportunity)</b> 健康志向の高まり 協力体制の確立 持続の可能性 店舗の利用	<b>脅威 (Threat)</b> 情報の過多 競合の乱立 販売チャネルの多様性
	<b>強み (Strength)</b> 専門知識の活用 健康増進への貢献 認知度の活用 鮮度の高い食品	・健康志向の高まりを受け栄養活動ができる ・店舗を利用した地域活動ができる ・店舗のサービス向上に繋がる ・専門的な栄養情報を提供することができる ・新鮮な食材を使った情報提供ができる	・多くの情報の中からの確かなアドバイスができる ・栄養士が介入している店舗として認知度を向上させる ・量販店やネットショップと差別化を図る
	<b>弱み (Weakness)</b> 活動資金の不足 スタッフの不足 限定的な栄養サポート	・定期的に情報を提供する ・学生介入により親近感が湧く ・活動資材、資金を研究活動を通じて行う	・顧客との対面での接点を媒体で補う ・栄養活動(サポート)の効果を検証することが困難

**表1 農作物直売店における地域栄養活動に対する SWOT 分析**

・強み (Strengths) :

専門知識：栄養士は栄養に関する専門知識を持ち、地域の住民に正確なアドバイスを提供できる。  
 健康増進：地域栄養活動は、地域の健康増進に寄与し、慢性疾患の予防や生活の質向上に貢献する。  
 地域認知度：地域での活動を通じて、栄養士の存在が認知され、信頼を築く機会がある。  
 カスタマイズ可能：地域の異なるニーズに合わせてプログラムをカスタマイズできる。

・弱み (Weaknesses) :

資金不足：地域栄養活動には十分な資金が必要であり、資金不足が制約となることがある。  
 スタッフ不足：栄養士の不足や適切な専門家の確保が難しい場合、活動の範囲が限定される。  
 コミュニケーション不足：住民への情報提供やコミュニケーションが不足しており、サービスへのアクセスが制約される。地域活動と栄養士とを結びつける仕組みが不十分である。  
 競合：他の健康関連プログラムや SNS の普及に伴い情報が過多である。顧客が優先事項と競合することがあり、情報の競争が発生する。

・機会 (Opportunities) :

健康意識の増加：人々の健康意識が高まっており、栄養指導への需要が増加している。  
 協力体制：健康関連機関や地元の団体と協力し、地域栄養活動を強化できる機会がある。  
 持続可能性：持続可能な食品生産と消費に対する関心が高まっており、地域でのサステナビリティに関連した栄養活動が支持を受ける可能性がある。

・脅威 (Threats) :

情報過剰：インターネットなどでの情報過剰により、正確な栄養情報を提供する難しさがある。  
 政策変更：政府の健康政策や予算削減が、地域栄養活動に影響を与える可能性がある。  
 競争：他の健康専門家やプログラムとの競合が激しく、市場での存在感を確立するのが難しい。

ということがあげられる。

クロスSWOT分析の結果、SO戦略では、旬の食材を使い栄養活動に活用することができる。また健康志向の高まりを受け栄養士という専門知識を持った資格者が介入することでより適切なアドバイスや情報入手することができる。また地域との協力体制の確立を行えば栄養士のさらなる活躍の場が広がる。その結果ぶどう畑には栄養士が介入していると顧客が認知すれば店舗の評価も購買意欲も高まり、売上げにも貢献できる。WO戦略では定期的に栄養情報を届ける必要がある。顧客にとって新しい情報や、気になること等を解決するためにも多くの介入が必要であり、栄養士は栄養素の話をする、カロリー計算をするという印象を払拭するためにも栄養士養成施設の特色を生かし学生が積極的に関わることで親近感が湧き、身近な存在へと変わる。ST戦略においては多くの情報の中から適切な内容を的確に提供することができ、スーパーやネット販売と差別化を図ることができる。WT戦略では、栄養士が常駐しているわけではないので、顧客との接点を埋めるための工夫が必要となり、またどの程度顧客の中に浸透しているのかという検証は困難であり、栄養活動を行った結果、効果がどの程度あったのかということがわかりにくい現状はある。

## 2. 地域住民の健康課題と栄養活動(サポート)の提案

栄養活動を通じて、適切な栄養素を摂取し、バランスの取れた食事を実践することが、多くの疾病のリスクを低減し、健康を促進する鍵となる。疾病の予防の観点から栄養活動を考えると、まず最も重要なのは免疫システムの強化である。免疫システムは感染症や慢性疾患から身体を守るための重要な要素であり、適切な栄養を摂取することでその機能を向上させることができる。ビタミンC、ビタミンD、亜鉛などの栄養素は免疫システムの正常な機能に寄与することで感染のリスクが押さえられる。

また、慢性疾患のリスクを低減するためには、健康な体重を維持し、心臓血管疾患、糖尿病、高血圧などの疾患の予防が不可欠である。バランスの取れた食事と適切なエネルギー摂取は、肥満を防ぐために重要である。食事の中で野菜、穀物、果物、を適切に摂取し、飽和脂肪酸や糖質を制限することが心臓血管疾患のリスクを軽減させる。

高齢者の食課題のひとつである骨粗鬆症の予防においても、栄養活動は重要でカルシウムとビタミンDの適切な摂取は、骨の健康を維持し、骨折のリスクを軽減させる。特に高齢者は骨粗鬆症に注意を払う必要がある。バランスのとれた食事と適度な運動と組み合わせることで、代謝が高まりさらに予防効果が向上する。総括すると、栄養活動は健康を維持し、多くの疾病の予防に貢献する。適切な栄養摂取、バランスの取れた食事、適度な運動は、免疫システムを強化し、慢性疾患やがんのリスクを低減し、骨粗鬆症や生活習慣病の予防に寄与する。したがって、積極的な栄養活動は地域住民の健全な食生活において必要であると言える。

そこで地域の農作物直売店を使い旬の食材を美味しく食べていただけるように、季節レシピの配布を行った。アンケート調査の結果より店舗の滞在時間が10～20分と回答した方が最も多かったため買い物は速やかに済ませてしまいたい傾向にあるといえる。そのため店内に食事の取り方についての説明掲示や映像媒体、栄養指導コーナーをもうけるより、

**れんこんのはさみ  
柚子照り焼き**

**材料**  
れんこん200g、酢水、片栗粉少々、サラダ油大さじ1

(A) 鶏ひき肉150g、ネギ大さじ1、たまねぎ大さじ1、おろししょうが大さじ1、  
醤油(下味)小さじ1、料理酒小さじ1

(B) 砂糖大さじ1、みりん大さじ1、醤油大さじ1.5 柚子皮少々

**作り方**

- れんこんは皮をむいて厚さ5mm程度の輪切りにし、酢水につける  
ネギ、たまねぎはみじん切りにしておく
- (A) をボウルに入れて、よく混ぜる
- れんこんを並べて、片栗粉をふる
- ひき肉だねを等分のにせて、れんこんではさむ(片栗粉がついている面に、ひき肉が接するようにする)。
- フライパンに油を入れて両面に焼き色をつけ、4～5分ほど蒸し焼きにする
- (B) の調味料をあわせ加熱しに入れてからめ、最後に柚子の皮をちらす

**香蘭女子短期大学**  
Koran Women's Junior College

図5. 季節のレシピチラシ

店舗の食材を使って実際料理できるレシピのチラシのほうが利用の価値が高いと考えた。実際配布の際、非常に喜んで手にしていた。ある利用者は「毎日のメニューを考えるのがとても大変」とアンケート調査の時、話されており、栄養サポートのニーズは介入しだいであると推察される。

## V. 推察される効果と課題

地域の栄養活動は、個人の健康を向上させるだけでなく、地域全体の健康にも貢献する可能性があり、方法も様々であり地域貢献にどのように寄与できるかについての要点をまとめる。

健康増進に対する意識の高まりが最も重要であり少しの行動変容が生活の質を向上させる。本研究においてそのきっかけ作りができれば高齢化社会の大きな課題である自立支援においても食を通じて貢献できる。

アンケート調査の結果より本店舗を利用している顧客は「誰と食事をするのか」という問いに「家族」と答えた方の割合が高く、栄養情報の提供は食育の一環としても活用でき子供から大人まで幅広い年齢層に栄養の価値についての知識を普及させることもできる。これは地域の持続可能な健康づくりに貢献することに繋がり地域のコミュニティの結束を高める手段としても機能する。老若男女問わず、食材を通じて様々な会話が成り立ち、共通の目標である健康を追求することで、コミュニティの協力が醸成され、地域全体の連帯感が生まれる。

食品産業との連携においては、地域の食品産業と協力し、地元の新鮮で持続可能な食品の供給を奨励することで、地域経済と食品供給を安定化させる。栄養活動は地域全体の健康と福祉に多くの利益をもたらす可能性だけではなく地域住民の健康改善、生活習慣の向上、教育、社会的結束、環境への配慮、経済的効果、食品産業との協力、など多方面で地域貢献を果たすことができる。

しかしながら栄養士の地域活動が広がらない現状がありその理由は、さまざまな要因が影響している。栄養情報のみならずいろいろな情報をどこにいても手軽に入手することができる現在、情報を精査する必要がある。影響力が強い人が「この食品がよい」と言えばすべての健康を保証するような印象を受けてしまいがちである。正しい情報を入手するためにも栄養士の持つ専門性が生かされるのであるが、一般顧客と栄養士との接点が無いのが現状である。栄養士がいる場所といえば多くの人が、病院、老人ホームなどの給食施設をイメージするだろう。顔の見える栄養士を目指すことでよりニーズが高まる。

また継続的な栄養サポートは店舗の売上げにも貢献できる可能性がある。旬の食材を使ったレシピを配布することで同じ食材を使い作ってみようという意識が働けよう。店舗には旬の野菜や果物がそろっているため、栄養サポートにおいて健康意識も売上げも双方の向上が見込める。配布するレシピのチラシを事前に打ち合わせておけば、仕入れ量を増やし積極的に販売することもできる。

今後は今あるお弁当やお惣菜に関して栄養価計算の表示、栄養ツールを使った評価などを行い顧客自身が選択できるように工夫し、お弁当を摂取することで生じる過不足の補正を自らできるように、プラス1品の案内や摂りすぎ注意の栄養素などわかりやすい言葉を使い伝えていきたい。

## VI. むすび

本研究は農作物直売店であるぶどう畑と栄養活動を結びつけ、地域の健康増進を図ることを目的とした研究を行った。地域住民と密接な販売チャネルを持つ店舗を利用して、栄養サポートを提案する取り組みを考察した。農作物直売店を利用している顧客の特性を調査したところ栄養士が積極的に介入することで家庭の食卓を豊かにできる可能性があると考えた。利用者は様々な背景があるが栄養士に聞きたいと回答した方が42.1%となりニーズがあった。また同時にニーズの拡大も期待できる。

アンケート調査結果の内容から女性で50代以上がほとんどを占めており、家族の食事準備として利用していると推察され滞在時間が比較的短時間であることから栄養活動の媒体として持ち帰ることのできる、レ

シビのチラシ配布を提案した。レシピのチラシ配布により、紙面で紹介している食材の販売促進となり、売上げの向上にも貢献することができる。

しかしながら課題もあり、栄養活動を拡大、充実させるためには、地域栄養活動の基礎を確立しなければならない。栄養士は栄養価計算を生業とする、給食を作ることが業務と言ったイメージを払拭し身近に存在する、食事についてのちょっとした疑問から答えてくれるという存在こそが必要である。

積極的な介入と親しみやすい環境整備、学生を関わせることで気軽に質問できるというイメージの確立などより身近な存在に近づくことが重要である。今後はアンケート調査をよりブラッシュアップしお弁当やお惣菜のアドバイス、選択方法などについてサポートしていきたいと考える。

## 謝辞

アンケート調査、顧客のインタビューにご協力して頂いたぶどう畑代表取締役の新開玉子様をはじめ店舗スタッフの方々に心より感謝申し上げます。

またアンケート調査に参加した学生に感謝の意を表します。

## 参考文献

農林水産省 HP：「6次産業化総合調査」

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kekka\\_gaiyou/rokujika/r2/index.html](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kekka_gaiyou/rokujika/r2/index.html)

農林水産局 総務農林部 政策企画課 HP

<https://umakamon.city.fukuoka.lg.jp/>

森岡亜紀 2018年 全国農林水産物直売所・実態調査から見える直売所の今と野菜販売 独立行政法人農畜産業振興機構 172巻 48-58

## 領域「人間関係」を体験的に学ぶ授業の試み

An Attempt at Experiential Learning of Interpersonal Relations

梅 田 美 穂

Miho UMEDA

保育学科 講師

### 1. はじめに

グローバル化や情報化の急速な進展、IT化のめざましい発展は、私たちの生活に様々な影響をもたらしてきた。少子高齢化の進行と人口減少社会の到来など、社会の急激な変化は、地域社会での活力の低下や人間関係の希薄化など、様々な形で私たちの生活に影響を及ぼしている。将来の職業として保育者を目指している現役の在学学生は2003年～2005年に生まれており、その影響を最も大きく受けて育ってきた世代といえる。生まれたときからインターネットやスマートフォンなどのデジタル環境が整い、生活の利便性を感じながら成長している。彼女たちが生まれた時代の子育て政策は一億総活躍社会が掲げられ、出産後の女性の職場復帰が目指されていたが、子どもを預けるための保育施設の数(定員)に課題があった。「保育園落ちた、日本死ぬ」というSNSの投稿は記憶に新しい。子育て支援対策として待機児童問題の解消に向けて、保育施設の整備がされていった時代である。つまり両親共に働くことが主流になり、保育所で幼少期を過ごした経験、または家庭で母親から養育されてきた経験など、様々な背景をもつ学生が混在している。

文部科学省では2010年代からICT教育を展開している。特に2019年からはGIGAスクール構想を推進しており、タブレット端末を利用した授業が展開されている。つまり在学中の学生は小学生の頃からインターネットを活用しており、わからないことがあったときにはすぐに調べることができる環境にあった。インターネット環境さえあれば、人に聞くなどしなくてもわからないことを調べることができる。便利な環境は人と直接的に関わる機会を減少させる。SNSを介しての友達とのやりとり、時間を気にしなくても自分の都合でニュースや見たい動画の視聴もできる。人と関わらなくても生活する上で困ることは少ない。それに加え、新型コロナウイルスの感染拡大により、人との関わりは一層減少した。人間関係の希薄化、コミュニケーションの拙さに拍車をかけることになる。中学、高校で仲間とともに過ごし、絆を深めたり摩擦を感じたりしながら、人との関係性を学べたはずの時代に、学校行事などの中止や縮小、3密(密接、密閉、密集)の推進を余儀なくされた。この経験量の少なさが相手の気持ちや推し量ったり、自分の思いを伝えたりすることに苦手さを感じる学生を増やしていると考えられる。もともと人との関わりが少ない学生が、自分の経験を踏まえて、子どもの人間関係をイメージしながら理解を深めていくことになる。保育内容Ⅱ(人間関係)は2年前期に開講している。学生は1年次に保育実習Ⅰを経験済みである。子どもの発達や関わりはある程度理解できてはいるものの、具体的に理解していくことは難しいことが予想される。そこで次の2つを課題として検討していきたい。

- ① 領域「人間関係」のねらい、内容を具体的に理解するための授業の構成について。
- ② 学生が主体的に課題を発見し解を見いだしていくために、領域「人間関係」の授業をどのように展開していくのか。

本研究では令和4年度と5年度に実施した保育内容Ⅱ(人間関係)の授業を振り返りながら、上記課題について考察することとする。本科目は2年前期に開講している。またカリキュラムは旧カリとしての扱いになる。



## 2. 領域「人間関係」について

領域及び保育内容の指導法は、教育課程の変更に伴い、本学では令和5年度入学生より、領域に関する専門的事項と保育内容の指導法に分かれることになった。領域に関する専門的事項は教育の基礎的理解に関する科目へ、保育内容の指導法は領域及び保育内容の指導法に関する科目へと分類され、この両科目の単位を取得する必要がある。領域「人間関係」の「ねらい及び内容」は表1の通りである。内容の取り扱いには<sup>(1)</sup>教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とかかわる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。<sup>(2)</sup>幼児の主體的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児は其中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人ひとり生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。特に、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすること。<sup>(3)</sup>幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。<sup>(4)</sup>道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。<sup>(5)</sup>集団の生活を通して、幼児が人とかかわりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。<sup>(6)</sup>高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること、と示されている。また「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」のうちの「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」と関連が深い。

### 1 ねらい

- (1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- (2) 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。
- (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

### 2 内容

- (1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
- (2) 自分で考え、自分で行動する。
- (3) 自分でできることは自分でする。
- (4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- (5) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- (7) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
- (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
- (9) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- (10) 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。
- (11) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- (12) 共同の遊具や用具を大切に、みんなで使う。
- (13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

表1 領域「人間関係」ねらい及び内容

### 3. 保育内容Ⅱ(人間関係)の取り組みについて

筆者は保育内容Ⅱ(人間関係)を担当し3年目になる。初年度は15回を授業内で演習形式の授業を行った。学生は保育実習Ⅰを履修済みであり、幼児と関わった経験はあった。授業で使用したテキストにはたくさんの事例が示してあり幅広く学ぶことができたが、現場経験の少ない学生には理解が難しく事例検討には深みを感じられなかった。情報量が多い事例には整理しながら考えるのに時間がかかる。また情報量が少ない事例に対しては「援助する」「共感する」という言葉で回答をまとめてしまう。「どのように」や「どうして」なのかを説明することが難しい。それは事例に示された状況の、子どもの気持ちになったり、保育者の気持ちになったりして具体的に考える力が弱く、事例を客観的にしか見ていないからではないかと感じた。そのため、実際に子どもと関わる中で体験的な学びをする必要性を感じた。本学は附属幼稚園が3園あるが、そのうちの一園(以下「K幼稚園」という。)は短大から徒歩5分の距離にあった。そこで、実際にK幼稚園で子どもと関わり、自ら体験することで具体的な学びができるのではないかと考えた。K幼稚園に依頼し、子ども達が自由に遊んでいる登降園の時間帯を活用させていただくこととした。授業は1限開講のクラスと3限開講のクラスがあった。1限開講のクラスは9時20分から10時までの40分間、3限開講のクラスは14時から14時40分までのそれぞれ40分間を対象の時間とした。登園した子から関わり始め全園児の登園が完了する時間まで、或いはお帰りの時間が済み、保護者のお迎えを待っている子や帰りのバスを待っている子が関わるの対象になる。実施については、K幼稚園に授業の趣旨を説明し協力を依頼して了承を得た。

#### 3. 1 令和4年度の取り組み

令和4年度は、7回をK幼稚園の子どもとの関わりの時間にした。幼児が遊んでいる姿を発達に照らし合わせながら子どもの人間関係を理解することを目的とした。どのような遊びを展開しているのか、子どもは誰と、どのような関わりをしているのかなどを年齢や発達に合わせて考えたり自分なりに動いてみたりするなど、体験を通して学ぶことが、学生の主体的な学びにつながるのではないかと考えた。授業内容は表2の通りである。構成は第1～4回目までは乳児から5歳児までの発達過程を確認し、発達に合わせた関わり方や遊びと保育者の役割について講義に加えグループ討議を用い理解を促した。5回目以降は附属幼稚園での子どもとの関わりを中心に学びを深められるようにした。K幼稚園には7回行き、学生は子どもとの関わりについてレポートにまとめていった。

#### 3. 2 令和5年度の取り組み

第4回目までの授業の内容は、前年度と同じであり、第5回目以降が異なる。回数は前年より2回減らし5回とした。グループ活動を中心に行い、各グループで子どもと関わる時の目標を設定した。目標は領域「人間関係」の内容に関連する子どもの活動を予測し、グループ内で着眼点を確認し、それぞれの役割分担をした。例えば「3歳児の」「4歳児の」「5歳児の」と年齢毎に分かれて関わったり、「砂場場面での」「遊具場面での」等と、場面に分けたりしながら個人の目標を明確にしていった。子どもと関わった次の授業では、振り返りをした。明らかになったことを模造紙にまとめ、発表することで、クラス内で共有するようにしていった。

令和4年度	令和5年度
① オリエンテーション・子どもを取り巻く人間関係	① オリエンテーション・子どもを取り巻く人間関係
② 乳児期の人間関係	② 乳児期の人間関係
③ 1歳以上3歳未満児の人間関係	③ 1歳以上3歳未満児の人間関係
④ 3歳以上児の人間関係	④ 3歳以上児の人間関係
⑤ 附属幼稚園での子どもとの関わり1	⑤ 附属幼稚園での子どもとの関わり1
⑥ 附属幼稚園での子どもとの関わり2	⑥ 振り返り
⑦ 振り返り	⑦ 附属幼稚園での子どもとの関わり2
⑧ 附属幼稚園での子どもとの関わり3	⑧ 振り返り
⑨ 附属幼稚園での子どもとの関わり4	⑨ 附属幼稚園での子どもとの関わり3
⑩ 振り返り	⑩ 振り返り
⑪ 附属幼稚園での子どもとの関わり5	⑪ 附属幼稚園での子どもとの関わり4
⑫ 附属幼稚園での子どもとの関わり6	⑫ 振り返り
⑬ 附属幼稚園での子どもとの関わり7	⑬ 附属幼稚園での子どもとの関わり5
⑭ 振り返り	⑭ 振り返り
⑮ 振り返り	⑮ まとめ

表2 保育内容Ⅱ(人間関係)の授業計画

#### 4. 結果と考察

令和4年度と5年度では、K幼稚園の子どもたちと関わった後の、授業展開(レポートの内容や振り返り方)が異なっている。そのため、年度毎に振り返りにすることにする。

##### 4. 1 令和4年度の取り組み

15回の授業のうち4回を子どもの発達の姿をテキスト中心に授業を展開した。その後2回K幼稚園に行く毎に、1回の授業で体験を共有しながら個人の学びを深めていった。振り返りはグループ活動で行った。しかしK幼稚園では個々の考えの基に行ったためメンバー全員が同じ体験をしていない。そのため体験したことを発表し共有することしかできない。「こう関わった方が子どもとのコミュニケーションが活発になるのではないか」などの意見をメンバーからももらうことは気づきにはなるが、次の関わりにどうつなげていくかは個人の力によるところが大きかった。また、グループの雰囲気により気づきの量も異なった。積極的に意見交換をしているグループは学生個人の気付きも多いが、意見交換がすぐに終わってしまうグループは、その後の深め方がわからず困る学生もいた。そのため学びの多い学生を指名し、全員の前で発表するようにし、まとめ方のポイントを伝えることで、それぞれの学びを深められるように意識したが、学生の理解にはばらつきがあり、体験したことを人間関係の視点で考えることが困難のように感じた。レポートの内容は「具体的な事例と、学生の体験(どのような関わりをしたのか)」「子どもの発達の見立て」「発達からどのような関わりをするとよいのか」の構成になっている。ポイントは子どもの発達から、子どもの育ちを見立て、育ちを支えるためにどのような関わりや援助をしていけばよいのかを考えていった。全員の前で発表した学生の事例の中から4つ示す。枠内は体験をまとめた事例、枠外は学生が考えたこと、いずれもレポートの記述の通りに示す。

【事例1 ジュース屋さん(3歳児)】

A君はコップに砂を入れて私と一緒にジュース屋さんごっこをしていました。そこへB君が来て「一緒にジュース屋さんごっこをしたい。」と言いました。A君が「お客さんをやってくれるならいいよ。」と言ったので、B君は洪々了承し3人でお店屋さんごっこを始めました。A君はジュース屋さんになりきって「いらっしゃいませ。今日のジュースはリンゴとオレンジとブドウです。」と言いながら砂の入った3つのコップを私とB君の前に出しました。私が「おすすめはどれですか?」と聞くとA君は「リンゴです。」と元気よく言い、真ん中のコップを持ちあげました。B君は「じゃあ、僕リンゴジュースにする。」と言い、A君の手からコップを取ろうとすると、A君は「ダメ、B君お金ちょうだい。」と答えました。B君はお金のことがよくわかっていなかったのか、不思議そうにしていました。A君は何も言わずB君を見ていました。

A君はお金を払って品物を買うということを理解していたが、B君は理解していなかった。二人の経験の違いで遊びが止まってしまった。そのためクラスの子どもたちとお店屋さんごっこをすれば、B君の経験も増え、楽しく遊べると思う。4つのお店と、それぞれ商品、レジ、お金を作っておく。店員、客という役割分担をし、子どもたちが自ら、何を買おうか考えて、楽しむことができるようにお金と物との交換などが上手くできていないところにサポートに入り、一緒にお店屋さんごっこを楽しむことが大切だと思う。時間を決めて、どちらの役もできるようにしたい。

【事例2 三輪車をつなげて電車ごっこ(5歳児)】

女児6名が6台の三輪車をつなげて電車ごっこをしていた。三輪車の後輪に次の三輪車の前輪を掛けて6台分つなぎ合わせているので、先頭の三輪車しか漕ぐことができなかった。後方の三輪車に乗っていたS児が先頭車両のA児に「漕いでよ」と声をかけるが「重くて動かないよ。みんな一回降りて」というA児の言葉に全員が三輪車を降りた。B児の「一番力持ちのC児が先頭に乗ったらいんじゃない」の発案からC児が先頭車両で漕ごうとするがやはり動かなかった。学生の「6台もつながっているから重いのかも」という言葉掛けに「じゃあ2台ずつにしよう」と子どもたち。結局2台ずつつなげ、遊んでいた。

「6台もつながっているから重いのかも」と、考えたことをそのまま伝えたことによって、子どもの遊びが終わってしまったことを振り返った。重いから動かないという結論を最初に伝えてしまったことで、電車に見立てた長い三輪車を動かすことを諦め、2台ずつで遊び始めてしまった。遊びが続いていくことだけが良いことではないと思うが、友達と協力して解決できることを目指すなら、子どもたちが自分たちで気付けるような言葉掛けや方法があったと思う。例えば1台ずつ減らして行って、何台までなら動くかを試してみる。子どもの意見を試してうまくいかなかったとしても、問題を解決するためにはどうしたらいいか一緒に考えることが大切だと思った。子どもたちは「電車ごっこ」をしていたことから、駅に到着したと見立て、1台ずつ降りていたら良かったのではないか。

【事例3 まだ遊びたい(5歳児)】

片付けの放送が鳴り、多くの子どもが片付けをして保育室の方へ戻っていった。私は全員が保育室に戻っていったことを確認して保育室へ戻ろうとすると、園庭隅で三輪車に乗って遊んでいるA男がいた。私は「みんなもう行っちゃったからA君も三輪車をお片付けしようか。」と言うと、A男は「あっちまで漕いでいく。」と三輪車を片付ける倉庫を指さした。少し遠かったので迷ったが一緒についていくことにした。A男は三輪車にまたがり、漕ぎ始めたが、なかなか前に進むことができなかった。後ろから三輪車を押そうとすると「だめ、押さないで。自分でできるもん。」と言って怒ってしまった。それから私は押すことを止め、見守ることにした。思い通りに進めず、転びそうになりながらも諦めず一人で漕いで行けた。

片付けの放送が鳴ったので、早く片付けなければいけないと思い、A男が気付かないように三輪車を後ろから押ししたり、片付けなくなるような言葉がけをしたりした。しかしA君は「自分でできる。」と言ったため、A君の思いを尊重した。思いを尊重することも大切だと思うが、時間を守ることも大切だと思う。他の子どもは片付けを終え、保育室へ帰っていたので、園庭にはA君が一人取り残されていた。そのことをA君に伝えればわかり、それがA君の成長につながるのではないかと思った。

#### 【事例4 うんていの上を歩きたい(5歳児)】

うんていで棒にぶら下がって腕力やバランス感覚などを使って遊ぶことが一般的ではあるが、その子はうんていの上に乗った。最初、私は危険だと判断し、補助に入ったり支えたりして十分に安全に配慮したり他の大人と見ていたりした。止めるべきだったのかもしれないがどうしてもその子は「うんていの向こう側まで行ってみたい。手伝って」と言っていたので、怖がりながらもゆっくり頑張っている子に「ちゃんと助けるから自分のペースで向こうまで行ってごらん」と声をかけ見守った。高い所は怖かったと思うが、最後まで行けた後は「すごい！初めて行けた。すごい」と私も嬉しくなるほど喜んでいたので「良かったね。最後まで行けてすごいね」とハイタッチした。

領域「人間関係」の「いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ」「自分でできることは自分でする」に関連し、今回の遊びを通して充実感や達成感を得られた。うんていに運動遊びを取り入れ、複数の子どもが両端からスタートし、ぶつかったら足じゃんけんをするなどの遊びをする。5歳児であれば、勝ち負けを理解し、全力で勝ちに向かうことができるので、買った時にはうんていに対して更に自信を持てたり喜んだり、家に帰ってから家族に伝えることもできる。負けた時には自信にはつながりにくいかもしれないが、子どもの頑張りを認めることで少しでもできたという気持ちを持てるようにする。

以上が、学生のレポートである。買い物経験の違いはクラスの子どもたちと一緒に「お店屋さんごっこ」をすることで補えると考えており、お店屋さんごっこの「いらっしゃいませ」「〇〇ください」という一連のやりとりだけに限定して考えている。「自ら考えて遊べるように」という学生の記述から、主体的に子どもが楽しめる遊びにしようと考えているが、何を考えるのか、どうしたら子どもが楽しいと思うのかには言及できていない。遊びの雰囲気や人との関わりに影響するという視点にまでたどり着いていないと考えられる。事例2では「6台もつながっているから重いのかも」と結論を伝えており、一緒に遊んでいる6人が共通の目的をもっていることにすぐに対応できなかった。振り返りで、学生は自分の発言を後悔し、子どもたちの目的が達成できる方法や関わり方を検討している。事例3では子どもの思いを尊重して、三輪車を片付ける子どもの姿を学生が見守っている。子どもの思いを尊重したいと思いつつも、片付けを終えて園舎に帰っていく子どもの姿に学生が焦り、表面的には子どもを応援しながらも内面では「ルールを守ることも大切」というルールの重要性を教えることに学生の意識が向いてしまった。事例4では自分の考えに基づき、子どもがやりたいように遊ばせた。子どもが達成感を味わったことに学生も喜びを感じている。しかし他児が同じような遊びをしたいと言ったときや、年少児が真似をした場合、自信を持った子どもが、大人が見ていない所でもう一度やろうとした場合などの危険性等のリスクについてまで触れておらず、その後の子どもの行動変化など、目に見えない部分の予測が難しい。その後の遊びや活動については、授業で振り返りの時間を確保し、全体で振り返りをする中で子どもの遊びの連続性に気づき、その先の関わりを考えられるような関わりをする必要があるのではないかと考える。



#### 4. 2 令和5年度の取り組み

15回の授業のうち4回を子どもの発達の姿をテキスト中心に授業を展開した。5回目以降は隔週でK幼稚園の子どもと関わり、その翌週は授業内で振り返り体験を深めるようにした。K幼稚園での子どもとの関わりはグループ毎にテーマを決めて行った。テーマを決めたことで、子どもと関わる際のポイントが明確化され、目的を持って子どもと関わることができた。今後の授業展開のイメージができるように、初回は全員同じ目標にし、2回目からはグループ毎に目標を決めていった。振り返りの授業では、子どもとの関わり方の体験について意見交換をしながらグループ毎に模造紙にまとめた。模造紙を使って発表することで、グループ内で理解できた体験をクラス内で共有した。また翌週のK幼稚園での目標と、そのための方法を明確にした。グループ毎で協力して取り組むため、対象とする子どもの年齢を分けたり、注目する部分を決めたりした。具体的には初回の目標を「目線の高さの違いによっての子どもとの関わりやすさの違い」にし、同じ目線で子どもと関わることと高い目線から子どもを見下ろして子どもと関わることの両方を体験して、関わりやすさの違いを確認することとした。2回目以降、学生が目標にしたことを表3にまとめる。重複している目標は省いた。

学生が着目した視点は「子ども理解」「学生自身との関わり」「子どもの年齢や発達」「遊びの内容」による関わり、また領域「人間関係」のねらい及び内容に関するものに大別された。4回目以降は、目標を設定する段階で、領域「人間関係」の内容に関連するものを考えるように助言した。子どもとの関わりを、「場面状況に合わせて」自分の対応を変化させることで工夫しながら、また「自分対子ども」「子ども同士」「子ども対保育者」と視点を変えて考えることができていた。また領域の内容を踏まえて考えることで、子どもの遊びをどうすることで、その内容と関連付けることができるのか、考え実践することができていた。また振り返りをグループ内で行い、発表をするようにしたため、他のグループの活動状況を聞き、次回の自分たちの目標にしたり、発展させたりするような内容を考えることができていたのではないかと感じた。子どもとの体験の回数を重ねることによって、領域「人間関係」のねらいや内容、また幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿に関連づけて考えていた。

こども理解	子どもの発言に対するリアクションが大きい時の反応の違いを知る
	子どもと話すときに目を合わせた時と合わせない時の反応の違いを知る
	子どもの特徴に合わせた関わり方
	子どもの遊びの内容に合わせた関わり方
	年齢別で子どもができること
	何人でどんな遊びをしているか
異年齢児の遊び	異年齢の子どもとどのように関わって遊んでいるか
	外遊びでは異年齢児と関わっているのか
年齢別の遊び	年齢によってどのように遊んでいるのか
	年齢ごとの遊び方の違い
	年齢別によって子どもがどんな遊びをしているのか違いを知りたい
	年齢別に子どもがどのような遊びをするのか
遊びの展開	集団で遊んでいるときに子ども達の中から誰かが抜けたときの遊びの展開についてそのために残された子ども達の表情や反応に注目する
	子どもの遊びはどのように展開されていくか
	ほかの遊びに移るきっかけを知りたい
子ども同士の関わり	子どもはどのように遊びを決めているのか
	遊び始めるときに何を基準に友達や遊びを決めているのか
	友達は遊ぶときにどのような工夫をしているか
	友達はけんかしたときにどのように仲直りをするのか
	子ども同士で遊ぶときにどのような関わりをしているのか
	子ども同士がどのような関わりをしているか
	子ども同士の会話の中でどのような関わりがあるのか
	遊びを通して子ども同士で何を会話しているか
領域に関連	子どもと積極的に関わりながら喜びや気持ちを共感する
	友達と楽しく活動する中でともに共有の目的を見つけて協力する姿とは
	遊びの中でどのように数量や図形、文字に親しんでいるのか
	遊びの中で子ども達がどのような協力をするのか
	子ども達と積極的に関わる中で喜びや楽しみを共感し合う
	子ども達と関わる中で、どのように子ども同士で喜びや悲しみを共感し合っているか
	自分の思いを相手に伝えるか
	どのようにして自分の気持ちを相手に伝えているのか
	子どもが自分の気持ちを伝える時、どのように伝えているか
	共同の玩具をどのようにみんなで使っているのか
	片付け場面についての年齢毎の子どもの取り組み方の違い
	片付けをするときの子ども様子

表3. K幼稚園の子どもと関わる目標

## 5. まとめと課題

本研究の目的は次の2つであった。1つ目の「領域「人間関係」のねらい、内容を具体的に理解するための授業構成」については、学生が領域「人間関係」を具体的に学ぶことを目的として実践する時間を多く確保した。実施した2年間を比較すると、令和4年度は、学びを深めるための体験はできるが、振り返りの焦点が定まりにくかった。そのため学生が何を基準に子どもと関わればよいのか、自分がどのような学びを目指しているのか迷うことがあった。そこで令和5年は、体験すること（学び）を設定することにした。体験、振り返り、クラス内での共有という学びの形を繰り返したことで、自分が体験していないことを感じることでできたり、疑問に思ったことを次の目標として設定したりすることで具体的に学ぶことができていた。しかし子どもとの関わりを通した具体的な学びだけでは、保育内容Ⅱ（人間関係）で学ぶべき内容をすべて学ぶことは難しい。例えば地域の人々との関わりや幼小連携等、体験だけでは学べないこともある。関わりを通した学びに多くの時間を使えば、その他の内容を学ぶには時間が足りない。

2つ目の「学生が主体的に課題を発見し解を見いだしていくために、領域「人間関係」の授業をどのように展開していくのか。」については、関わった体験から「人間関係」に関する行動を整理することが難しかった。目標を設定することで、学生が明確にしたいことがわかりやすく、関わりやすく学ぶことができたと感じる。グループで役割分担することで、同じ関わりでも年齢や遊びの種類によっての違いに気付くなど、幅広く理解することができたのではないかと考える。またグループで協力して行うことで、学生は学びを深められ、一定の成果を感じることはできたのではないかと感じる。しかしグループでの学びとしてまとめられるため、学生の修学意欲によってはメンバー内の誰かに依存することにもなる。そのため、一人ひとりの修学意欲を高められるような授業の展開が必要となるが、このことは今後の課題となる。さらにカリキュラムの編成があり、保育内容Ⅱ（人間関係）は、令和5年度入学生より1年後期の開講科目となる。そのため実習経験のない学生により学びやすくするための工夫が必要になる。本研究では、学生の取り組みについて、2年間に実施した授業を振り返ったが、取り組みの内容について、詳しく精査する必要もあると考えるが、それも今後の課題としたい。本研究で得られた学生の学びと問題点は、領域「人間関係」を学生が具体的に学ぶ上での示唆になったのではないかと考える。

## 参考文献等

1. 関 仁志 (2018) 保育内容5領域と育みたい資質・能力の関係についての考察. 金沢星稜大学人間科学研究, 11 (2), 59-64.
2. 金子亜弥 (2022) 保育内容の領域「人間関係」に関する一考察：保育所における1歳児の行動観察記録を事例として. 埼玉東萌短期大学紀要, 20, 11-20.
3. 上林那津子・田窪玲子 (2021) 領域「人間関係」の授業の向上に向けて (1). 大阪キリスト教短期大学紀要, 62, 64-78.
4. 大西真弓 (2022) 「幼児理解」を深め、保育実践力を高める授業の試み：保育者としての自覚を促す授業の工夫. 神戸女子大学・神戸女子短期大学教職課程研究, 1, 113-121.
5. 文部科学省中央教育審議会大学分科会大学教育部会 (2005) 「我が国の高等教育の将来像」(審議まとめ) (URL: [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm))
6. 文部科学省中央教育審議会大学分科会大学教育部会 (2012) 「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」(審議まとめ) (URL: [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm))
7. 文部科学省中央教育審議会 (2012) 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(答申)

- (URL: [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm))
8. 文部科学省中央教育審議会大学分科会(2020)「教学マネジメント指針」  
(URL:[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360\\_00001.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00001.html))
  9. 文部科学省「スクール GIGA 構想」  
(URL:[https://www.mext.go.jp/kids/find/kyoiku/mext\\_0007.html](https://www.mext.go.jp/kids/find/kyoiku/mext_0007.html))
  10. 文部科学省「領域及び保育内容の指導法に関する科目 科目構成の考え方」(URL: [https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/19/1385791\\_6.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/19/1385791_6.pdf))
  11. 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)

## 汎用的スキルの変化の測定と要因について

Understanding the Measurement and Drivers of Change in Generic Skills

岩 本 久 美 子

Kumiko IWAMOTO

ライフプランニング総合学科 准教授

2022年度、本学ライフプランニング総合学科1年次基礎科目Ⅱにおいて行った社会人基礎力の項目を使用している汎用的スキルについてのアンケート結果で、プレゼンテーション授業の前後で、学生の自己評価に違いがあるかを考察した。今回同じ対象者に、1年後アンケート調査を行い、汎用スキルの変化を測定し、変化の要因について学生へのアンケート結果から考察することで、社会に出た際に、社会との差異を少なくし、社会生活を送れるよう予期的社会化を高めるための今後のカリキュラム等に反映したいと考え、研究を実施した。

キーワード：汎用的スキル、社会人基礎力、予期的社会化、キャリア教育

### 1. はじめに

新規学卒就職者の3年以内の離職率（厚生労働省2022年10月）は、高校卒35.9%、短大卒等41.9%、大学卒31.5%であり、学歴が高いほど離職率は少なくなると言われているが、短大卒等が高校卒を上回っている。経過年数で見た離職率は1年目17.8%、2年目11.8%、3年目12.3%で1年目が3年目までの離職率の42.48%を占めている。

これまで新卒に求められる資質・能力に関する研究を行ってきたが、就職先が求めている資質・能力と学生との差異が大きくなっている。

卒業生に話を聞くと、思い描いていた仕事と差異が大きく、リアリティショックを受けて働き続けることに困難さを感じている。

中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月31日）によると、基礎的・汎用的能力は、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力であると考えている。例えば、企業が新規学卒者に期待する力は、就職の段階で「即戦力」といえる状態にまで学校教育を通じて育成することを求めているわけではなく、一般的には「コミュニケーション能力」「熱意・意欲」「行動力・実行力」等の基礎的な能力等をあげることが多い。社会人・職業人に必要とされる基礎的な能力と現在学校教育で育成している能力との接点を確認し、これらの能力育成をキャリア教育の視点に取り込んでいくことは、学校と社会・職業との接続を考える上で意義があるとしている。

汎用的スキルの現状として、樋口（2008）らによると、正課教育の中で「明示的に」育成されている汎用的能力としては、ICTスキルや日本語のライティング、プレゼンテーションなどが多く、問題解決力、討議力、批判的思考力などの育成は、既存の授業の中で「教員に一任されている」割合が高く、これらスキルの学習成果は見えにくい状況である。「今後特に重視していきたい能力」としては、突出して「問題解決力」としており、特に指導上の今後の課題としては「指導法の開発」、「指導者育成」、「よい教材」が上位にあげられていたと報告している。



本学ライフプランニング総合学科では、学科独自の必修科目として1年次で実施する「基礎科目Ⅰ～Ⅳ」がある。基礎科目の中では学年全体で実施している。2022年度1年次基礎科目Ⅱで実施した授業では、プレゼンテーション授業の内容を多く実施し、プレゼンテーション授業前後のアンケート調査を行った。その調査結果で汎用的スキルについて学生の自己評価の変化を考察した。前調査から1年3カ月後、今回同じ対象者にアンケートを実施することで、学生の自己評価の変化の測定とその要因について研究することとした。

なお杉谷ら(2011)は大学生が共通で身につけることを期待される能力を汎用能力と指定しており、本稿での汎用スキルは同等の意味とする。またアンケート項目は社会人基礎力の項目を使用する。

### 1-1. 学生に不足している能力要素

次に、学生に不足している汎用的能力について、学生、企業、大学教員が考えている現状について述べる。学生に不足している能力要素について、経済産業省『大学生の社会人観』の把握と『社会人基礎力』の認知度向上実証に関する調査』結果を図1に示す。調査対象は企業人事担当者1,179名、大学・修士課程・博士課程の日本人学生1,598名である。

企業が学生に不足していると思う能力要素と学生自身が不足していると思う能力要素の比較である。

企業は主体性、コミュニケーション、粘り強さ、一般常識が学生に不足していると考えられるという結果である。一方で、学生は自分に不足しているものは語学力、専門知識、PCスキルが足りていないと感じていると結果が出ている。基本的にはコミュニケーション能力、主体性が求められていることがわかる。

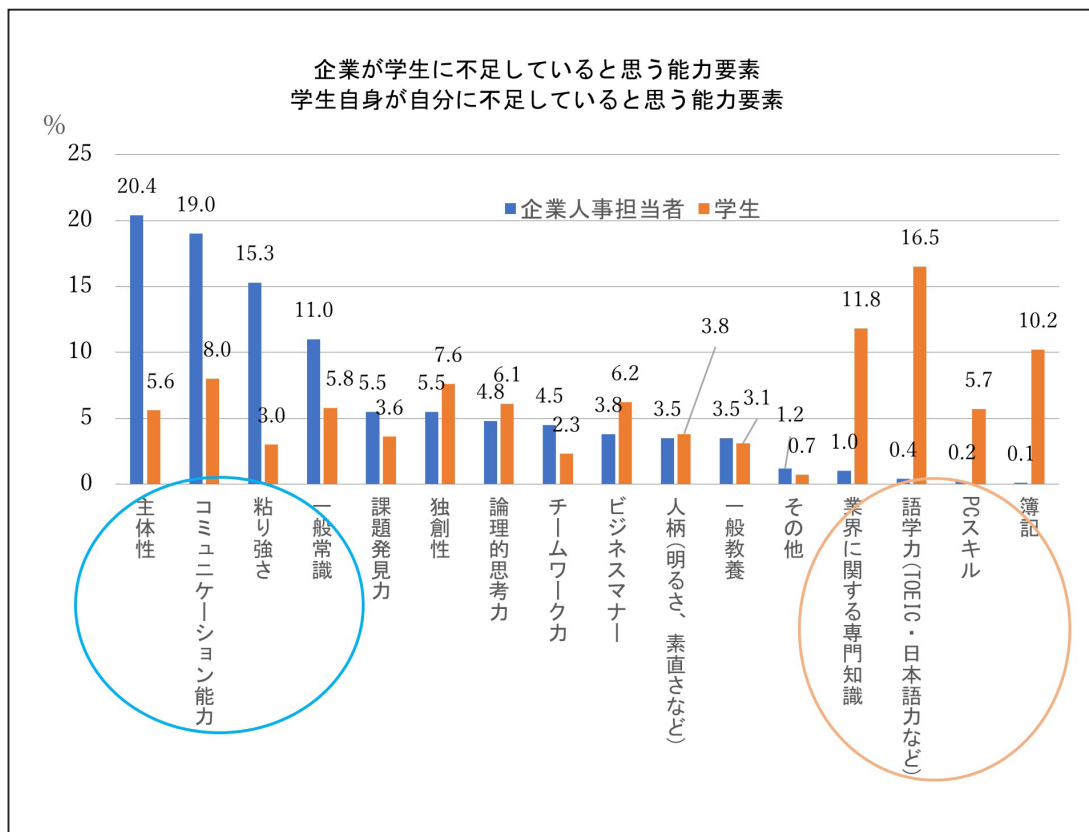


図1 企業が学生に不足していると思う能力要素 学生が自分に不足していると思う能力要素  
(出所：経済産業省「大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査」、マイナビ編集部資料を基に筆者作成)

次に教員が考える学生に不足している能力についての結果を示す。全国大学生生活協同組合連合会「これからの教育と研究～大学生協教員調査」(2023年)によると、大学124校に勤める教員を対象にインターネット上でアンケート調査を実施し、124大学、教員2,240人から回答を得た。(表1)

「授業を進行するにあたって、不足していると思われる学生のスキル」を複数回答式で尋ねたところ、「文章力」と答えた教員が最も多く65.6%に上った。次いで「論理的思考力」(59.2%)が挙げられた。

「英語や語学力」(21.1%)と答えた教員が最も少なく、「パソコンスキル」(26.3%)が続いた。

◆ 授業を進行するにあたって、不足していると思われる学生のスキルを教えてください(最大3つ)

表1 授業進行にあたり、不足していると思われる学生のスキル

合計の数値が多い順	人文・社会・教育	理・工・農	医・歯・薬・健康	合計
文章力	63.8%	68.2%	64.7%	65.6%
論理的思考力	56.4%	63.1%	57.5%	59.2%
情報リテラシー	43.9%	35.8%	51.1%	41.7%
コミュニケーション力	38.5%	40.0%	46.2%	40.0%
パソコンスキル	26.2%	26.1%	27.8%	26.3%
英語や語学力	20.6%	23.0%	16.5%	21.1%

## 2. 2022年度基礎科目Ⅱ授業内容と学生アンケート結果

### 2-1. 基礎科目Ⅱ授業内容

基礎科目Ⅱは1年次Ⅱ期6月～8月で開講しており、学習成果としては、①社会でのコミュニケーションの大切さを理解する。②コミュニケーションスキルを使ってグループワークを行い、プレゼンテーション資料を作成する。③効果的に他者へ伝えるスキルを身に付ける。④地域の抱える問題について解決策を提案する。⑤舞台鑑賞を通して感性を磨き、教養を深める。⑥自分自身の状態や周りとの関係について理解する。としている。基礎科目Ⅱの授業内容は以下のとおりである。主として紹介型、提案型のプレゼンテーションをグループワークで2種類作成することにより、プレゼンテーションと問題発見・解決力の向上を目指した内容としている(表2)。

紹介型、提案型のプレゼン資料作成・発表を4名～5名のグループワークで行っているが、グループのメンバーにより、積極的な意見交換に差が出ており、教員の関わりやグループの構成メンバーも重要であると考えられる。スライド作成において、PC使用とスマートフォンを使用のどちらでも良いとした場合、すべての学生がスマートフォンで作成していた時間もあり、担当クラスの学生にとってスマートフォンのアプリで作成の方が取り組みやすいことが明確となった。

表2 基礎科目Ⅱ授業内容

回	内容	形式	備考
1	社会で求められる人材とは テキスト「プレステップ キャリアデザイン」【第7章】	対面	クラス単位
2	コミュニケーションするってなに? テキスト「プレステップ キャリアデザイン」【第8章】	対面	クラス単位
3	紹介型プレゼンテーション プレゼンテーション2	対面	クラス単位 グループ単位にPC室、教室でプレゼン資料作成
4	抗ストレス講座	遠隔	Google Classroom

回	内容	形式	備考
5	プレゼンテーション3	対面	クラス単位 グループ単位でPC室、教室でプレゼン資料作成
6	発表	対面	クラス単位 グループ単位で発表、他者評価を行う
7	問題発見と解決2(福岡市環境局講演)	対面	外部講師：学年合同
8	問題発見と解決3(全体構成を考える) 提案型プレゼンテーション	対面	クラス単位 グループ単位で構成、内容を考える
9	問題発見と解決4(スライド作成)	対面	クラス単位 グループ単位でPC室、教室でプレゼン資料作成
10	問題発見と解決5(発表準備)	対面	クラス単位 グループ単位で発表準備
11	博多座研修	外部 研修	学年全員
12	博多座研修	外部 研修	学年全員
13	問題発見と解決6(発表)	対面	クラス単位 グループ単位で発表
14	女性のからだ	遠隔	Google Classroom
15	DV 講座	遠隔	Google Classroom

## 2-2. 基礎科目Ⅱ授業 アンケート結果

基礎科目Ⅱでプレゼンテーション授業の前後で社会人基礎力について、アンケートをとった結果を報告する。

### ①調査期間：

第1回 プレゼンテーション2の前(2022年7月)

第2回 紹介型プレゼンテーション発表後

### ②調査対象：1年生 1クラス46名

### ③調査方法：Google フォーム

④調査項目：社会人基礎力の中であてはまると思うものを選んでくださいと該当度を問う質問項目である(表3)。なお、社会人基礎力は汎用スキルと同等の意味で本報告では扱うものとする。

### ⑤調査結果：

回答数 第1回 回答数 45名 回答率97.8%

第2回 回答数 36名 回答率78.2%

Google フォームの回答結果から、プレゼンテーション授業前の第1回の調査では、社会人基礎力の質問項目で自分が「あてはまる」項目としては、上位項目の3つは①傾聴力(33名、回答学生の73.3%)、規律性(33名、73.3%)、③働きかけ力(28名、62.2%)、状況把握力(28名、62.2%)である。その一方で、下位項目の3つは、①「発信力(9名、20.0%)」、②「創造力(16名、35.6%)」、③「主体性(17名、37.8%)」であった。「課題発見力」は20名、44.4%であった。

プレゼンテーション授業前後の1、2回目の「あてはまる」で数値が増加した項目の上位3項目は①「発信力(+10.6)」、②「ストレスコントロール力(+5.0)」、③「実行力(+4.5)」、下位3項目は①「柔軟性(-11.2)」、②「状況把握力(-6.6)」、「規律性(-6.6)」であった。「課題発見力(-5.5)」も減少した。

表3 社会人基礎力の中であてはまると思うもの（回答数 単位：人 構成比：％）

項 目	1回目プレゼンテーション前 (n = 45)			2回目プレゼンテーション後 (n = 36)		
	あてはまる	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	あてはまらない	どちらでもない
(1回目あてはまると2回目あてはまるの項目の差異)						
主体性 + 3.9 あなたは物事に進んで取り組む方ですか	17 (37.8)	10 (22.2)	18 (40.0)	15 (41.7)	5 (13.9)	16 (44.4)
働きかけ力 - 1.1 何かを行うときに、他の人にも働きかけて一緒に取り組んでいくほうですか	28 (62.2)	9 (20.0)	8 (17.8)	22 (61.1)	6 (16.7)	8 (22.2)
実行力 + 4.5 目標を設定したら、そのために確実に行動するほうですか	23 (51.1)	6 (13.3)	16 (35.6)	20 (55.6)	2 (5.6)	14 (38.9)
課題発見力 - 5.5 現在の状況から何か課題や問題点がないか、分析することができるほうですか	20 (44.4)	10 (22.2)	15 (33.3)	14 (38.9)	4 (11.1)	18 (50.0)
計画力 + 2.3 目標のために何をすればいいか、計画を立てて進めるほうですか	24 (53.3)	7 (15.6)	14 (31.1)	20 (55.6)	3 (8.3)	13 (36.1)
創造力 + 3.3 新しいアイデアや方法を考え出すことは得意なほうですか	16 (35.6)	14 (31.1)	15 (33.3)	14 (38.9)	8 (22.2)	14 (38.9)
発信力 + 10.6 自分の意見を相手に解りやすく伝えることができますか	9 (20.0)	16 (35.6)	20 (44.4)	11 (30.6)	11 (30.6)	14 (38.9)
傾聴力 - 1.1 相手のいうことを丁寧に聞くことができますか	33 (73.3)	8 (17.8)	4 (8.9)	26 (72.2)	3 (8.3)	7 (19.4)
柔軟性 - 11.2 意見や立場の違いがあってもそれを乗り越えて働くことができますか	25 (55.6)	7 (15.6)	13 (28.9)	16 (44.4)	2 (5.6)	18 (50.0)
状況把握力 - 6.6 自分や周りの人の状況や関係をすぐに把握できるほうですか	28 (62.2)	7 (15.6)	10 (22.2)	20 (55.6)	5 (13.9)	11 (30.6)
規律性 - 6.6 社会のルールや人との約束を守るほうですか	33 (73.3)	4 (8.9)	8 (17.8)	24 (66.7)	3 (8.3)	9 (25.0)
ストレスコントロール力 + 5.0 社会のルールや人との約束を守るほうですか	19 (42.2)	15 (33.3)	11 (24.4)	17 (47.2)	8 (22.2)	11 (30.6)

### 3. 2023年 アンケート調査について

#### 3-1. アンケート調査

前回アンケート調査以降、学生は学習や就職活動、学外活動などに取り組んできた。その取り組みなどにより、汎用的スキルを計測するために、社会人基礎力の項目を使用して、数値の変化と要因について検討することを目的としてアンケート調査を行った。

①調査期間：2023年11月17日（金）～11月21日（火）

②調査対象：2年生 1クラス43名

③調査方法：Google フォーム

④調査項目：社会人基礎力の中であてはまると思うものを選んでくださいと該当度を問う質問項目である。

<問1>～<問3>までは前回調査と同じ項目とし、<問4>入学してから1年半で自分で特に伸びたと思う能力は何ですか。1つ選んでください。（選択式）、<問5>問4で答えた能力が伸びたと感じる理由と、特に影響があったことを書いてください。（例 理由 就職活動で～インターシップに行って～ 授業でのプレゼンテーション発表で～ ○○のアルバイトで など）（自由記述式）※本来、例などは示さない

が、調査対象者には留学生もおり、今回の調査では例を示すこととした。〈問6〉今後一番伸ばしたい社会人基礎力一つとその理由を書いてください(自由記述式)

### 3-2. アンケート調査

①回答数：24名 回答率 55.8%

②調査結果

詳細は表4～表7に示す。

(1) 〈問1～問3〉社会人基礎力の中であてはまると思うものを選んでくださいと該当度を問う質問項目である。社会人基礎力の質問項目で自分が「あてはまる」項目としては、上位項目の3つは①「傾聴力」(24名回答学生の22名、91.7%)、②「規律性」(20名、83.3%)、③「働きかけ力」、「状況把握力」(18名、75.0%)、その一方で、下位項目の3つは、①「発信力」(3名、12.5%)、②「創造力」(9名、37.5%)、③「課題発見力」(10名、41.7%)であった(表4)。社会人基礎力の質問項目で自分が「どちらでもない」項目としては、上位項目の3つは①「発信力」(13名、54.2%)、②「主体性」、「課題発見力」(10名、41.7%)、③「創造力」(8名、33.3%)であった。社会人基礎力の質問項目で自分が「あてはまらない」項目としては、上位項目の3つは①「計画力」(9名、37.5%)、②「発信力」(8名、33.3%)、③「創造力」(7名、29.2%)であった。

以上のことより、「傾聴力」、「規律性」に関しては80%以上の学生が「あてはまる」と考えており、獲得していることを強く認識していると考えられる。「発信力」、「創造力」、「課題発見力」については「あてはまらない」「どちらでもない」と人により違い、「計画力」については、「どちらでもない」と回答している学生が1名4.2%のため、計画力があるかないか学生が明確に捉えているのではと考えられる。

(2) 〈問4〉入学してから1年半において自分で特に伸びたと思う能力は、状況把握力が5名(20.8%)と一番高く、規律性、傾聴力、計画力、柔軟性が3名(12.5%)、ストレスコントロール力が2名(8.3%)、実行力、主体性、創造力、働きかけ力が1名(4.1%)、未回答1名であった(表5)。

(3) 〈問5〉問4で答えた能力が伸びたと感じる理由と、特に影響があったことについては、キーワードとしては授業でのプレゼンテーション、アルバイト、就職活動、インターシップ、一人暮らし、香蘭祭での活動などであった(表5)。特にアルバイトでの経験を挙げている学生が多くみられた。授業ではプレゼンテーションの発表やグループワークなどであった。

(4) 〈問6〉今後一番伸ばしたい社会人基礎力一つとその理由を書いてくださいの質問の回答は、「実行力」、「発信力」が4名と一番多く、「計画力」3名、「主体性」、「ストレスコントロール力」2名、「規律性」、「状況把握力」、「創造力」1名、未回答3名、社会人基礎力にない項目を書いているのが3名であった(表6)。理由として、実行力については、計画を立てても断念する。やろうと思ってもすぐに実行できない。発信力においては語彙力がない。チームでの話し合いで受け身などの記述があった。

表4 社会人基礎力の中であてはまると思うもの(回答数、単位：名 構成比：%)

項 目	2年次 11月 (n = 24)		
	あてはまる	あてはまらない	どちらでもない
主体性 あなたは物事に進んで取り組む方ですか	12 (50.0)	2 (8.3)	10 (41.7)
働きかけ力 何かを行うときに、他の人にも働きかけて一緒に取り組んでいくほうですか	18 (75.0)	3 (12.5)	3 (12.5)
実行力 目標を設定したら、そのために確実に行動するほうですか	15 (62.5)	5 (20.8)	4 (16.7)
課題発見力 現在の状況から何か課題や問題点がないか、分析することができるほうですか	10 (41.7)	4 (16.7)	10 (41.7)



項 目	2年次 11月 (n = 24)		
	あてはまる	あてはまらない	どちらでもない
計画力 目標のために何をすればいいか、計画を立てて進めるほうですか	14 (58.3)	9 (37.5)	1 (4.2)
創造力 新しいアイデアや方法を考え出すことは得意なほうですか	9 (37.5)	7 (29.2)	8 (33.3)
発信力 自分の意見を相手に解りやすく伝えることができますか	3 (12.5)	8 (33.3)	13 (54.2)
傾聴力 相手のいうことを丁寧に聞くことができますか	22 (91.7)	-	2 (8.3)
柔軟性 意見や立場の違いがあってもそれを乗り越えて働くことができますか	16 (66.7)	1 (4.2)	7 (29.2)
状況把握力 自分や周りの人の状況や関係をすぐに把握できるほうですか	18 (75.0)	-	6 (25.0)
規律性 社会のルールや人との約束を守るほうですか	20 (83.3)	1 (4.2)	3 (12.5)
ストレスコントロール力 社会のルールや人との約束を守るほうですか	14 (58.3)	3 (12.5)	7 (29.2)

表5 伸びた能力と理由、特に影響があったこと(自由記述)

	具体的な自由記述の内容
規 律 性 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でのプレゼンテーション発表です。</li> <li>・アルバイトをするようになって欠席や遅刻などをしなくなった。</li> <li>・アルバイトに影響があった。</li> </ul>
創 造 力 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由は、この2年間でプランを考えることや相手の立場に立って物事を考えるなど、想像しながら考えることが多かったため、伸びたと考えた。</li> </ul>
主 体 性 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寮に入って1人で生活し自立出来たと思うし、今まで親に言われたり勧められたりして取り組むことが多かったけど、就活もそうだしアルバイトや習い事など自分から進んで見つけてやり始めるようになった。</li> </ul>
計 画 力 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルバイトと勉強の両立</li> <li>・理由 就職活動で～ インターシップに行って</li> <li>・アルバイトで</li> </ul>
状況把握力 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香蘭祭実行委員の活動の中で、周囲の状況がどうなっているのか、客観的に観察し小さな変化でも早く気づくよう心がけていたから。</li> <li>・アルバイトで周りをよく見て行動していたので</li> <li>・アルバイトで、今までは言われたことだけを取り組んできたが、先輩の指導を受け、お店がもっと良くなるにはどうしたらよいかを常に考えるようになり、状況に応じて何が必要なのかを考えながら行動することを心掛けた。その結果として、お客様からお褒めの言葉をいただくことが増え、お店全体の雰囲気により一層良くなった。</li> <li>・授業のグループワークのときに、周りを見て自分がすべきことを見つけて行動することができたから。</li> <li>・コンビニのアルバイトでその時に何をしたらいいかを判断したり困ってそうなお客さんがいたら自分から声をかけたりした。</li> </ul>
柔 軟 力 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香蘭祭のメジャー企画準備の中で、こうしたらいいんじゃないか、あれはどうか、とさまざまな異なる意見が出たが、全員が納得する意見を取り入れた内容を作ることが出来た。そのおかげでたくさんの方に来ていただき、楽しんでもらうことが出来たと思う。</li> <li>・就職活動をしている時に、どんな事があっても対応していこうと思えるようになった。</li> <li>・未回答</li> </ul>
ストレスコントロール力 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就活でストレスに感じた時などにうまくストレスを発散させることが出来たから。</li> <li>・未回答</li> </ul>

	具体的な自由記述の内容
実行力(1)	・一人暮らし
傾聴力(3)	・人の相談に乗ることが多いため。 ・友達といる時に話を遮らなくなった。 ・飲食店のアルバイトで注文をさけるようになった。
働きかけ力(1)	・アルバイトで自分が教える立場になって後輩に色々な仕事を教えて自主的に働けるようにした。
複数の記述(1)	・特に影響があったことは、大学でのグループプロジェクトやセミナー参加など、他の人と協力して業務を進める機会が多かったこと。これにより、他の人とのコミュニケーションや意見を共有する能力が明らかに向上した。グループプロジェクトでは、メンバーとの効果的な意見の交換やタスクの分担、スケジュールの調整などが必要だった。また、セミナーやディスカッションクラスでは、他の学生とアイデアを出し合うことや発言する機会が多くあり、自分の意見を適切に表現する能力が向上した。これらの経験を通じて、協力・コミュニケーション能力が伸びたと感じた。これは就職活動やプレゼンテーションなど、社会での様々な場面で必要な能力である。また、特にアルバイトなどで顧客や仲間とのコミュニケーションを重視する職場においては、この能力が大いに役立つと思う。

注1) ( )はコメント数

表6 今後伸ばしたい社会人基礎力と理由

	具体的な自由記述の内容
主体性(2)	・自分から積極的に動くことが2年間を通してできていない為、これから意識しながら過ごしていきたい。 ・社会人になる上で、自分なりに判断をし、他の人や周りに流されることなく行動をしていきたいから。
実行力(4)	・計画を立てても途中で断念したり、これはいいやと諦めてしまうことが多いです。そのため、自分に厳しく、最初に決めたことは最後まできちんとやり遂げることが出来るようにしたい。 ・すぐ実行し行動力を広げたい。 ・やろうと思ってもすぐに実行することが出来ないから。 ・未回答
計画力(3)	・私は何か目標を決めても細かい計画を立てたり、立てた計画を実践することが苦手だから。 ・常に計画を立てずに物事を進めてしまうので、ある程度は計画を立てて行動したいから。 ・そのときになって決めることが多いから。
創造力(1)	・未回答
発信力(4)	・自分は発信力が欠けていると感じるから。 ・語彙力があまり無いので、その力を身につけて分かりやすく説明出来るようになりたい。 ・チームで話し合いや決定する場面で、いつも受け身になりがちなので、自分から相手に発信出来るようになりたいと思う。 ・自分の意見を伝えるのが苦手だから。
規律性(1)	・未回答
状況把握力(1)	・自分や周りの状況を把握して動けるようになりたいため。
ストレスコントロール力(2)	・無意識にストレスが溜まって体調を崩してしまうので、なるべくストレスを溜めないようにしていければいいと思っている。 ・未回答

注1) ( )はコメント数

・未回答(3)

・リーダーシップ力(1)

自分自身が人を導き、チームをまとめて目標を達成する能力が求められる社会人としての役割を果たすため

・話す力(1)

・本場の外国語で人とコミュニケーションができる(1)

表7 1年次7月と2年次11月の比較

項 目	1年 1回目プレゼンテーション前 (2022.7) (n = 45)			2年 (2023.11) (n = 24)		
	あてはまる	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	あてはまらない	どちらでもない
(1回目あてはまると2回目あてはまるの項目の差異)						
主体性 +3.9 あなたは物事に進んで取り組む方ですか	17 (37.8)	10 (22.2)	18 (40.0)	12 (50.0) +12.2	2 (8.3)	10 (41.7)
働きかけ力 -1.1 何かを行うときに、他の人にも働きかけて一緒に取り組んでいくほうですか	28 (62.2)	9 (20.0)	8 (17.8)	18 (75.0) +12.8	3 (12.5)	3 (12.5)
実行力 +4.5 目標を設定したら、そのために確実に行動するほうですか	23 (51.1)	6 (13.3)	16 (35.6)	15 (62.5) +11.4	5 (20.8)	4 (16.7)
課題発見力 -5.5 現在の状況から何か課題や問題点がないか、分析することができるほうですか	20 (44.4)	10 (22.2)	15 (33.3)	10 (41.7) -2.7	4 (16.7)	10 (41.7)
計画力 +2.3 目標のために何をすればいいか、計画を立てて進めるほうですか	24 (53.3)	7 (15.6)	14 (31.1)	14 (58.3) +5.0	9 (37.5)	1 (4.2)
創造力 +3.3 新しいアイデアや方法を考え出すことは得意なほうですか	16 (35.6)	14 (31.1)	15 (33.3)	9 (37.5) +1.9	7 (29.2)	8 (33.3)
発信力 +10.6 自分の意見を相手に解りやすく伝えることができますか	9 (20.0)	16 (35.6)	20 (44.4)	3 (12.5) -7.5	8 (33.3)	13 (54.2)
傾聴力 -1.1 相手のいうことを丁寧に聞くことができますか	33 (73.3)	8 (17.8)	4 (8.9)	22 (91.7) +18.4	-	2 (8.3)
柔軟性 -11.2 意見や立場の違いがあってもそれを乗り越えて働くことができますか	25 (55.6)	7 (15.6)	13 (28.9)	16 (66.7) +11.1	1 (4.2)	7 (29.2)
状況把握力 -6.6 自分や周りの人の状況や関係をすぐに把握できるほうですか	28 (62.2)	7 (15.6)	10 (22.2)	18 (75.0) +12.8	-	6 (25.0)
規律性 -6.6 社会のルールや人との約束を守るほうですか	33 (73.3)	4 (8.9)	8 (17.8)	20 (83.3) +10.0	1 (4.2)	3 (12.5)
ストレスコントロール力 +5.0 社会のルールや人との約束を守るほうですか	19 (42.2)	15 (33.3)	11 (24.4)	14 (58.3) +16.1	3 (12.5)	7 (29.2)

### 3-3. アンケート結果の比較

2022年7月1回目のアンケート調査と2023年11月のアンケート結果の比較である(表7)。アンケートの母数の差異が大きいため、割合で比較を行った。「あてはまる」の項目で差異を比較したところ2022年と2023年現在での増加したものととして上位から①傾聴力(+18.4%)、②ストレスコントロール力(+16.1)、③働きかけ力、状況把握力(+12.2)であった。「あてはまる」項目で減少したものととして、①発信力(-7.5)、②課題発見力(-2.7)、③創造力(+1.9)であった。

## 4. 考察

学生の汎用能力の向上について、学生のアンケートにより自己評価から分析を行った。以上結果から考察できる点は3点である。

- 1) 1年次のプレゼンテーション授業前後で、2022年度調査からは学生が「あてはまる」と考えているのは「傾聴力」、「規律性」であり、2回の調査で増加が目立ったのは、「発信力」、「ストレスコントロール力」であった。「発信力」は実際に発表を行ったことから、「ストレスコントロール力」はグループワークなどでの関わりからと予測されるが、推察であり、今後もアンケートを継続して実施し、分析していくことが

必要であると考え。また一つの体験で数値は変化していくことから、様々な体験ができるようプログラムを常に考えていく必要があると考えた。

- 2) 2023年のアンケートで、学生が「あてはまる」と回答したものは、「傾聴力」、「規律性」、「働きかけ力」であり、「傾聴力」、「規律性」、「働きかけ力」に関して「あてはまる」と回答する割合が増えたことにより、学生生活の経過年数による経験などで、身につけていると感じた学生が増えたと考えられる。
- 3) 2022年7月1回目のアンケート調査と2023年11月のアンケート結果を比較したところ、「あてはまる」項目で2022年と2023年現在での差異の伸びにおいて①「傾聴力」(+18.4%)、②「ストレスコントロール力」(+16.1)、③「働きかけ力」、「状況把握力」(+12.2)で増加しており、1年3か月前より減少したものが、①「発信力」(-7.5)、②「課題発見力」(-2.7)、③「創造力」(+1.9)であった。1年次のプレゼンテーションの発表後に、「あてはまる」と数値が高まった「発信力」については、2年次の調査では「あてはまらない」の数値が高くなり、1年3か月前の調査と比べて減少した。「発信力」、「課題発見力」などについては特に機会を増やして継続的に取り組むことであてはまると実感できるのではないかと考える。今後プレゼンテーションの発表やグループワークの機会を増やすとともに、就職活動終了後も「発信力」や「課題発見力」などに取り組むプログラムを教員として展開していく必要性があるのではないかと考える。

## 5. 今後の課題

今回、調査期間が短く、アンケート回答数が50%弱だったため、本調査で汎用スキルの変化の要因などで結論を導きだすことはできなかった。継続的な汎用スキル向上につなげていけるよう、授業カリキュラムや内容等を検討していきたい。汎用スキルの測定については、今後も継続していこうと考える。また、社会に出た際にリアリティショックを少しでも軽減できるよう、卒業までの半年の予期的社会化を高めるよう研究に結び付けていこうと考える。

## 引用文献

- 樋口健・三代祐子(2008)「日本の大学における汎用的なスキル - 能力育成の現状と課題 -」、2022年6月10日参照、[http://www.benesse-i-career.co.jp/generic/pdf/japan\\_test.pdf](http://www.benesse-i-career.co.jp/generic/pdf/japan_test.pdf)
- 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(平成23年1月31日 [https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/22career\\_shiryoku/pdf/3-02.pdf](https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/22career_shiryoku/pdf/3-02.pdf))
- 岩本久美子(2022)「1年次「基礎科目」における汎用スキル向上のための授業展開」、『秘書サービス接遇教育学会研究集録』(28)、pp.82-87
- 経済産業省(2010)「大学生の社会人観の把握と社会人基礎力の認知度向上実証に対する調査」、2023年8月20日参照、<https://selectra.jp/sites/default/files/pdf/201006daigakuseinosyakaijinkannohaakutoninntido.pdf>
- 全国大学生生活協同組合連合会(2023)「これからの教育と研究～大学生協教員調査」集計結果報告、2023年9月20日参照、<https://www.univcoop.or.jp/coop/survey/faculty2310.html>

## 参考文献

- 河野洋子(2020)「コロナ禍における大学初年次教育の取り組みについて」、『香蘭女子短期大学研究紀要』(63)、香蘭女子短期大学、pp.99-107

## 教育実習事前事後指導における教材研究に関する取り組み

Approaches to the Study of teaching materials for teaching practice

寺 地 亜 衣 子

Aiko TERACHI

保育学科 講師

### 1. はじめに

幼稚園教育は小学校教育以上の教科を通したものではなく、遊びを通した総合的な指導である。幼児が直接経験したり、体験したりする中で好奇心や探究心を養い、生涯にわたる学びの基礎である意欲や挑戦する態度を獲得していく。幼児教育は教科書がなく、各園が幼稚園教育要領を踏まえ、園の特色を生かして創意工夫を重ねて保育することが求められている。幼児を取り巻く全てが保育の環境となり、教材（教育内容を提供する際に用いる具体物のこと）となり得ることは周知の事実である。そのような中、教材を研究すること（以下、教材研究と記す）は重要な意味を持つ。幼稚園教育要領解説書の中には「各幼稚園は、教材研究を通して、幼児と教材の関わりについて理解を深め、遊びが展開し充実していくような豊かな教育環境の創造に努めることが必要である」(p. 41)と示されている。また、教材研究と明記されていないが、「教材を工夫し」と言う言葉が何度も示されている。幼児にとってその活動がどのような意味を持つのか、その教材から幼児は何を感じ喜びとるのか、その教材の持つ魅力は何なのか、その教材の特色はどのようなところにあるか、など保育者は知った上で保育を展開することが求められ、また、その教材を工夫して幼児に提供することが求められている。

教職課程コアカリキュラムの中では「幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる」という到達目標が示されている。指導案作成にあたって教材研究が必須であることは言うまでもない。

本学における教育実習の事前指導においても指導計画の作成を行っているが、教材研究を実施する時間が授業の中では十分に確保できていない現状がある。また、学生自身が「教材研究って何？」としっかりと理解できていないのではないかという懸念もある。そこで、授業時に教材研究の時間を取り、学生同士話をしながら教材について考えたり、事前課題として教材研究したものを持ち寄って見せあったりする時間を持つようにしてきた。持ち寄ることによって様々な教材に触れることができるというメリットがある一方、一人ひとりの教材研究が深まっているとは言い難いことが課題であった。そこで、今年度は教材研究に対する学生の意識の向上を図ることを目的とし、KORAN RED WEEKの展示物であるTシャツ染めを教材研究として全員で取り組んだ。

### 2. KORAN RED WEEKの取り組み

KORAN RED WEEKとは、本学のルーツである「ファッションの香蘭」にふさわしい教育プログラムの一環として2021年度から実施されているものである。RED WEEK中にはファッションにKORAN REDを取り入れようという日も設けられ、学生のみならず教職員一同楽しんでいる。これまではファッション総合学科の学生を中心に組み込まれていたが、今年度は保育学科の学生も主体的に関われる取り組みとして、T



シャツ染めを実施することとした。Tシャツ染めは幼稚園や保育所でも実施されており、その工程を知っておくことも保育のアイデアを増やす一つになるのではないかと、本学のルーツであるファッションに通じる点から計画、実践した。

秋に教育実習を控え、教材研究が直近の課題として必要な2年生のみを対象とした。まずは教員自身がTシャツ染めを行い、作業の工程や時間を確認、学生にどのように説明するか考えた。また、子どもたちが模様をどのように楽しむかについては「つくって四季を感じよう 子どもと楽しむ 染め時間！」(村田, 2011)を参考にした。染料については国内工場で作られている「ソメルン」(Tokai オリジナル製品)を使用した。模様の付け方はさまざまに方法があるが、子どもたちもわかりやすく取り組みやすいと考え、ペットボトルのキャップをTシャツに巻き込む方法を採用した。実際に行いながら口頭での説明では不足する考え、いつでも目にできるよう視覚教材として模造紙を準備した(写真1)。実施にあたっては学内各所に応援を求め、染めや展示の方法を詰めていった。展示については「せんとくかあちゃん」をイメージできるように考えた。保育の教材研究であることを念頭に教員も頭を悩ませながら取り組みを進めた。

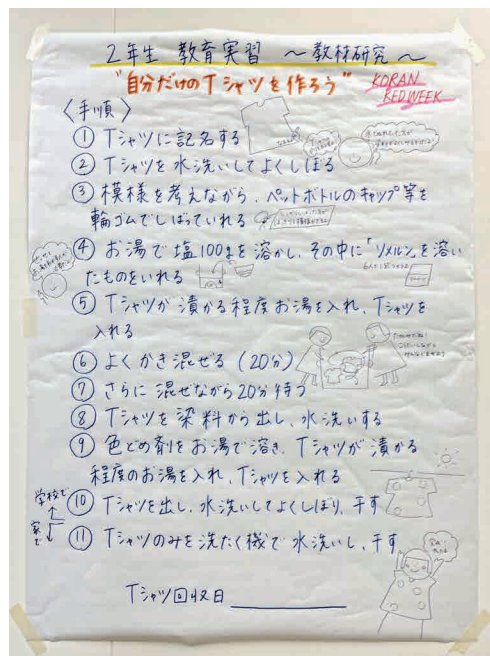


写真1

### 3. Tシャツ染めの方法

#### (1) 学生への事前アナウンス

教材研究としてTシャツ染めを行うことを伝え、干すためのハンガーと模様付けのためのペットボトルのキャップを持参するようアナウンスした。また、当日は染料により衣類が汚れる可能性もあるため、汚れても良い格好で集合するよう伝えた。教員が実際に染めた様子を短い動画にし、授業内で共有した。

#### (2) 学内での協力体制

鍋で大量の湯を沸かし染料の中にTシャツを漬け込むことが必要なため、火元と容器の確保について総務課を中心をお願いしご協力いただいた。学内で大量に湯を沸かすことができ、学生全員を収容できる教室はないため、また、染料のにおいがこもることが懸念されたため屋外にて実施することとした。燃え移るものが少なく、かつ、雨天時にも対応できるということから体育館横での実施とし、風除け、コンロの準備の

ご協力をいただいた(写真2)。展示については、芝生のグリーンの上に KORAN RED が映えるようにロープを張っていただいた。雨天時には本館1階に展示できるようロープを張っていただいた。当該時間に授業のない学科教職員全員に協力を求め、各工程でご協力いただいた。



写真2

### (3) Tシャツ染めの手順

- ①油性マジックでTシャツに記名する
  - ②Tシャツを水洗いし糊を落としてよく絞る
  - ③模様を考えながらペットボトルのキャップやビー玉、おはじき等をTシャツに挟んで輪ゴムでよくしばる
  - ④お湯で塩100gを溶かし、その中に「ソメルン」を溶いたものを入れる(においに注意する)
  - ⑤④の中にTシャツを入れる Tシャツが浸かる程度お湯を追加する
  - ⑥20分間よくかき混ぜる
  - ⑦さらに20分間かき混ぜる
  - ⑧Tシャツを染料から出し、水洗いする
  - ⑨色どめ剤をお湯で溶き、Tシャツが浸かる程度お湯を足し、Tシャツを入れる
  - ⑩Tシャツを取り出し、水洗いしてよく絞り、干す
  - ⑪Tシャツのみを洗濯機で水洗いし、干す
- ※⑪を学内でできないため⑩の工程を挟み、⑪を家で実施してもらうこととした

## 4. 学生の取り組みの様子

実施日当日は授業開始時間よりも早い時間の集合としていたが、楽しみにしている様子もあったのか全員が遅刻なく揃いTシャツ染めを実施することができた。まずは、全工程を説明し、その後Tシャツに記名するところからスタートした。記名箇所も各個人で決めて良いこととした。教員としては内側に小さく書くイメージでいたが、背面や肩あたりの表面に記入する学生もあり、記名箇所でも個性が現れる結果となった。

た。洗い場が少なく、Tシャツの糊を落とすのに順番待ちが生じたが、大きな混乱はなかった(写真3)。ぶくぶくと泡立つ様子を見て、驚く姿も見られた。「子どもの力ではどれだけ糊を落とせるのだろう」と実施後の感想に書く学生もあり、子どもたちが実際に活動することへも考えが及ぶ体験となったようである。模様付けについては事前にTシャツ染めをすること、園でも実施されていることを伝えていたので、調べてきている学生もいた。学生同士どんな模様になるのか想像しながら、活発に話しながらそれぞれが工夫を凝らす様子が見られた(写真4)。参加した教員もそれぞれ模様作りを楽しんでおり、学生との関わりも充実していたようである。

屋外に出での工程は、天気がよく、より楽しい雰囲気を得ることに繋がった。4月末ということで風が冷たく、お湯を沸かすことに時間を要したが、学生たちはクラス内で様々な話をしながら「待つ時間」も楽しむことができたようである。染料とTシャツをかき混ぜるための棒を準備していなかったのだが、学生たちは持参したハンガーでうまく混ぜることができていた。

体育館倉庫内にロープを張っていただき、そこに1枚ずつTシャツを干してTシャツ染めは終了した。午後の授業終わりに全員がTシャツを取りにきたことから、学生自身が教材研究としてのTシャツ染めを楽しんでいたことが伺える。



写真3



写真4

## 5. 教材研究として捉え、学生が考えたこと及び感想

楽しみながら学ぶことは重要なことであると考えますが、ただ楽しかっただけにとどまらぬよう、学生にはまとめのプリントを準備した(参考資料)。まとめのプリントの気づき、感想を分析、考察する。

対 象：短期大学の保育者養成校に在籍する女子学生60名 回答者数52名(短期大学2年生)

方 法：自由記述で得られた回答をテキスト化し、計量テキスト分析が可能なKH Coder3を使用し、抽出語リストを作成する。抽出語の共起ネットワークより考察を行う。共起ネットワークとは、出現パターンの似通った語を線で結んだネットワーク図のことである。

倫理的配慮：記入してもらう前に研究において使用する可能性を伝え、その際、個人が特定できない形で使用すること、記入した内容が個人の不利益とならないことも説明し、同意を得た。

研究にあたっては個人情報の保護に配慮している。

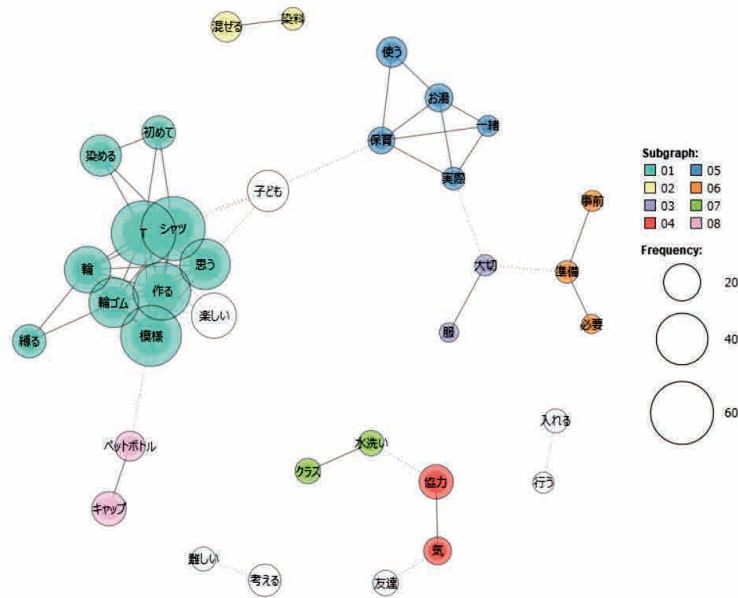


図1. 学生の気づきと感想

教材研究としてどのように捉えたかについての感想は少なく、「初めてTシャツを染めて楽しかった」というものが多くみられた。模様についての記載は多く、「輪ゴムでしばるのが難しいと感じた」「固く(きつく)しばった輪ゴムを外すのが大変だった」「模様を考えながら輪ゴムをしばった」「あえてペットボトルのキャップは入れなかった」というものが見られた。「事前に固くしばった方が模様が出やすいと聞いたのでしばり方の固さを色々にした」という記載もみられた。模様付けについては試行錯誤した様子から教材研究の視点とも捉えられる部分があるように見える。輪ゴムでしばることは大人にとってはそう難しいことではない中、「難しかった」「大変だった」と記載するにあたっては、子どもの姿が浮かんでいるのではないかと推察する。「事前の準備が必要だと感じた」「お湯を使うため安全に注意しながら行うことが必要である」「一人で子どもを見ながらするには難しい活動だと感じた」「時間がかかるので待ち時間も楽しめる工夫が必要だ」といった記載は教材研究や保育時の配慮の視点を含んでいる。今回の取り組みは事前準備の大切さに気づける活動となったことは間違いない。その他、記載が多かったものに「クラスで協力することができた」「クラスで協力でき、待ち時間も楽しめた」が挙げられる。クラスで活動できたという達成感や喜びも感じられたようである。「4、5歳児クラスの担任になったらしてみたい」と年齢に言及したものや、「この活動を通して仲間と協力することや想像力、言葉の理解、豊かな感性と表現などを身につけられるのかなと思った」という領域や幼児期の終わりまでに育ててほしい姿の言葉を使ったものもあり、自分自身が楽しみながらも保育者としての視点で捉え直したことが伺える感想も見られた。

## 6. 教育実習後の学生の思い

1年次前期から学びを積み重ね、9月に教育実習15日間を実施した学生に改めて教材研究について問うた。  
 対象：短期大学の保育者養成校に在籍する女子学生60名 回答者数58名(短期大学2年生)  
 方法：Google Formを用いてアンケートを行った  
 時期：2023年10月  
 倫理的配慮：個人情報の保護に配慮している。

5月にTシャツ染めを行ったことが教育実習を実施する上でどのように影響したのか、アンケート結果



から検討したい。質問事項と回答の方法は下記の通りである。

1. 教材研究として、Tシャツ染めを行いました [教材研究について意識することができた]
2. 教材研究として、Tシャツ染めを行いました [教材研究について理解することができた]
3. 教材研究として、Tシャツ染めを行いました [実習前に実際に教材研究を行おうという気持ちを持つことができた]
4. 教材研究として、Tシャツ染めを行いました [教材研究の必要性を感じた]
5. 教材研究として、Tシャツ染めを行いました [教材研究の重要性を感じた]
6. 教材研究として、Tシャツ染めを行いました [実際に実習前に教材研究を] (行った・行わなかった)
7. KORAN RED WEEK でTシャツを飾ったのはいかがでしたか? (どんな感想を持ちましたか)
8. 教材研究とは(一言で表すと?)
9. 教材研究についてあなたの考えを教えてください  
 1～5は「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5件法、6は「行った」「行わなかった」の2択、7～9は自由記述である。

(1)教材研究への意識

「そう思う」「ややそう思う」を合わせると97%の学生がTシャツ染めを行ったことで教材研究について意識できたと答えている。

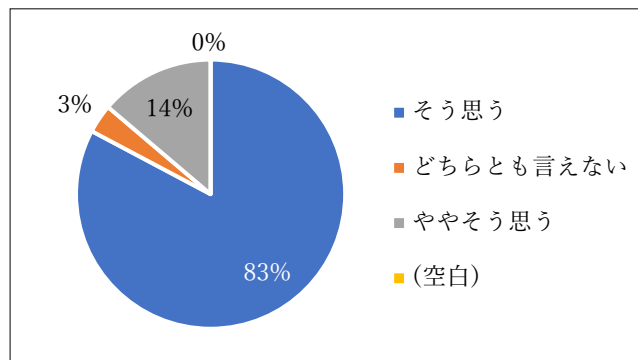


図2. 教材研究への意識が持てたか

(2)教材研究についての理解

Tシャツ染めを行ったことで教材研究について「そう思う」「ややそう思う」を合わせると全員であり、全員が理解できたと答える結果となった。

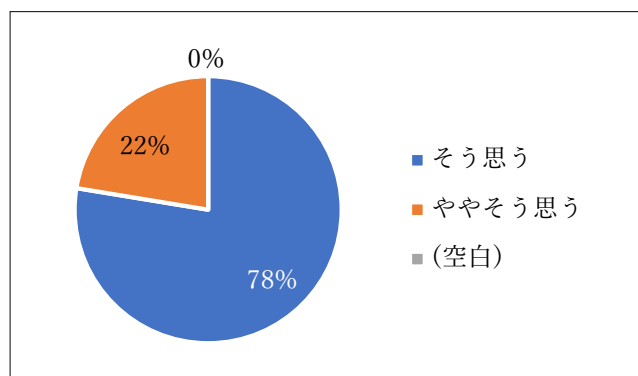


図3. 教材研究についての理解ができたか



### (3) 実習前の教材研究について(実施しようと思ったか)

実習前の準備として、教材研究を行おうと思った学生は「そう思う」「ややそう思う」を合わせると98%となった。

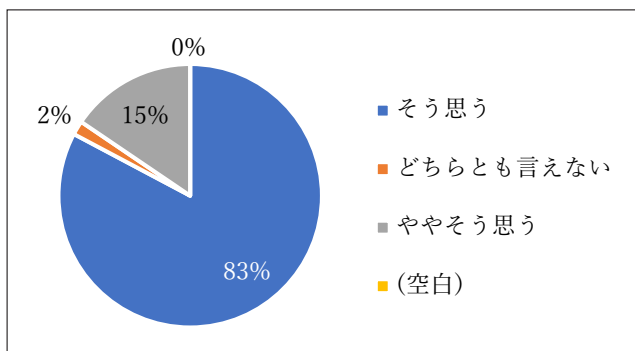


図4. 実習前に教材研究をしようと思ったか

### (4) 教材研究の必要性について

Tシャツ染を行ったことで教材研究の必要性を感じたか問うたところ、「そう思う」「ややそう思う」と答えた学生は96%であった。

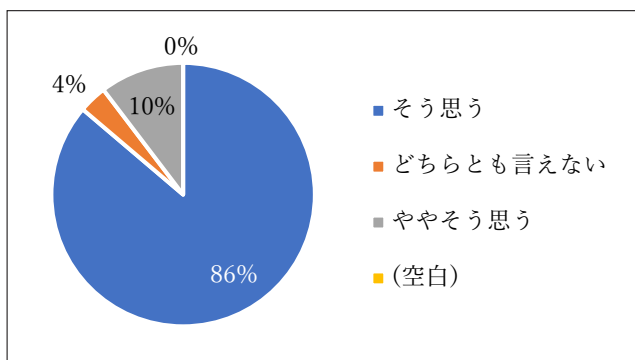


図5. 教材研究の必要性を感じたか

### (5) 教材研究の重要性

Tシャツ染を行った後、実習を経た上で全員が教材研究の重要性を認識している。

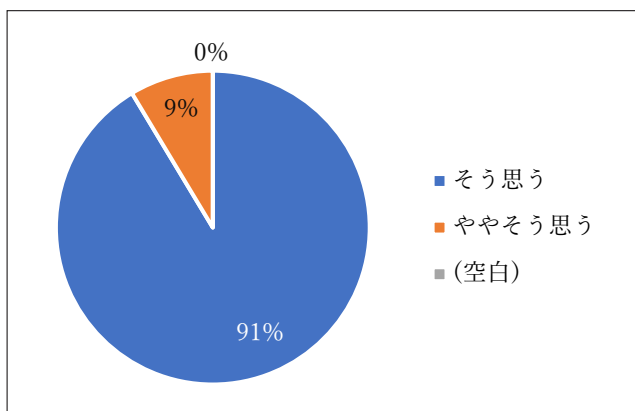


図6. 教材研究の重要性を感じたか

### (6) 実際に教材研究を取り組んだかについて

教材研究の必要性や重要性を感じながらも、16%の学生は実習前に教材研究に取り組んでいない実態が明らかとなった。これは、「実習前に」と尋ねたことで実践前の教材研究を省いた回答である可能性や実習中に保育を任される時間がなかった可能性を含んでおり、今後アンケートをとる際には聞き方の工夫が必要である。

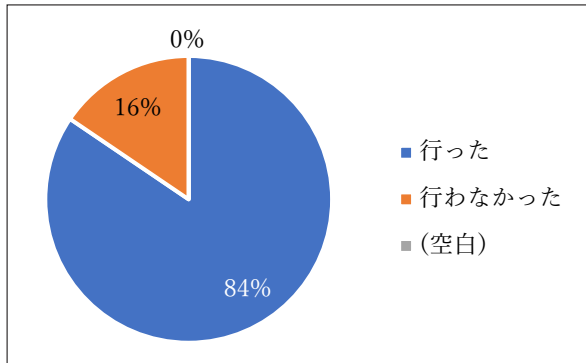


図7. 実習時の教材研究の取り組み

### (7) RED WEEK での T シャツ展示について

「個性が出ていて良かったと思った」「個性的なデザインをたくさん見れたのが良かった」「いろんなデザインを見ることができて良かった」「ひとりひとり柄が違って良かった」「それぞれの良さが出ていてとても見えて楽しかった」「模様の作り方が自分と違うのがあって面白かった」「一人ひとりの表したい形を見ることができて面白かった」というように他者の作品を認める感想が多く見られた。また、「自分のものを飾ってもらえて嬉しかった」「みんなで作ったものを共有することができて良かった」と作品を共有することについて触れられたものもあった。一人ひとりの良さを認めることや、作品を共有したり経験を共有したりすることは保育においても重要なことである。見方を変えると、学生たちが子どもの気持ちを体験できたと言える感想である。

その他、「クラスみんなで一体感が出た」「みんなで作ったのが楽しくて、仲がさらに深まると思った」「達成感」「全員で何かに取り組むのはいいと思った」という感想もあった。染めの活動と同様に、展示についてもクラス活動として意味があったと感じていたようである。

「『せんたくかあちゃん』を意識して絵本の世界を取り入れるのはいいなと思った」「可愛かった」「外で干して(展示して)とても映えていた」「学内が明るくなったと感じた」という展示そのものに対する意見も見られた。今回、展示については教員主導で方法を考えたが、今後は T シャツ染めの活動とその展開までを学生と考えられるようにしていきたい。

### (8) 教材研究とは

教材研究について一言で表してもらったところ、「練習」「実験」「実践するための準備」という事前準備として捉えたもの、「理解を深めるための作業」「遊びを研究して試す」「学びを体験する」と遊びや素材についての理解を深めたり体験したりすること、「子どもたちが楽しくできるため」「活動が楽しくなるための準備」「子どもたちがどうしたら楽しむことができるのかを考える時間」と保育者として子どもたちを思うものが挙げられた。他には、「楽しい」「子どもたちのためと自分のためにする」という回答もあり、保育を楽しむための要素として捉えるものもあった。教材研究についての考えを尋ねると、「教材研究をすることで、子どもとの関わりがうまくいくことができたり、子どもの成長などにあったことができるのでとても大事なものだと思った」「教材研究をすることで自分も安心して設定保育を行うことができるし、子どもにも安心して取り組んでもらうことができると思うのでとても大切なこと」「教材研究を行うことで、子どもの発達や

興味に合っているかなどの子ども理解にも繋がると思う。教材研究を行うことで、保育者は焦らずに活動を行うことができると思う」と子どもの成長と自分自身の安心について述べたものが見られた。また、「何を意図しているのかをしっかりと理解した上でやるものだった」「教材研究を事前に行うことで改善ができる」「教材研究をすることで自信を持って子どもたちの前に立つことができると思った」という記述も見られた。これらのことは、実習を経験したからこそ実感したものと言えよう。その他、「実習で事前に行ってみてから保育で実践することが大切だと保育者から学んだ」という経験談も寄せられ、実際に実習に出て先生方の保育を観察したり教えていただくことで教材研究の必要性や重要性に気づくことができるということも示唆された。

## 6. おわりに(今後の展望と課題)

KORAN RED WEEK に合わせ、T シャツ染めを教材研究として実施した。学生自身は教材研究としてのT シャツ染めを大いに楽しんだことが伺え、また、展示も喜んでおり KORAN RED WEEK の取り組みとしては一定の成果を得たように思う。しかしながら、教材研究として捉えたときには検討の余地が様々にある。まずは、楽しいだけの経験とならないことである。保育は保育者自身が楽しむことがもちろん重要であるが、しっかり準備をしたからこそ子どもたちと保育の時間を楽しめるという一面がある。その点については実習後に学生は感じるようになってきている。事前指導の中での教材研究の難しさは、目の前に子どもがいないことであろう。子どもがいない中でも教材を理解し、研究することの意味へ意識が向けられるよう、取り組みにはもう少し段階が必要だと感じた。T シャツを染めるという活動にとどまらず、染めるということについて事前に考えたり、試したりする時間を設け、自然物で赤に染まるものを探したり、子どもたちの姿を想像しながら取り組める活動にしたい。次に、学生の考えも反映した活動にする必要性である。教材研究は学生の学びの一環である。学生の感想の中には「赤以外の色も選べるといい」というものも多く見られた。子どもたちは様々な色を知っており、好みもあるだろう。その様子がわかるからこそその提案だと受け止める。今後は学生の子どもたちへの思いも反映したものにしていきたい。

今回の教材研究は、学生自身が楽しむこともねらいだったため、ねらいとしては一定の成果を得られたと言える。しかし、保育者としてT シャツ染めをどう捉えるのか、教材の持つ意味や保育のねらいについての考えを引き出せたとはいえない。例えば、出てくる模様には偶然性が見られることや、そのことによっても「上手」「下手」という評価にとらわれないことなどについて言及されることはなかった。T シャツ染めの後の感想と実習後のアンケートからは、実習の前と後では教材研究に対する思いにも変化が現れることが窺えた。この結果からは、現場と養成校のさらなる協働や連携が必要であることが示唆される。学内での事前事後指導、学外での実習を通して、教材研究について深めていけるように今後展開したい。

## 参考・引用文献

- 文部科学省(2017) 教職課程コアカリキュラム
- 文部科学省(2018) 幼稚園教育要領解説
- 秋田喜代美他(2019) 保育学用語辞典. 中央法規
- 樋口耕一(2004) テキスト型データの計量的分析—2つのアプローチの峻別と統合—. 理論と方法. 19 (1). 101-115
- 村田浩子(2011) つくって四季を感じよう 子どもと楽しむ染め時間!. かがわ出版

謝辞 調査にご協力いただきました学生のみなさん、学内にてご協力くださった教職員の先生方に心よりお礼申し上げます。

資料

教育実習(29)

2年( )クラス( )番  
氏名( )

【教材研究】  
自分だけのTシャツを作ろう

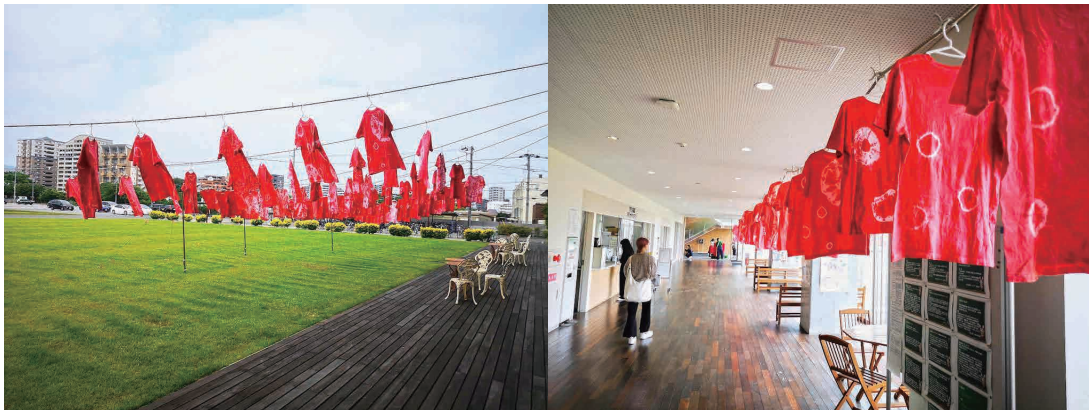
**準備**

- ・汚れてもよい服装、動きやすい服装
- ・ペットボトルのキャップなど
- ・ハンガー
- ・輪ゴム
- ・Tシャツ
- ・染料、色止め剤(今回は「ソメルン」を使用)
- ・塩
- ・お湯
- ・Tシャツ
- ・たらい

**手順**

**気をつけたこと、考えたこと、感想**

KORAN RED WEEKの様子



# 不適切な保育の報道と情報が保育学生に及ぼす影響について

Impact of Abuses at Child Care Coverage and Information on Childcare Students

溝 田 めぐみ

Megumi MIZOTA

保育学科 教授

## 1. 問題の所在と目的

本稿の目的は、不適切な保育に関する情報に触れた保育学生の反応を明らかにし、保育者養成校が保育学生に対してどのような対応・フォローができるかを検討することである。

保育者の有効求人倍率は、2022年10月が2.49であった。その2年前の2020年は3.36であり、近年下落傾向にあるものの2022年の全職種の求人倍率1.35と比べるとなお高い状況で、保育業界が人手を欲していることが分かる。また待機児童数は、ピークだった2017年に26,081人であったが、2023年の待機児童数は2,680人であり、6年前と比較して10分の1に大幅に減少していることが分かる。日本全国でみると待機児童問題は解消されつつあるように見えるが、地域によっては待機児童が0になった翌年には再び待機児童数が増加しているところもある。<sup>1</sup>そして増加した理由に保育人材の確保ができなかったためという自治体も一定数あり、待機児童問題解消や保育人材の確保は今現在も完全に解決したとはいえない状況である。

幼児教育業界の賃金面や長時間労働など労働条件や環境についての報道はこれまでもあり、幼児教育業界の労働条件・環境の一部が社会問題化されてきた。筆者が出会った園長先生方の中にこうした報道で保育者志望の学生が減るのではないかと危惧される方も少なくなかった。しかしながら、今回着目する「不適切な保育」という言葉はこれまで報道されてきた保育業界の問題とは一線を画す。つまり、労働条件や環境の問題において保育者はその問題に巻き込まれている側であり、問題の当事者ではあったが客体の側であったといえる。一方で、不適切な保育という問題では保育者はその問題の客体ではなく主体となる。不適切な保育をするのは保育者自身なのだ。こうして考えると、保育学生にとって不適切な保育の報道や情報を得た際のインパクトはこれまでの問題に比べてとても大きいのではないかと考える。

不適切な保育という言葉から保育業界のイメージが低下し、保育志望者が減少し待機児童問題や保育人材問題の解決が遠のくということも問題ではあるが、保育業界に入ることによって自分自身が子どもを傷つける主体になってしまうかもしれないという不安や恐れについて保育者養成校として注目しておく必要があるのではないだろうか。もちろん筆者は不適切な保育を報道するべきではないということを主張したいわけではない。世の中に不適切な保育があることは事実であり、隠すべきではない。一方でそれによって保育者になることへの不安を抱える保育学生がいるとしたら、それにどのように寄り添うかという視点が重要であるということだ。

## 2. 不適切な保育とは

### (1) 不適切な保育という言葉のはじまり

不適切な保育という言葉が注目を集めたのは厚生労働省の令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「不適切な保育に関する対応について」が発表された2021年3月以降であると思う。実施主体の株式会



社キャンサースキャン(以下、キャンサースキャン)によるこの調査の目的<sup>ii</sup>を一部抜粋する。

保育所内の不適切保育等の防止の取組や、保育所内で起こった不適切保育等への対応について、現在、国から市区町村に対して統一的な対応を示したものはない。一方で、近年、保育所内における不適切保育に類する事例の報告・報道が相次いでなされており、自治体における実態把握の現状を確認するとともに、未然防止策や発生時の対応についての検討の必要性が指摘されている。

キャンサースキャンは、悉皆調査とヒアリング調査を行い、地域ごとに不適切な保育への取組の状況にばらつきがあることを明らかにした。そして不適切な保育を防止するためには「保育士一人一人が適切な「認識」をすると共に、子どもへの不適切な関わりを誘発する状況やそうした行為が改善されていく状況を生じさせない“職場環境”の整備が必要だ」<sup>iii</sup>ということを明らかにした。さらに、その調査結果を基に有識者による検討を通して、行政担当者と保育関係者それぞれの役割やその役割を円滑にするための手法、両者の連携の在り方、先進的な取組の事例等を「不適切な保育の未然防止及び発生時の対応についての手引き」(以下、「手引き」)にまとめている。

## (2) 不適切な保育の定義

次に子ども家庭庁は、不適切な保育に関して令和5年5月に「保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」をまとめた。子ども家庭庁はこのガイドラインの位置づけの中で、これまでも保育所等における虐待に関して次のような3つの対応を行ってきたと述べている。

- ① 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準(昭和23年厚生省令63号)第9条の2において施設内での虐待等を禁止する旨の規定が置かれていること。
- ② 保育所保育指針解説(平成30年3月)においては、「子どもに対する体罰や言葉の暴力が決してあってはならないことはもちろんのこと、日常の保育においても、子どもに身体的、精神的苦痛を与えることがないように、子どもの人格を尊重するとともに、子どもが権利の主体であるという認識をもって保育に当たらなければならない。」ことを示していること。
- ③ 手引き(キャンサースキャン)を作成、周知していること。

これらの対応をしてきたが、その後も保育所等で虐待等が行われた事案が相次いだため、子ども家庭庁は令和4年12月に「保育所等における虐待等の不適切な保育への対応等に関する実態調査」を実施した。しかしながら、調査の結果明らかになったのは、園によって不適切な保育の捉え方が異なり、その対応にも差がみられるということであった。不適切な保育が何かということが明確でなければ保育実践の委縮につながる可能性のあることや不適切な保育が発生した時の発見や対応の遅れにつながる懸念されるとしている。

そのため、①不適切な保育や虐待等の考え方の明確化を行うこと、②保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応に関して、保育所等や自治体にそれぞれ求められる事項等について整理がしなおされた。

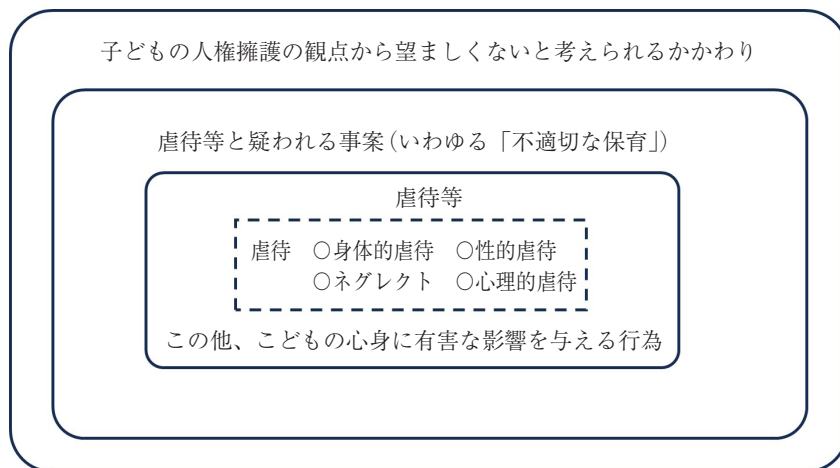
先の手引きにおいて不適切保育は「保育所での保育士等による子どもへの関わりについて、保育所保育指針に示す子どもの人権・人格の尊重の観点に照らし、改善を要すると判断される行為」と定義され全国保育士会の「保育所・認定子ども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト～「子どもを尊重する保育」のために～」を参考に行為類型<sup>iv</sup>として示した。しかし、保育士会チェックリストは、保育の振り返りを行うためのツールとして用いられることを主眼としており、「保育士会チェックリストの『『良くない』と考えられるかかわり』の5つのカテゴリー<sup>v</sup>の具体的なかかわりの中には、不適切な保育とまではいえないものも含まれており、当該カテゴリーと不適切な保育とを同じものとして解することは必ずしも適当ではない。」と述べられている。

そのため今回のガイドライン<sup>vi</sup>では、手引きの不適切な保育の位置づけを見直し、不適切な保育は、保育

士会チェックリストの「『良くない』と考えられるかかわり」の5つのカテゴリーと同じものとは解釈せず、「虐待等と疑われる事案」と捉えなおすこととしている。その結果、不適切な保育の中には虐待等が含まれるものであること、不適切な保育自体が未然防止や改善を要するものであるとして、必要な対応を講じていく必要がある、としている。

また、こどもの人権擁護の観点から「望ましい」と考えられるかかわりができているかどうかといった、より良い保育に向けた日々の保育実践の振り返り等の取組は、不適切な保育や虐待等そのものへの対応とは峻別して、各保育所や自治体において取り組まれるべきものである。」<sup>vii</sup>として、「虐待等」と「虐待等と疑われる事案(不適切な保育)」の概念図を次のように示している。

図1 「虐待等」と「虐待等と疑われる事案(不適切保育)」の概念図



出典：子ども家庭庁「保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」(p.8)を基に筆者作成

以上の様に、不適切な保育という言葉は注目され始めたところであり、園の中でもその捉え方に違いがあるような状況である。子ども家庭庁が不適切な保育が発生した場合のガイドラインを作成しているが「今後議論を深めながら、本ガイドラインの改訂には柔軟に対応していく旨申し添える。」<sup>viii</sup>とし、不適切な対応についての議論は始まったばかりといった様相である。

### (3) 不適切な保育に対する保育所等における対応

子ども家庭庁は、令和5年5月12日付の事務連絡「虐待等の未然防止に向けた保育現場の負担軽減と巡回支援の強化について」で財政負担を伴わず、運用の見直しや工夫により比較的迅速に改善が考えられる事項として次の内容を挙げている。

- 1) 保育士等の負担軽減に資する、運用上で見直しや工夫が考えられる事項について
  - ① 指導計画の作成〈長期計画と短期計画を1種類ずつ作成を求めるもので、全てを個別に作成する必要はない〉〈ICT 機器の活用による記録管理の効率化〉
  - ② 園児の記録に関する書類等の見直し〈重複する内容の中で可能なものは同一の様式とする〉
  - ③ 働き方の見直し、業務内容の改善〈ゆとりある休暇の確保や会議の時短〉〈日々の保育の流れに配慮した行事の計画や準備〉
- 2) 保育所等における巡回支援事業の更なる活用について
- 3) 保育内容の評価の活用について
- 4) 幼稚園等について ※1)を参照

また、ガイドラインにおける保育所等における対応については次のような内容を挙げている。

- 1) よりよい保育に向けた日々の保育実践の振り返り等  
 〈子どもの権利擁護について〉〈各職員や施設単位で、日々の保育実践における振り返りを行うこと〉  
 〈職員一人一人がこどもの人権・人格を尊重する意識の共有をすること〉
- 2) 虐待等に該当するかどうかの確認
- 3) 市町村等への相談
- 4) 市町村等の指導等を踏まえた対応
- 5) さらに良い保育を目指す

### 3. 調査方法

#### (1) 調査方法

調査方法：Google フォームによる WEB 調査

実施日：2023年11月15日授業内

調査対象者数：59名

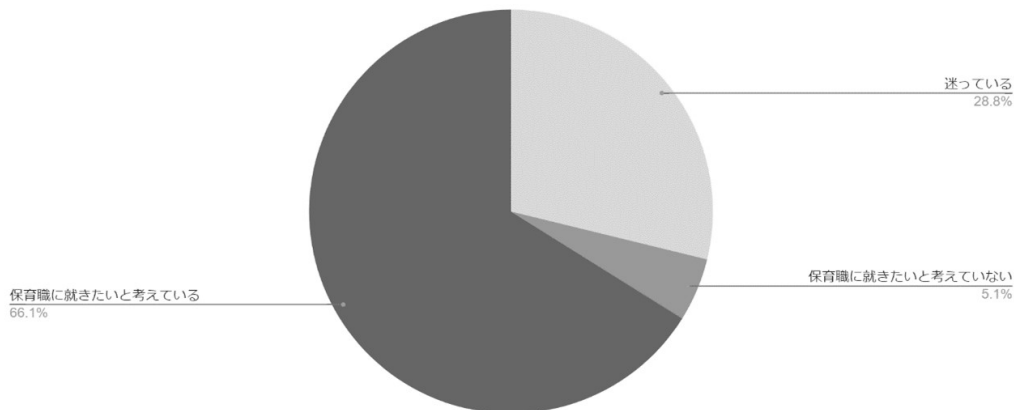
有効回収票：59票

有効回収率：100%

調査対象者の属性：短期大学保育学科1年生

保育職に就きたいと考えている者：保育職に就きたいと考えている者が66.1%、保育職に就くか迷っている者が28.8%、就きたいと考えていない者が5.1%であった。迷っている者も含めると現在保育職に就きたいと考えている者は94.9%である(図2)。

図2 現在保育職に就きたいと考えている



#### (2) 調査の倫理的配慮

調査の目的を説明し、回答は任意であることと回答内容によって授業の評価に影響しないことを説明した。また、回答は統計処理を行い、自由記述は名前が分かる状態で公表しないことを説明した。

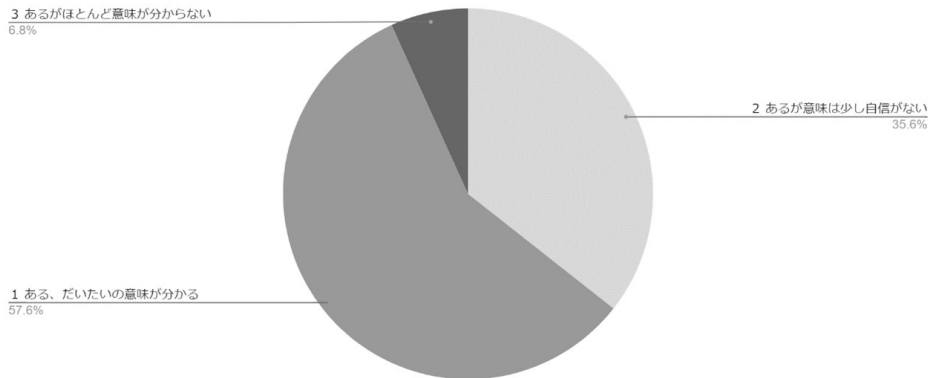
### 4. 調査結果と考察

#### (1) 不適切な保育という言葉の認知度と理解度

保育を学ぶ学生であれば当然知っている言葉であるが改めて問うてみた(図3)。この設問は「不適切な保育」の意味をどの程度知っているかも併せて「ある、だいたいの意味が分かる」「あるが意味は少し自信

がない」「あるがほとんど意味が分からない」「(聞いたことが) ない」の4段階を選択してもらった形で尋ねている。不適切な保育という言葉を知っている者はやはり100%だった(「ある、だいたいの意味が分かる」「あるが意味は少し自信がない」「あるがほとんど意味が分からない」のいずれかを選択した者の割合)。不適切な保育という言葉の意味がどの程度分かるかについては、「だいたい意味が分かる」が57.6%、「あるが意味は少し自信がない」が35.6%、「あるがほとんど意味が分からない」6.8%で、「不適切な保育」という言葉自体の認知度が非常に高く、その言葉の意味の理解度がある程度高いことが明らかとなった。

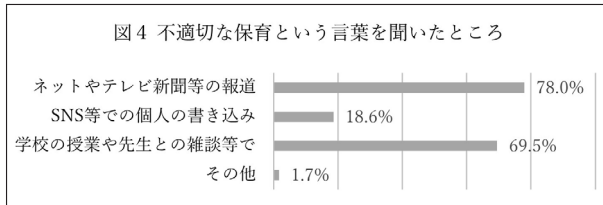
図3 不適切な保育という言葉を知っている



### (2) 不適切な保育という言葉を知ったところ

不適切な保育という言葉を知ったところ全て選択してもらったところ、最も多かったのが「ネットやテレビ、新聞等の報道」で78.0%、次いで「学校の授業や先生との雑談等で」が69.5%、「SNS等での個人の書き込み」が18.6%。その他1.7%は「幼稚園で働いている母から」という回答であった(図4)。マスメディアと学校から主に情報を得ているというのは想定通りであったが、SNSでは情報を得た学生は思いのほか少ない結果であった。

図4 不適切な保育という言葉を知ったところ

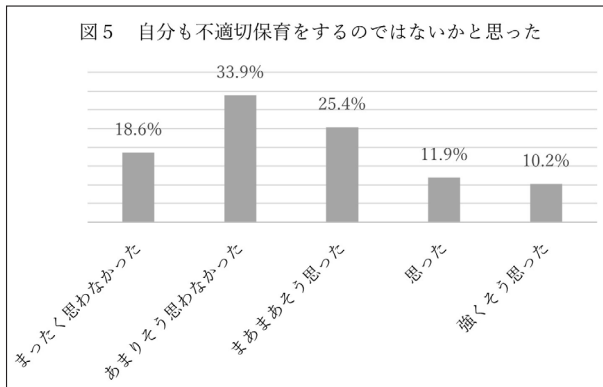


### (3) 不適切な保育という言葉を知ってどのように感じたか

#### 1) 自分も不適切な保育をするのではないかと思った

あなたは不適切な保育の話題を耳にしたとき、自分も不適切な保育をするのではないかという気持ちがある程度起こったかを尋ねた(図5)。そう思った程度の強いものから順に、「強くそう思った」が10.2%、「思った」が11.9%、「まあまあそう思った」が25.4%、「あまりそう思わなかった」が33.9%、「まったくそう思わなかった」が18.6%であった。最も多かったのは「あまりそう思わなかった」33.9%である。一方で「強くそう思った」から「まあまあそう思った」までのそう思った程度に差はあるものの、自分も不適切保育をするのではないかと思ったという回答を合算すると47.5%である。あま

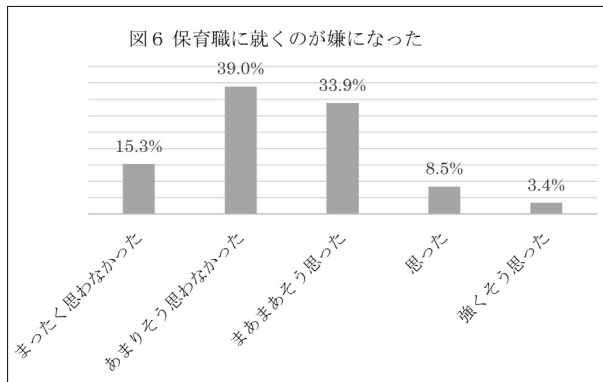
図5 自分も不適切保育をするのではないかと思った



りそう思わなかったという割合が最も多いものの、半数近くが不適切な保育の話題を耳にして自分も不適切な保育をするのではないかと気持ちにある程度なったという回答は非常に多いと考える。しかしながら、今回はアンケート方式であるため、聞いたときの感情については今後インタビュー調査で深く探っていく必要があるだろう。

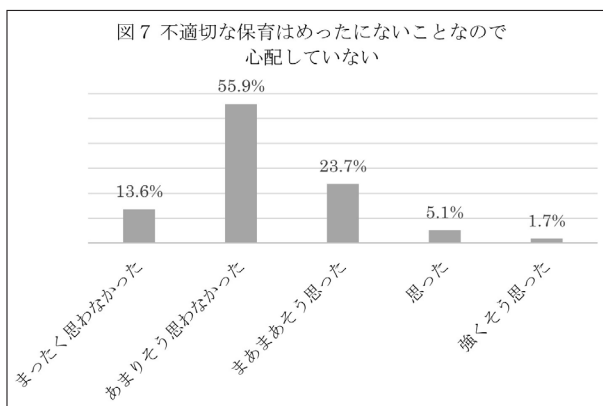
## 2) 保育職に就くのが嫌になった

不適切な保育の話題を耳にしたとき「保育職に就職するのが嫌になった」という気持ちがどの程度起こったかについて尋ねた(図6)。「強くそう思った」が3.4%、「思った」が8.5%、「まあまあそう思った」33.9%、「あまりそう思わなかった」が39%、「まったく思わなかった」が15.3%であった。一方で「強くそう思った」から「まあまあそう思った」までの、そう思った程度に差はあるものの不適切な保育の話題を耳にして保育職に就くのが嫌になった者は45.8%である。半数近くが不適切保育の話題を耳にして保育職に就くのが嫌になったといえ、これも看過できない結果である。一方で、その中では「まあまあそう思った」者が大半を占め、「強くそう思った」と思った者は数字としてはそう多くない。これは保育学生が調査対象であるということが影響している可能性があるのではないだろうか。つまり、不適切な保育の話題を進路決定前に耳にし、それにより就職するのが嫌になった者はそもそも保育学生になっていないということも考えられるだろう。この点については先にも述べた通り、インタビュー調査により聞いた時期とそのときの感情を調べてデータを補完していく必要があるだろう。



学生が調査対象であるということが影響している可能性があるのではないだろうか。つまり、不適切な保育の話題を進路決定前に耳にし、それにより就職するのが嫌になった者はそもそも保育学生になっていないということも考えられるだろう。この点については先にも述べた通り、インタビュー調査により聞いた時期とそのときの感情を調べてデータを補完していく必要があるだろう。

## 3) 不適切保育はめったにないことである



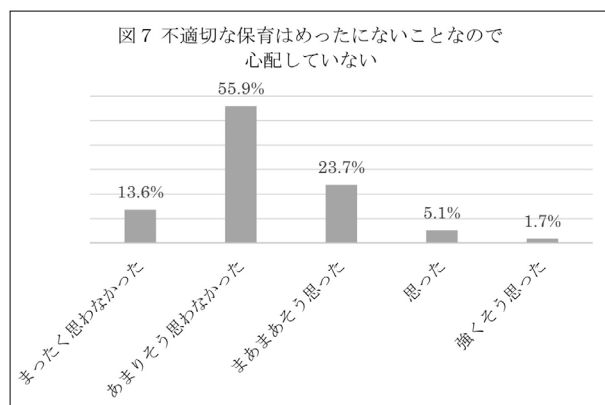
不適切な保育の話題を耳にしたとき「不適切な保育はめったにないことなので特に心配になったりはしなかった」について尋ねた(図7)。「強くそう思った」が1.7%、「思った」が5.1%、「まあまあそう思った」23.7%、「あまりそう思わなかった」が55.9%、「まったく思わなかった」が13.6%であった。「あまりそう思わなかった」という者が最も多く、不適切な保育は身近な問題であると捉えている者が多いことが分かる。

## 4) 不適切保育をしない先生になるよう頑張ろうと思った

不適切な保育の話題を耳にしたとき「不適切保育をしない先生になるよう頑張ろうと思った」という気持ちがどの程度起こったかを尋ねた(図8)。「強くそう思った」が76.3%、「思った」が16.9%、「まあまあそう思った」が3.4%、「あまりそう思わなかった」が3.4%、「まったく思わなかった」が0%だった。「不適切保育をしないよう先生になるよう頑張ろうと思った」が最も多かった。

これは学生たちが不適切な保育をしたくないというだけでなく、不適切な保育がどのような状況で発





生するのか、あるいは防止策について興味をもっていると考えられるだろう。不適切な保育の防止方法にはこども家庭庁がその発生要因や対策を明らかにしつつあるので、それらを学生に伝達していくことは効果があるのではないだろうか。

### まとめと今後の課題

保育学生がどのように不適切な保育の報道や情報を受け止め、将来の道をどのように考えているのか、保育者養成校として学生たちの思いや希望に学問としてどのように寄り添えるのかということを目指して調査を行った。

調査の結果、不適切な保育という言葉を知らない学生は一人もおらず、学生らの多くはマスメディアや学校の授業でその言葉を聞いていた。約半数の学生が不適切な保育という言葉を知り、保育職に就くのが嫌になったり、自分自身も不適切な保育をしてしまうのではないかと恐れたりしていた。また、不適切な保育は身近で起こりえることだと捉えている者の割合も6割を超えており、学生たちが不適切な保育を身近な問題と捉えていることが分かり、これは見過ごせない数字である。一方で、不適切な保育をしないために頑張りたいという意欲も非常に高いことが明らかになった。学生たちが質の高い保育をしたいという意識の高さが表れている。これらのことから、保育者養成校の教員は不適切保育について学生に情報と与える際には不適切保育の背景や対策そして防止策などがあり検討が続けられていること、こども家庭庁のガイドラインや通知を踏まえた内容を併せて学生たちに伝えることの大事さを感じる。

不適切な保育という言葉自体は2021年3月に発表された「不適切な保育の未然防止及び発生時の対応についての手引き」から使われるようになった言葉である。そのため、今回アンケートを実施した2023年11月までの間のいつ不適切な保育の情報を得たのか、その時期に最大2年8か月の差がある。また、アンケートが授業評価に影響しないことを文面と口頭で伝えたが、記名式で実施した為に模範的な回答をしてしまった者もいると思われる。今後はインタビュー調査を実施し、不適切な保育の情報を得たときにどのような気持ちが起こったのか詳細な聞き取りが必要であると考えている。

また、今回の調査対象者は2023年4月に保育学科に入学しており、それは不適切な保育という言葉が生まれて広まった後に保育士養成課程を志した学生たちということがいえる。ということは、それを知っておく保育業界に夢や希望を抱いている者たちであると考えられる。いわば不適切な保育という言葉を乗り越えた者たちが多く含まれている(当然入学後に不適切な保育を知ったという者も一定数いるであろう)。

## 引用参考文献

- 大津泰子「保育士養成校における学生の就業意識に関する一考察 ―短期大学保育学科生のアンケート調査から―」近畿大学九州短期大学研究紀要(51), pp.15-27, 2021.
- 株式会社キャンサースキャン「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業報告 不適切保育に関する対応について」
- 株式会社キャンサースキャン「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 不適切保育に関する対応について」鏡文
- こども家庭庁「保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」(令和5年5月)
- こども家庭庁「保育所等関連状況取りまとめ(令和5年4月1日)及び「新子育て安心プラン」集計結果」概要資料
- こども家庭庁 文部科学省「「保育所等における虐待等の不適切な保育への対応等に関する実態調査」の調査結果について」令和5年5月

## 脚注

- 
- i こども家庭庁「保育所等関連状況取りまとめ(令和5年4月1日)及び「新子育て安心プラン」集計結果」概要資料
- ii 株式会社キャンサースキャン「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 不適切保育に関する対応について」鏡文
- iii 株式会社キャンサースキャン「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 不適切保育に関する対応について」鏡文
- iv 手引きに示された不適切な保育の行為類型(1)子ども一人一人の人格を尊重しないかかわり、(2)物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ、(3)罰を与える・乱暴なかかわり、(4)一人一人の子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり、(5)差別的なかかわり
- v 不適切な保育の具体的な行為類型は、①子ども一人一人の人格を尊重しない関わり ②物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ ③罰を与える・乱暴な関わり ④子ども一人一人の育ちや家庭環境への配慮に欠ける関わり ⑤差別的な関わり、である。
- vi こども家庭庁「保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」(令和5年5月)
- vii こども家庭庁「保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」(令和5年5月)(pp.6-7)
- viii こども家庭庁「保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」(令和5年5月)(p.7)



---

令和6年2月20日 発行

発行者 **香蘭女子短期大学**

〒811-1311 福岡市南区横手1丁目2番1号  
TEL 092 (581) 1538 (代)  
FAX092 (581) 2200

印刷所 社会福祉法人 福岡コロニー  
〒811-0119 糟屋郡新宮町緑ヶ浜1丁目11番1号  
TEL 092 (962) 0764

---

# Bulletin of Koran Women's Junior College Vol.66 2023

---

The importance of observation and appreciation activities in early childhood art education – Through the drawing of apples by nursery school children – .....Eitoku SUGIMORI.....	1
Launching a 3D Computer Graphics Course and Its Future Prospects .....Makoto SUDO.....	12
Quantitative analysis of vitamin C in fruit and vegetable beverages .....Takayoshi YAMAGUCHI.....	16
Practice Reports of Problem-Solving Internships.....	Tomoichiro INO.....22
Social Support Traits of Female Junior College Students.....	Sachiko TOYA.....30
Utilization of the Brown Rice Paste.....	Tsutomu KITAHARA.....35
The Study of Delicate Matter for Kindergarten Teachers and Nursery Teachers – Comparing Current Teachers and Students – .....Hisashi HAMADA.....	44
Revenue Recognition of Apparel Companies – About new Revenue Recognition Standards – .....Kaoruko AOYAGI.....	53
Nutritional activities at agricultural direct sales stores – Consideration of nutritional support for customers – .....Hiroko ASOU.....	63
An Attempt at Experiential Learning of Interpersonal Relations.....	Miho UMEDA.....72
Understanding the Measurement and Drivers of Change in Generic Skills .....Kumiko IWAMOTO.....	82
Approaches to the Study of teaching materials for teaching practice .....Aiko TERACHI.....	92
Impact of Abuses at Child Care Coverage and Information on Childcare Students .....Megumi MIZOTA.....	102

---

Published by  
Koran Women's Junior College  
Fukuoka, Japan